

自立した女と男を  
人間らしい生活を  
差別のない社会を  
育み 創り出す

## 新しい家庭科

# ウイ

く  
ら  
い  
の  
論  
理  
を  
創  
る

1989

1

逐次刊行物

昭 63.12.22 和

国立婦人教育会館

婦人教育情報センター



## 四季のうた



晴れ着

きり絵と文 金子静枝

きものが暮らしから離れて久しいけれど、せめて一枚手許に置きたいのが女心でしょうか。

## 卷 頭 詩

### 手

幼い孫娘を相手にしていると

ふと

時間というのは全く動かないのではないかと思います  
自分の娘を相手にしたのと全く同じことを わたしは  
孫娘の上に重ねているときがあります

そしてふっと思い出すと

わたしは母が好きで好きで母と手をつないでいた  
それを

場所を変えただけで孫娘が

からだ全体であらわしていまわたしの手をにぎっている  
そう思います

羽 生 槇 子

# 新しい家庭科



## 特集 くらしの論理を創る

インタビュー●吉沢久子さん(インタビュアー半田たつ子) ————— 4

—「美意識」とは、自分の生活にとって大切なものを選択する能力—  
 生活を奪う「かたち」と「かたち」を生む生活 ●寺内定夫 12  
 くらしと政治を結ぶ ●池田あつ子 16  
 目の前の現実から学ぶ—目学問 ●松本キミ子 20

## 発言

人と人とのかわりを ●水島睦枝 24  
 子どもと共につくるくらし ●有吉有巳子 26  
 私は名札が嫌いです ●かなもりゆづか 28  
 農がめざすものは何か? ●多々良肇 30

●学習の主人公たち ————— 34

こんなくらしがしたいな/神戸市立横尾中学校一年生

## 新しい家庭科を創るために

小学校では/ N君に見る成長の飛躍 ●北川好美 42  
 中学校では/ 共学の道のり ●常陸れい 47  
 高等学校では/ 住まいと人権 ●浅井由利子 51

◆投稿 教育に点数はいらない—評価をするのはだれのため? 竹見智恵子 38

◆こだま 「強者の論理」をめぐる(3) 56

◆情報 蕨山高校入試差別, 家庭科男女共修

—衆議院文教委員会で取り上げられる ————— 93



## 連載

○四季のうた 金子静枝 ●ひと 塚越敏雄さん 33

巻頭詩 / 手	羽生棋子	1
海の輝く日 / ピーグのその後	佐藤通雅	60
今、子どもたちの世界は / 「劇の世界」	塚越敏雄	62
経済の目 / スウェーデンの教育福祉から日本の現状をみる	福島澄香	64
ダブル・ポケット / パムとダンの場合 その4	國信潤子	66
歴史の窓 / 看羊録 <small>カンヤンロク</small>	岡百合子	69
KNOW HOW 共学家庭科 / 共学家庭科への糸口 その2	湯沢静江	70
ワンポイント 近代日本女子教育史 / 「女性学」の出現と発展	秋枝蕭子	71
女、そして男 / クズワヨさんの発言	田川建三	72
不思議の国ニッポン / 高校	クレイトン・ナフ	73
青春 ZIGZAG / 「童話作家志望」の寺内真知子さん	稲邑恭子	74
もうちょんぼ、がんばらいやー / 「お月さんと太陽さん」	梶野良平	75
はなにっき / まつ 新古今和歌集	藤尾知子	76
よそおい	内山裕子	77
波 / NHK特集「教育は変えられるか」の失敗	半田たつ子	78

○イキイキぐるうぶ 59 ○今月の読書から 80 ○泉 81  
 ○わたくしからあなたに 82 ○Weの読者会だより 84 ○編集室からあなたに 85  
 ○Weになんでも言おう なんでも聞こう 86 ○十字路 88 ○あてな 95

「美意識」とは、自分の生活にとって  
大切なものを選択する能力

## Interview



吉沢久子さん

青梅街道から南に入って見つけ  
たおすまいには、今も「古谷」の  
表札。お約束の時間にはまだ早い。  
古谷綱武氏の詩を思い一巡する。  
美しい午後だ／私は庭下駄をつっ  
かけて／裏の方に出てみた／クロ  
ーバーの／いっぱいしげったなか  
に身を埋めて／イヴエン・デュリ  
ンをよんだ／つかれた眼で空を見  
た／高い空一面のうろこ雲／私は  
背に大地の冷たさを感じながら／  
無限を仰いだ『人生ノート』よ  
り。

隣りは都留文科大学学長上田薫  
氏宅。斜め向かいに谷川俊太郎氏  
が住む。文人墨客と同じ空気を吸  
い、別人になりすましてチャイム  
を押す。にこやかに応え下さった  
吉沢さんの言葉は、ほれぼれす  
るほど、美しく歯切れよかった。

●インタビュー

半田たつ子

一九一八年、東京都生まれ。  
文化学院卒。伝統的  
な技術や知恵を大切にし  
ながら、現代の生活に適  
合した生き方を提案する  
生活評論家として、幅広  
く活躍。夫君古谷綱武氏  
(一九八四年没) ととも  
に始めた勉強会の同人誌  
『むれ』は十九年を迎え  
た。著書に『ひとり暮らし  
の知恵』『暮らしを守  
るお金の知識』(以上大  
和書房)『新おつきあい  
事典』(朝日新聞、共著)他

### ●古谷綱武氏のこと

——古谷綱武先生がお亡くなりになって、もう四年になりますか。私はごく若い時から、遠くから古谷先生を仰ぎ見ていました。ですから、竹見智恵子さんが三十八歳の時、「人生半ば、友達は何を考え、何をしているかな」、と思い立ててやった調査結果を、古谷先生に見ていただいたと聞いた時、古谷先生って、そんな気さくな方なのって驚きました。また古谷先生のご批評は、私が抱いた感想と同じだったと知って、とてもうれしかったんです。

吉沢 そんなことがありましたね。でもこのことがご縁になって、竹見さんは、私たちの勉強会に入られ「むれ」の同人になりました。いまは、とてもいい仕事を重ねていらつしやいますね。

——私もこのことがご縁で竹見さんと親しくなりました。

吉沢 古谷が亡くなった時は七十五歳でした。よくお酒も飲みましたから、もう少し若い時、人間ドックに入ったこともありました。でも、「あんな所は絶対イヤだ」と言っていましたので、私としましては、人間の尊厳という意味から、もっと体力がなくなり、自由がきかなくなつてからでは、本人もつらいだろうけれど、いろいろな本を読んで、みなさんにすすめたりできるうちに、よかつたかもしれないと……。亡くなりました今では、そう考えることにしております。

### ●「おつきあい事典」のこと

——朝日新聞日曜版の「おつきあい事典」のご解答は、高見澤たか子さんとの対比もおもしろくて、ずっと愛読してまいりましたのに、あの欄がなくなつたのは、とても残念でした。

吉沢 本二冊ぐらいになりました。私たちとしては、新しいきあいのための、生活の姿勢に重点をおいて書いていたつもりですが、反響としては、「お墓をどうしたらいいか」など、具体的な問いあわせが多かつたようです。私たちの耳に入る言葉は、もつと根本的なことを書くようにと言われてしまったけれど。新聞社に届いた声が、即反響というのではないでしょうが。あまり具体的なハウツウだけを取り上げていても、いつまでたつても、キリがないし、結局は自分で考えない人を作ることに思うのですが……。

——私の雑誌も、地味なところをついていこうとすると、クライイ、オモイイ、シンドーイと言われて、明るく、軽く、おもしろく、すぐ役に立たなければ、などと注文もつけられます。でも、私は、こういう時代に、あえて時流に乗らずに雑誌をつくることのほうに、私の存在の証のようなものを見出しているのですけれど。

吉沢 そうでございますね。学校の先生までその傾向があるなら、「教育」はどこかへ行つてしまいますわね。

## ●「家事」と女の生活

吉沢 このごろごく若い人たちの中に、家事について正式に知りたい、というような要求が出てまいりましたね。それは、若い人のお母さんたち、私より少し年下の層にあたりますか。髪ふり乱して一心に仕事も家庭もとやってきました。そういうお母さんを見ていて、ああはなりたくない。むしろ、亭主のお尻ひっぱたいてお金稼がせて。自分は家で家事やっていたほうがラクチンだわってという考え方が出てきたようなんですね。そうなる、「私は家事を正式に知っているのよ」と胸を張りたい。正式にとか、基礎的に、とかいうのがはやっていっているんですよ。いま、私への仕事の注文は、そういう種類のものがふえているんですよ。

私は、「家事はできるだけ合理化し、家族みんなでやるのがよい」という方向でやってきましたのに、どうも、女の人にはかり仕事と家事二重負担がかかるんです。だから若い人が「イヤ！」って言うのかもしれないね。

私たちの時代は、仕事と家庭を両立させるには、男の三倍もがんばらなければなりません。それが若い人たちに、ラクチンの方をとるように伝わっているのかしら。それと、育児の話題に、男は全く出てこないんですね。例のアグネス論争なども、男の人をあまりひっぱり込んでいませんね。

## ●男を家事・育児に登場させる

——仙台の高校の男の先生で、幅広く活躍していらっしゃる方が、過労から体調を崩された時に、ふと考えついて編物を始められたんですね。二本の編棒を動かしてものをつくり出すということは、人間の太古からの営みを思い、哲学的な問題を考えめぐらしたり、実に楽しい。編物を手ほどきしてくれたおつれあいに、白薔薇を編みこんだ五作目の黒いセーターをプレゼントした、ということです。証拠写真を入れて、とても温かな文を送ってきて下さいました。だから、こういう営みって、男の人にとっても、人間性回復のためにとっても重要な働きをすると思うんですね。

吉沢 へーえ、素敵な話ですねえ。古谷も申しておりますが、兵隊に行って、自分のほころびをつくろわなけりやならない時、針を布に刺す感覚って、こんなに平和なものだったかつと、つくづく感じたというんですね。

佐多稲子さんが、まだ窪川鶴次郎さんとからしていた時、古谷が窪川さんからきいたといっていました。「うちのおいねさんは、原稿が忙しくなると、急にパアツと縫いものを始める」って話されたそうで、それを思い出して「この感覚は、心を鎮めるのに大切なものなんだなあ」って、古谷はよく申しております。確かに手仕事の平和な感覚っていうのはございますね。



私、編物はできないんですけど、つくろい物なんかをします時に、流れていく時間っていうものを、いいなあつて思うことございますね。

——ですから、家事の本質を身につけてプロの主婦を目ざそうという優雅な方たちの中からも、新しい文化が生まれるなら、それはいいことですね。ただ男を働かせて、ラクしちやおうというのでは、どうかと思いますけれど。

吉沢 今の時代に合った、本格的な家事が身につく、古い時代のよいものが伝承されていくなら、それもいいと思います。ただ、やるのが家事しかないというのでは困りますけれど。私など、原稿がどうしてもうまく運ばない時は、鍋一つ磨いて気分転換したりして。そういうことを「家事に遊ぶ」って言ってきましたけど。そのうちに、家事を考えることが仕事みたいになってしまいました。家庭を持っていれば、当然家族にも食べさせなければなりません……。古谷が四十代で大病しました時も、工夫して、せつせと食べさせました。九十六歳まで元気だった姑も、私の作るものは滋養があるからと、みんな食べてくれました。もともとは、速記者として出発しましたし、栄養士でもあったので、「原稿」ということから離れられずにきたのですが……。

### ●「アグネス論争」について

——若い方が家事を本格的に学びたいと言われるのは、う

れしいことですが、やはりどう生きるか、どうくらすかというバックボーンがあつて、その上でならいいのですけど。それがありません、ただあれこれと断片的に身につけるのでは空しいですね。

吉沢 ほんとうにそうですね。私などは、女も対等に働けるようになったことがうれしくて、仕事も家事も夢中にこなしてきました。でも、その中で一つの後悔は、男の人にも同様にやれということ、要求しないでできてしまったことです。私の場合、古谷は夫でしたが、私にとって指導者でもあったんですね。それで、くらしの上での理屈をはっきりつけて、古谷にもやらせるといふことを要求しないでできてしまいました。古谷は、そういうことを一応、わかつてはおりました。ですから私は、古谷のことを「封建的フェミニスト」なんて呼んでからかっていたんです。私は半分昔人間だったので、男も家事をと夫に言うことができなかったと同時に、それをしたらわが家は続かなかつたかもしれません。でも、これからの若い人は、その辺りをきちんと押さえてほしいと思いますね。

話題になつていゝ「アグネス論争」から、私もいろいろなこと考えました。以前、原ひろ子さんの講演を聞きに行ったことがあるんです。原さんは、お子さんづれでいらつしやつて、お子さんもおとなしく、お母さんの見えるところで遊ん

でいらっしやるのね。北海道大学で女性学をやっていらっしやる岡田純子先生も、ご夫妻でよく発掘に行かれるんですが、純子先生も赤ちゃんおぶって発掘したり、岡田先生も、よく赤ちゃんのめんどろを見たり、実に自然にやっていらっしやるのを、いいなあ、と拝見したことがあります。

だから、アグネスが子どもを連れて行ったということだけを、どうこう言うのでなく、父親も当然かわらなきやいないし、父親のかかわりようということが論点の中に入っていれば、もう少し違った形に発展したと思いますね。それが家庭のあり方として定着していけば、夫婦のありようとか、教育の姿とかも変わっていくでしょうね。どっちがいいとか、悪いとか言うことではありません。こんな発展のさせ方をしたマスコミにも責任があります。

——ほんとうに。やゆ的に取り上げたり、挑発的にけしけたり、おもしろがっているところがありましたから。

吉沢 これをチャンスに、みながもっと地味に働く夫婦と子育ての問題を掘り下げるように持っていかなければいけませんでしたね。

戦争が終わってまもなくの頃、古谷が紡績工場に話に行ったことがあるんです。私ついてまいりましたら、工場には、ちゃんと授乳のための部屋があって、姑さんたちが時間になると赤ん坊を連れてくるんですね。女が働くことが求められ

ていれば、授乳室ができるんです。もちろん、いまの満員電車に、赤ん坊を連れて行くことは到底できないということであれば、地域に安心して赤ん坊を預けられる場所を作らなければならぬ。これは、当然男もいっしょにやらなければならないことなのに、女だけの問題みたいになっているのが、「いま」なんじゃないでしょうか。

### ●「美意識」ということ

——先生のお書きになるものは、伝統的な、大事にしなければならぬものが入っていて、しかも新しい。そこが非常に貴重な方だと思うんですけど。

吉沢 いいえ、そんなことはありませんが、何なのでしよう。自分の生活への「美意識」みたいなものじゃないかなって思っています。古いものにも好きなものがあり、それは今の時代においてみても、決して悪いものじゃないんですね。だったら捨てる必要はないんじゃないか。自然に取捨選択しているというの、私が戦前と戦後を生きるところからきているのかもしれないね。もっとも戦後の方が長いんですけど。

うちの姑は、戦前を長く生きた人ですが、私よりも、もっと戦後のなんですよ。外交官夫人でしたから、日本のものより外国のもののほうが好きだったらしい。

——まあ、ハイカラでいらっしやったんですね。

吉沢 そうなんです。そして古谷っていう人は、精神的に

豊かになるもの、本はいくらでも買い、何かを見に行ったりすることにはお金を惜しまない人でしたが、すまいや着るものなどには、ぜいたくをしようとしませんでした。合理的で最小限必要なものがあればいいって。私は、古谷に飼いならされてしまったのかもしれないんです。私が「美意識」というのは、自分の生活にとって、これは大切だけれど、あれはどうでもいいって選択する能力のようなものなのです。

——美意識といいますが、へんに気取った高尚ぶった趣味人のそれを指すのではなくて、自分が生き、くらす上での選択眼ということですね。

吉沢 そうです。毎日使うお茶碗なんかは、きれいなもの、好きなものでなければいやなんです。きれいなものは使わないとか、要・不要がはっきりしているということでしょう。私は、そういう意味では、高見澤たか子さんの美意識も、とても尊敬しているんですよ。

——お二人のご共著にしても、朝日新聞で六年間も続いた「おつきあい事典」でコンビを組まれてのご解答にしても、とても息が合っていらいと羨ましく思っていました。

吉沢 そうなんです。お相手が互いに張り合うような人だったら、とても続きません。高見澤さんは、若いけど、私はとても尊敬しています。古谷が始めた「むれ」という機関誌の同人でもありますし。今はお宅も割合近いし、こういうお

つきあいは、古谷が遺してくれた財産のように思っております。

### ●人と人とのつきあい

吉沢 私は、あまり人づきあいというのは広い方ではないのです。人と人とのつながりというのは、おつきあいは沢山の方としていても、裸でつきあえる、何でも出しあえるという人は、そんなにたくさんあるものではありませんね。ただ人とつきあう上でいいところを一生懸命見ようと思いますね。

悪いところは、誰だってわかってはいるんです。ですから、そういうところは見なくてもいいって思っているんです。古谷も「悪いところは見えても見えない」ってよく言いましたが、私も性格的にそういうところがありますのね。

私は今七十歳なんですけど、この歳になると、つきあう方はほとんど年下で、学ぶのも年下の方からですね。私は若い人とのつきあいのほうが好きで、そのほうがたくさんいただくものがありますね。

——やはり、それが精神の若さなのでしょうね。

吉沢 そうかもしれません。心底わかりあうことは難しいですね。夫婦だってそうですもの。もちろん適当につきあえというわけではないのですが、好んで波風を立てずに、いいものを見つけて、自分の心のやしないにいただくということですね。私は、性格的に、小さい時からあまり争ったこと

がないし、仕事の間でも、人と争ったり競争したりしたことはありません。家の中で、男と女が共にくらす場面では、「こん畜生」と言いたいこともありました。こういう時、自分との闘いがあったと言えるのかもしれませんがね。

### ●地域の風習に学ぶ

吉沢 私は、母親からはあまり受けついでこなかったのですが、古谷と一緒にくらすようになり、戦時とも重なっていましたので、こういう時代には、こんなことをやっておこうということで、二人で地方を回りました。土地のおばあさんから、いろいろと聞き書きをしたんですね。そのことが私にとっては財産になっています。掃除の仕方、口のきき方、御飯の食べ方から神様のまつり方まで、おばあさんたちから聞いたのですね。小さい時とは違って二十を過ぎていましたから、学ぼうと思って聞いたことが全部生きたんでしようね。学ぼうと思ったから学べたという意味ではついていたのでしょうか。

### ●今が一番自由

——古谷先生とはどのくらいご生活をなさいましたか。

吉沢 結婚する前、仕事を手伝っていたり、古谷が戦争にとられたあと、家を見ていたりという頃から数えますと、四十年です。亭主閑白に、たいした反発もしないで、一生懸命やってきましたから、今一番自由ですね。

外に出ていても、夕方になると仕事でさえソワソワしていましたが、今は何時になっても、家に電話をかける必要がないというだけでも、ほんとうに解放感がありますね。古谷は生活人ではないのですから、私がいなくなったらどうしよう、それがとても不安だったようです。妹によく笑われました。「お姉さん、帰る予定の時間をもう少し遅く言えればいいのよ」なんて。私がまた、仕事は何時に終わるから、何時には帰るって言ってしまふものですから、三十分も遅れるとイライラしていたようです。

古谷は何も家事ができませんでしたから、私がいないと不便なんです。ともかく一日でも後に残れ、というのが至上命令でした。その意味では、私はいま人生で一番自由です。一生懸命やってきたからこそ、サバサバとそう言えるのかもしれませんね。

長い間、一緒にくらししてきましたから、会話でも、名詞を言わなくても「ホラ、あれ」で通じるものが多いですね。そういう関係って、めったにありませんから、淋しくないことではありませんよ。しかし、いないなら、クヨクヨしているのではなく、解放感でのびのびしていますよ、と他人にも言い、自分でもそう思うことが必要なのでしょうね。

——吉沢先生は、ほんとうにものごとを肯定的にとらえられるんですね。

## ●家庭科に望む

吉沢 家庭科で、ただカレーライスを上手に作ることでだけ  
を目標にするのはつまらないですね。

——目の前にいる生徒一人ひとりに家庭・家族があり、と  
り囲んでいる環境があるのですから、家庭科では、そこから  
問題を掘り出せばおもしろいの、日本中一つのパターンに  
はめようとしたら、とたんにおもしろくなくなります。

今日も、家庭科の先生からお手紙をいただいたのですが、  
「高校生の年ごろだったら、当然したいと思うような、制服を  
ちよつと崩してカッコよく着こなすこととか、夜コンサート  
に行くこととか、親や教師に反抗することとかは、すべて校  
則違反とみなされる。それでは、生徒があまりにも気の毒だ  
という私などは、学校の中ではじかれる」というのです。

吉沢 なぜいけないのかも知らせずに、単に校則だからと  
いうので、拘束するのは、今の世相とも考えあわせる時、こ  
わいことですね。自分たちが飼いならせるように育てるとい  
うのは。ですから、ハウツウで物を教えるというのはダメで  
すね。

——十二月号の「学習の主人公たち」で、「私の着たい服」  
について書いてもらいましたら、男の子もびっくりするほど  
おしゃれなんです。こんなおしゃれ心があるのに、それを制  
服でしめつけているのは、気の毒だ、と心から思いました。

## ●人生の先輩に恵まれるということ

(ここでピンポンとチャイムが鳴る。谷川俊太郎氏のう  
ちのお手伝いさんが、栗の含め煮をタッパに入れて届け  
られる。まだあたたかい栗をおすすめ下さって)

吉沢 今朝、お豆の煮たのをお届けした器を返して下さっ  
たのです。俊太郎さんのお母様に教えていただいたお料理  
を、谷川徹三先生が召し上がりたいころかなって、ときにお  
持ちしたりしてるんです。谷川先生の奥様は、四年七か月寝  
ついていらつしゃって、亡くなられた四日後に古谷が息をひ  
きとりました。「おばあちゃん、飲み友達に古谷さんがいて  
喜んでいられるかもしれないね」なんて俊太郎さんも話してい  
らつしゃった。料理その他のことでも、私は俊太郎さんのお母  
様には本当にいろいろ教えていただきました。

——いま、忘れられてしまったようなご近所づきあい、  
ちゃんと生きていますのね。私の子どものころのご近所づき  
あいが、人生の先輩によって、今も続いているというのは、  
心和みます。

吉沢 うちのおばあちゃんも、私にとってはいい先輩でし  
たから、その意味で、私はいろいろな人とおつきあいに恵  
まれていたと思います。

——ほんとうに、いいお話をありがとうございました。

## 特 集

◆くらしの論理を創る

# 生活を奪う「かたち」と

## 「かたち」を生む生活

寺 内 定 夫



### 形が生活を束縛する

世界初というペーパーウォッチが売り出されています。文字通り紙の時計です。紙といっても機械部分まで紙でできているわけではありませんが、四百八十円ですから遊び心をもった使い捨ての時計と考えられています。しかしこのペーパーウォッチを完成させた現代テクノロジーが、時間を使い捨てにする風潮に加担しているように感じられます。

使い捨て商品は簡便廉価の魅力と、時間や労力をより有効な生活に活用できる利点の一方で、紙オムツのような大量消費の無駄や地球資源の浪費などの社会問題を抱えています。

そして物を惜しげもなく捨てる感覚が、生活価値観を変貌させてきました。

その一つが時間の観念ではないでしょうか。生活を営んでいけば当然のことに時間がかかります。ところが「この頃忙しくて」とか「お忙しいのにわざわざ」という言葉が、挨拶の枕に必ず使われるようになってから、どうも一つ一つの生活時間が短くなり、全体の時間がコマ切れになってきたように思われます。

生活時間を短縮した分だけ、他の生活に有効に転用されていれば喜ぶべきことなのでしょうが、時間の節約がもとの生活の充実を犠牲にしているなら、アブハチ取らずということになりましょう。

時間の合理化が時間をコマ切れにしたため、生活が時間を使うという原則が崩れ、時間が生活を規制するという逆転現象が進行しています。生活の内実よりも時間という外形が優先してきたと言えましょうか。内が外なる形をつくるのが生活であつたのに、形が内を束縛してきたのです。

たとえば風呂敷は包むべき内容によつて、その包み方・結び方・大きさと形が決まります。ところが先に形や大きさが決められていては、随分不自由なことになるのではないのでしょうか。カバンと風呂敷の合理論争は古くて新しい問題ですが、現代の私たちはコマ切れ時間という小さなカバンをたくさん持ち過ぎているのではないのでしょうか。

コマ切れ時間という学校の時間割を思い出します。今回の指導要領の全面改訂について論じ合うにしても、子どもが人間として何を学ぶかという命題を語り合うつもりなのに、いつの間にか教科の時間的割りふりのことになってしまふのは、学校教育の宿命でしょうか。

学校給食のことでも、食事のおいしさや楽しさという心の栄養よりも、何分までに食べられるかが課題になり、時間内に食べ切れない子は問題視されます。私が教師を対象にした工作教育講座で困惑するのは、一時間以内で教えられる実技指導を依頼された時です。工作内容よりも時間が重視される

傾向には、正直なところ腹立たしい気持になります。

量よりも質という考えは正当であり、長いよりは短い方がよいとか、時間通りの予定の行動などというのも生活の知恵には違いありません。しかし計画出産の知恵が普及し、出産予定の希望がかなえられるのは好ましいのでしょうか、正月三が日や夜中の時間を意識的に避けるために、出産の日時を指定して陣痛促進を計るなどという例は、時間のために自然の姿を軽視し過ぎるように思われます。

このような時間重視の思想が強まると時間に振り回され、生活のおおらかさが失われてしまいそうです。ペーパーウォッチのように安価で機能的な商品は歓迎されますが、それが生活内容まで安物にしてしまうとしたら喜ばません。

### 軽薄短小文化

ペーパーウォッチは、現代産業が目指した軽薄短小文化の流れをくむ商品です。軽薄短小文化の象徴はカード化ですが、これには電卓カード、カード食品、放送局別のカード・ラジオなどがあります。時計やラジオのカードなどは、実物を見なければ想像もできないような商品です。

クレジットカードやテレフォンカードなどは、すっかり若

者のファッションの一部にさえなりました。しかし生活用品の形態がカード化するのには、実際生活が求めてきたことでしようか。いまでこそ軽くて小さいから便利で合理的などと理解していますが、このような形は生活要求よりも、産業要求がはるかに強かったはずです。

もともと生活道具の形は、一般的に重厚長大なものでした。それは第一次産業のように、常に自然と対峙しなければならぬような生産と生活を営む時に、自ずから生まれ磨かれた形です。自然の脅威に立ち向かい、自然と共に生きていくには、どっしりした形や大きさが必要だったからです。

かつては生活内容が道具の機能や形を決定づけました。生産技術や生活文化が進歩発展するうちに、スピードや軽快さ、コンパクトな合理性なども追求されましたから、機能や形態にも変化が生じました。けれども、生活や生産の主体性を人間自身が維持し主張している間は、生活道具などの形は生活の内実に従っていました。そうでなければ道具の価値がないと考えられていました。

ところが現実の生活が考えもしなかった道具が氾濫し、生活者が消費者に変化して以来、生活が道具に合わせる傾向が強まりました。それを生活の合理化と呼び、産業が開発した商品の恩恵を享受する社会になりました。生活の主体性が内

から外に転じたと言えましょうか。

一方産業技術のハイテクノロジーは、新しい生活道具の開発ばかりでなく、生産効率や付加価値の向上を意図し、重厚長大なものから軽薄短小の商品形態に積極的な転換を計ってきました。ハイテクを活かして大きくて重たい商品から、小さくて軽い商品でより大きな利益をあげようとしたわけですから。

その軽薄短小商品の究極がカード化であり、カード化商品は使い捨ての象徴となりました。そこで使い捨ての形に追随するコマ切れの生活も、軽薄短小の風潮を氾濫させることになりました。内実が外形に強く支配されたのです。

### 挨拶の形が心を奪う

生活の内実を奪ったり転換を迫ったりする生活の外形は、時間や道具だけではありません。人と人をつなぐ日常の挨拶もまた生活の「かたち」となって、人間関係の内実を収奪することがあります。

いわゆる三無主義や五無主義が指摘されてから、挨拶のできない子どもたちが確かに増えてきました。そこで挨拶ができなくて人間関係が成り立たないという考えから、子育て



や教育のなかでは挨拶指導が重視されてきました。地域によっては特定の通り道に挨拶ゾーンを設け、その道で人に出会ったら互いに挨拶をしようと看板を立てたところもあります。

よく知られた指導にはオアシス教育があります。「おはようございます」「有難う」「失礼します」「すみません」の頭文字をとってオアシスと名付け、挨拶をしつかりしようと呼び掛けたのです。いじめや校内暴力の教育荒廃が表沙汰になった時、多くの学校が先ず手がけたのが校内挨拶の励行でした。

しかしこれらの試みは、なぜ子どもたちは挨拶をしなくなったのか、その根源の問題に触れることを避けていました。人間が互いに声を掛け合いたくなる生活の内実を看過したまま、挨拶という「かたち」を重視したことで、ますます子ども人間関係は稀薄になったように思えます。

もしかすると子どもたちは挨拶言葉にならない言葉で、心の交流を求め合っていたかも知れません。しかし多くのおとなは挨拶という形を強要しました。形は礼を表すと古くから考えられてきたからです。その代わり、目と目を合わさない挨拶も生まれました。

形の論理が内的要求を押しつづす危険を、私たちは常に怖れていなければならないのです。しかし現代のコマ切れ時

間が、生活の内実を見つめなくなったばかりか、それを失うかも知れないという怖れの感覚さえも欠落させています。

いま教育技術の法則化運動が盛んです。できない子どもに対する親身になっての心配りや教育的情熱があつてのことですが、どの子も同じように工作ができ、数学が解け、跳び箱が跳べるようにするための指導を工夫するのです。しかしそこに画一的な指導の形が現われ、一人一人のつまずき、口惜しい思いなど七転び八起きの葛藤経験を吸収してしまい、個性的な内実が薄められる怖れが生じています。

この法則化の是非は議論の分かれるところですが、形が強固になればなるほど内実が弱まることを承知しなければなりませんまい。

生活は内実価値があるのですから、あくまでも内実が結果として形に現われるのを待つべきで、形が内実を求めることを厳に戒めるべきでしょう。もし形が内実を伴わないまま先行してしまえば、形が形骸化してしまうからです。

挨拶の形を教える前に、挨拶をしたくなる人間関係を先ず育てたいと願うのです。それが形を生む内実です。

(てらうち さだお・おもちゃデザイナー)

## 特集

◆くらしの論理を創る

# くらしと政治を結ぶ

## 政治との出会い

私の場合、生活の現場が政治によって隅々まで決められていると実感したのは、石けんを使う運動に参加した時であり、その運動が政治との出会いとなった。

二人目の子どもが生れた頃、私は経済的にも自立したいと思った。癌で入院中の姑が亡くなり、残された舅も健康で一人住まいが可能だった時期で、一時的にいわゆる嫁の仕事から解放された。私は友人から回ってくるささやかな仕事をそれまでも家にいてこなしていたので、来たるべき仕事量に備えて貸おむつを契約した。

その後友人から、合成洗剤は洗濯をする主婦にもおむつをする赤ん坊にも害があることや、貸おむつの塩素殺菌の危険

池田 あつ子



などを聞かされた。この時以来石けんを使うようになり、石けんを手に入れやすい生協に加入し、石けん運動に出合った。その次の年、一九七九年は「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」が制定された年だ。琵琶湖が工業や農業の廃水に加えて一般家庭からの生活廃水のために富栄養化となり、総合開発計画による環境破壊も手伝って水質は最悪となった。飲み水の水源としても漁業にも影響が出はじめたのは、条例制定より十年も前だった。

この間、周辺住民とりわけ主婦を主体とする消費者団体などが合成洗剤追放運動に取り組み、リンを含む合成洗剤の使用や販売の規制、工場、事業場からの窒素、リンの排出規制を含む当時としては画期的な条例作りを草の根から推進した。

水俣病や四日市喘息などの反公害運動は、国や企業が一方

的な加害者であり、住民は一方的な被害者だった。琵琶湖の運動は、汚染に対しては誰もが加害者という立場を取り、特に住民自らも加害者として合成洗剤を使うくらしから石けんを使うくらしに変えながら行政にも働きかけた。くらしからの提案を行政施策に結びつけた例だった。

## 女・子どもにわからない政治

俗に女・子どもには政治がわからないと言われてきた。これは日本を世界の大国まで押し上げてきたのは男であるという男社会の自負の裏返しだ。

たとえば、一流企業の第一線で働く人の妻がPTAや公民館や生協、脱原発運動などに夢中になると、夫の妻に対する発言はなぜか一つのパターンを取る。「食べさせているのは誰だ。家事や子供にさしさわりがないように活動するならともかく、金ももらわぬ趣味で家族に迷惑をかけるのはいいかげんにしろ……」。

議会という政治の場もまた経済を大きく動かす側の論理で、似たような言葉が降ってくる世界だ。このような強者の論理の中でくらしの場での問題が落ちこぼれ、陽の当たらない所に積っている。

一九八六年のソ連原子力発電所の爆発事故は、弱い人にも強い人にも平等に放射能を撒きちらした。人間は核を制覇し

て使いこなすべきか、多大な犠牲を払ってまですすめる必要があるのか、原発の存在を問う議論を世界中に巻き起こした。私たちは自分の生き方、生活の仕方を含めてこの世に生命を受けて生きることの価値をどこにおくのか、選択を迫られている。一つの物を選ぶことは他を選ばないことであり、この選択が生き方の表現であり、その結果が社会への問題提起であり政治的表現となる。

産業界はくらしを経済に結びつけ、経済を政治に結びつける。生活の使用価値からのニーズより、企業戦略としてのニーズが生活をリードする。だから台所では世界の問題は解決しないとされるが、食卓の半分以上が輸入食品でまかなわれている今日、私たちが何を食べるかを意志を持ってしっかりと選べば、日本の農業政策、ひいては経済政策の方向を転換する可能性を持っている。これが生活者のくらしと政治の結び方だ。

## いわゆる政治

今、リクルート株の譲渡問題で日本の国会は騒然としている。首相、大蔵大臣、政党幹部、文部省元事務次官など十数名にものぼる政治家が未公開株を譲り受け、公開直後に売ってその差益を千万円単位で個人の利益とした。さらに秘書や妻や弟がやったとし、政治家は身の潔白を主張した。

この人たちはすべて政治家個人の身内であり、そのお金を公共の利益に役立てたとは思えない。政治家はまず普通の人より早く情報を手に入れられる。利益を誘導するためには企業は情報と金を政治家に提供する。このような利権構造の存在をこの事件は明らかにしたと同時に、い・わ・ゆ・政・治への不信を増大させ、市民の政治アレルギーを強めてしまった。

世論調査でも支持政党なしという人が四〇パーセントにも達している。選挙の投票率も最近では五〇パーセント程度に落ち込んでしまった。利権とは無縁の市民には政治に期待をする気持が薄い。政治家とその周辺だけが政治にかかわり、財界・経済界のメンバーが名を連ねる審議会が議会をリードする市民不在の政治の悪循環がもたらした結果だ。憲法に保障された国民主権はどこにいったのだろう。選挙という手段で特定の人に自分のテーマを委任することは、政治への参加をあきらめることでも放棄することでもないはずだ。

## 市民自治の行方

一九八八年十月三十日、逗子市民は米軍住宅建設の行方をかけた三度目の市長選を迎えた。翌日の開票で、米軍住宅反対の立場の富野氏が、相手方に三千票の大差をつけて三度目の当選を果たした。池子の森を削って米軍住宅を建設する問題がこの市に起こって以来、自然を守る生活派の市民が、思

い思いの政治活動を繰り広げ、市議選二回市長選三回とこの四年の間に自治をかけた戦いが展開された。

税金の配分のされ方に国が地方自治体を金力でしぼる構造がある。上下水道、学校、道路その他生活に必要な施設建設のほとんどを国の補助金に頼っている地方自治体は、国の政策を丸のみにせざるを得ないことが多い。お金で自治権がしばられてしまうのだ。

この逗子市でも、経済優先の政治が行われれば池子に米軍住宅を建設し補助金をもらうことを良しとするだろう。経済より自然環境が豊かな生活要求を逗子市民は選択した。自分たちの町は自分たちの意見で作るという市民自治を、市民派市長を誕生させ、市議会の議席を塗り変えることで実践している。

この再三にわたる市民の意志が国や県の計画変更にまで結びつくには時間がかかると思う。ここに日本の民主主義の質が問われている。また、東京都三宅島でも住民の七〇パーセントが反対をしてNLP基地建設を巡って同様なことが起こっている。どちらにしてもこの生活派の運動が、とりあえず国の力ずくの政治に待ったをかけていることは確かだ。

## 議会政治に直接参加する制度

請願、陳情という市民からすると卑屈な印象の言葉だが、

憲法一六条の請願権に基づく市民の意志表示の方法がある。

請願は国や地方公共団体の機関に対し、それぞれの職務にかかわる事項について苦情や希望を申し立てる書類を紹介議員を通して提出する。陳情は紹介議員を確保しなくても提出できる。

いずれも受理した側は誠実に処理する義務はあるが、それだけのことで、願意が立法化されたり予算化される保障はない。そこでこの紹介議員が願意に沿ってどこまで責任ある議会活動をするかが大切になる。確かにくらしと政治を結び一つの方法であるが、もう一つ核心に迫りにくく、お願い型の政治参加になってしまう。

最も積極的に直接市民が政策提案する方法としては、条例の制定及び監査の直接請求の制度がある。選挙権を有する者の五十分の一以上の署名をもって地方自治体に直接請求をした場合、自治体の長は受理をした日から二十日以内に請求の要旨を公表し、議会を招集しなくてはならない。また審議の結果を請求代表者に通知し、公表しなくてはならない。東京都環境アセスメント条例は、この直接請求運動をきっかけに別の行政案が出されて誕生したものだ。最近北海道庁宛に、百万人以上の署名とともに泊原発一号機運転開始に対する道民投票に関する条例制定の直接請求が行われ、成り行きが注目されている。また、市長や議会のリコールも、選挙権を有

するものの三分の一以上の連署をもって直接請求できる。市民の自治にとってこの直接請求制度は大切な道具である。

### 政治アレルギーの払拭が出发点

普通の人は政治という言葉ですぐに政党を思いうかべる。個人の意志より党利党略が優先するのが政治という思い込みがある。加えてい・わ・ゆ・る・政・治・へ・の・疑・惑・が・あ・れ・ば・な・お・、政治は素人の手に届くものではないと無力感に襲われる。もう一つ市民の前に立ちはだかる政治の壁は縦割行政だ。くらしの問題はきれいに縦割りにできない。むしろどこにもびったり納まり切らないからこそ問題解決が遅れているといえる。同様に、政党の論理で生活問題をすべて整理することにも困難が多い。原発などエネルギー政策がまさにその典型である。

くらしと政治はすでにしつかり結びついているのに、政治がくらしをこき使う強者の政治が長い間行われてきた。市民はもうさんざんな思いをしてきたのだから、この硬直した政治状況を解きほぐし逆転させ、くらしが政治を使いこなすよう結び変える時期がきている。古い概念に閉じこもった政治に対するアレルギーは、生活の中で勇氣を持って自分の意志を表現することで払拭されるはずだ。人権や生存権の保障された真の豊かなくらしのために主権は市民にあるのだから。

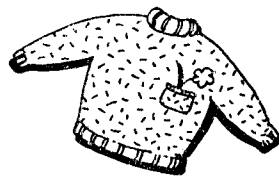
(いけだ あつこ・都議会議員)

## 特 集

◆くらしの論理を創る

# 目の前の現実から学ぶ——目学問

松本キミ子



一九八八年、十月一日、私は48歳にして、勤め人になった。定職についたのである。

と、同時に、「私学共済保険」とか「失業保険」とか「共済年金」など、初耳のセリフが聞こえる。その度に、「それは何？」と聞き、へこれからは安心して、病気になる／＼へ失業してもお金がもらえるなんて／＼へ老後の心配はしなくていいの？と、すばやく反応し、ホントに、そんなうまい話があるのかなあーと半信半疑。否、疑いの方がずーっと、多い。日本国が、福祉国家のはずがないではないか。

「大人になったら、自由に生きたい」と、漠然とした希望をもって、合理的家出をめざして、北海道の片田舎から、東京の大学へ来た。卒業を目の前にしても、「食べるだけならなんとかなるさ、定職につくなんて、とんでもない」と思っ

いた。

稼ぐことよりも、どうしたらいい彫刻をつくれるかで頭がいっぱいだった。それに、卒業時は、赤ン坊がいたから、それだけで、生きていることがうれしかった。

お陽さまと、風と、愛する男と赤ン坊がいたら、それだけで幸せといたいのが、男は彫刻家で収入のある仕事がない。働きたくても、仕事を見つけるのが難しいのがわかった。

親子三人そろって、中古のトラックで、あてどなく、遊園地方面へ向う。どこかに仕事がないかと、街を見渡すのである。あちこちの大きな公園や遊園地を見ると、いまだに胸がうずく。あそこも、ここも、仕事が見つけれずに疲れはてて行きついたところだからである。

子どもには、「お天気がいいから遊園地へ行こう」と誘い、

ことさら、親子で手をしつかり握ってあるいた日々を思い出す。

一流大学に入れば、輝かしい未来が待っていると思っていた。あこがれていた自由な暮らしとは、空腹の不安との戦いだったのかと、風景を見つめる。

晴れた日は、太陽を全身にあびて、それだけで幸せになる。しかし、雨の日や寒い日が困る。家には、灯油代がかかる。そこで図書館へ行く知恵が浮かんだ。

20代は、彫刻家のつもりだった、職業欄には彫刻家と書いて税務所に出した。「作品のねだんは？」と聞かれ、「作品なんて、売れるはずないでしょう？」と答え、「職業とは……」と教えてもらった。私が、今まで体験した職業は、バーの女給、喫茶店のウェイトレス、お手伝い、工芸社、人形劇団、テレビ局、ラーメン屋の出前、家庭教師、画塾、非常勤講師、運転手、子守り、モデル、産休補助教員、etc。

一番長く勤めたのは、美術・図工の産休補助教員であった。いつそ学校の先生になるのなら、臨時ではなく、本採用になるうと、二度ほど教員採用試験を受けたけれど、ことごとく落ちた。

彫刻は売れそうもないので、油絵を描いて個展をやって、絵を売っていた。油絵を売るのは、私が高校三年の頃からやっていた。私の故郷、北海道には、私の売りつけた油絵があ

ちこちにあるので、故郷に帰るのが怖い。

「なぜ、そんな不安定な職業で平気なの？」と聞かれたことがある。その時に、「いよいよ困ったら、街に出て、似顔絵を描けるからかしらね」と答えたのを覚えている。それに、芸術家として生きるには、安定した職業についてはダメになると信じていた。流行に敏感であること、芸術家らしい暮らし、そして、芸術作品をつくりたいと焦っていた。

学校を出て十年目、私は35歳になっていた。思いがけないできごとが起こった。私の長男が、学校不適応児だと担任の先生から告げられる。毎夜集まる芸術家と称する仲間達は、「学校が何だ」「教師は国家権力の手先だ」とお酒をのんでさわいでいるが、その酒代は、私が臨時の先生をして稼いだお金だ。おまけに、その芸術家達のほとんどは大学卒だ。

私の愛する息子は、小学校三年生で、学校についていけないといわれている。自由に生きた私達夫婦の子育ての自信がぐらついて、夫婦げんかの毎日になった。

私はいつものように、産休補助教員として教壇に立った。ところが、見えてくる風景が昨日とは全然違う。昨日までは、絵が描ける子、勉強ができる子だけが目に入っていたのに、息子のように、不安そうな子、退屈している子、なぜやりな子ばかりが目に入る。そんな子の方がずーっと多い。

あー、この子の家でも両親が、この子のことで夫婦げんか

しているのだろうか。この子だって、うちの息子のように、喜びをもって誕生を迎えられ、「笑った、クシャミした」とまわりをばげましてきた存在に違いない。

我が子のように、ダメといわれている子が楽しんで絵が描ける方法はないのだろうか。図書館へ行き、古本屋へ行き、とにかく本を探した。しかし役立つ本はなかった。

とりあえず、今までの絵の描き方だけはやめよう。あのやり方、一枚の画用紙の中に、構図をとって、下描きをし、色をぬるやり方はやめよう。

ある日、人間の顔を水彩画で描く授業をした。絵の描ける人は、今までのやり方で、絵の描けない人は、私の方法―下描きをせず、直接、鼻の頭から三原色と白の絵の具だけを使い、隣へ隣へと描き広げていく方法で。それらの作品を放課後の教室の壁に貼り、眺めていた。

「形を描いてから、内容（色）に入っていく方法と、内容から形にせめていく方法と、どちらがどうなのか？」

形をきちつと描けない人は、内容には気を込めていない。一見それらしく見える。しかし、形がとれない人は、一生懸命に色づくりで格闘している。何とこれは人生と同じではないか。形式を整えると、それだけで安心し、内容のことなどどうでもよくなるではないか。

私は一体どっちの人生を歩みたいのか。形式か内容か。形

式とは、正教員になることである。形式を整えてはいけないうのだ。安定する職業につくと、創造的に生きづらくなるのだ。産休補助教員でいこう。学校という組織の中で、最下位の位置に自分をおかずに、クラスの中の最下位の人の気持を理解しようとしたって、それは無理だ。

それより何より、産休補助教員は、勤務期間がきまつている。たいてい三か月半なのだ。この期間にどんな成果が上げられるのか。

書物に絵の描き方が書いていないのだから目の前の子どもたちから学ぶしかない。目の前の子らが喜んで集中したら、それは他の人にも広める意味のあることだ、と気がついた。一人で成功したら、それを四十名のクラスに伝えたい。他の学年に広げたい。大規模校で成功したら小さな学校へ、特殊学校や養護学校と、どんどん試してみたい。実験場は多い方がよくて、産休補助教員は最も適している。

「描いているところを見ないと信用できない」という人があり、公開授業をした。ところが、急用があったりして、半分近くの教師たちは、私の授業が見られないという。そこで、その人たちのために、授業記録を『絵の描けない子は私の教師』としてガリ刷りの本にした。八年後に、四校分の授業記録と、千葉の小学校の先生である堀江晴美さんの授業記録とで、仮説社から同名のタイトルの本になった。



書物を通じて学問をおさめる人を本学問といい、人の話をきいて、知恵をつけていく人を耳学問というなら、私の場合は、目の前の生徒たちの一挙一動から、絵の描き方を学んだのだから、目学問というのだろうか。

「チューリップを描く時、なぜ、まず花を描いて、茎を上から下へ描くのか、植物は下から上へ伸びていくのに」と疑問を持った時、この疑問に答えがほしかった。それから、あたりかまわず、人に問いかけた。へ上から下へやへ遠くから近くへ」の動作は、人間が自分の心臓を守るための本能ではないかと主張する人がいて、本能とは何かという本を探すことになる。人の話を聞くことになる。

なにがなんだかわからなくて困った時に、そこから脱出する方法を、私は二つ持っている。とにかく、眠ること。できれば、太陽がサンサンとあたるところで昼に眠ること。次は映画を見に行くこと。

インド映画「大地のうた」三部作シリーズがずうつと前、神保町の岩波ホールで上映された時、おべんとう持って、一日映画館にいた。その映画に、主人公が母さんに手紙を書くシーンがあった。その手つきを見ていて、もしかしたら、日本人のほとんどが植物を上から下へと描くのは、筆順による、習慣ではないだろうかとの仮説が生れた。

目の前をそう見ることによって、様々な新しい疑問が生ま

れ、仮説が浮かび、それを実証するために、さらに現実を見ることになってしまった。

私は小さい時から絵を描いていて、美大に入り、美大の先生から、「よく見なさい、あなたは、ちっとも見ていない」と、さんざん言われてきた。「よく見なさい」というセリフをきくと、頭の上に石をのつけられたような苦しさがおそってくる。

「私はよく見れない、ダメな人なのか。ちゃんと目をあいているのに、どうしたら、よく見える人と見えない人にわかるの？」と悩みつづけてきた。

でも、今は、少しわかる。よく見るとは、仮説をたてて、それをためすために見ると、よく見えてくるということが。

その仮説とは、自分の中に、ふとわく、小さな疑問を大切にし、それにこだわること。

なぜ、私は絵が描けるのに、私の息子は絵が描けないのか？ その疑問にこだわったおかげで、平凡なアルバイトの主婦から、十三年後高崎芸術短期大学の教授になったのである。

そして、生まれてはじめて、定職につくことになったのである。

どんな新しい世界が広がるか、もう好奇心で、いっぱいである。

(まつもと きみこ・キミ子方式創始者)



## 人と人のかかわりを

水島 睦枝

信子さん、泣きながら話していたあなたを思つてバス停に立つていたら声をかけられました。さつきお話した娘の小学校一年生の担任の先生でした。そうです。娘が教室でさわぐのを、何十年も教師をしているけど、こんなひどい子は初めてです、と言われた方です。四十五歳で退職して編物や刺繍をして毎日楽しく過ごしていますと、ドレスアップして見違えるばかりでした。私、不思議な気持ちで、娘は元気に高校へ通っていますと言ったら、元気なお子さんでしたからねと言われて、私は、ああこの人とは出会えなかったなあと感じました。

そして今別れたばかりのあなたに書きたくりました。あなたと出会えるかもしれないと思つて。

私この頃、人と人のかかわりつてどうやって成り立つんだろう。人と人が出会うつてどういうことなんだろうとよく思います。誰にも話せなかったことを、何年も前に職場にいたというだけの私に話しているあなたを見ながら思いました。

自分の問題に、いや自分自身に真剣にむき合うことのできる人だけがほんとうに出会える、人と人とのつながりの深さを味わうことができる、そしてそんな人が多くなれば宇宙地球号の行方もすてたものじゃない、と思います。

娘の担任の先生はその他にも「ひどい子」を生産されたように、「あら水島さんとも言われたの？　うちの子もよ」と後で知りました。「ひどい子」と感じ、排除する先生自身の問題を、子供やその親の問題にすり替えてしまっているように思うからです。

私の娘の場合は、問題は私自身にあつて、子供はそのとはつちりを受けていたにすぎなかったんです。

信子さんと同じ職場にいた頃のことです。職場で孤立していて、覚えているかしら、職場旅行に私一人が声もかけられなくて留守番して。あとから上司に「言つて下されば気持ちよく留守番しましたのに」と泣きながら言ったことを。仕事はやればやるだけ増える、いや押しつけられるって感じで、帰宅してから仕事をしていました。だから子供に何かあると

(病氣することさえ)、子供までが私を困らせると感じていました。その時学童保育でいっしょだった母親の一人が、私の娘がこんなにかわいかった、こんなに元気に遊んでいた、しよっちゅう言ってくれましたが、私ちっともわからなかった。夫は単身赴任していたし、何もかも私がやらなければと思っていました。信子さんが言っていることはあなたの都合ばかりのように思うと、私が言ったら怒ったけど、私も子供がどう思うか、どうしたいかなんてわかりませんでした。今でもわかつているわけではないんです。でも本当にわからないこともあるし、私がわからなくてもよい、子供自身の問題もあると今は思います。

どうしてそう思うようになったかと言うと、ついにダウンして一か月入院したことが契機です。私の入院中職場も家庭もちっとも困らなかつたんです。私とてもショックでした。私の存在意味が全く無いということですから。

退院後も家でねていることが多かったので、子供たちにはいたわれながら暮らしました。そこで気づいたのは、子供の学校での位置と私の職場での位置がよく似ていることです。学校には「よい子」という枠組があつて、先生も親も子供をその枠組で裁断する。だけど子供はその枠組の外でも生きている。私自身も「良い職業人・母親」という枠組で自分をズタズタにしている、枠組の外の生きている自分がないという

ふうに。こうなると、子供の出合う状況が私の孤立した状況とそっくりに感じられて、いっしょに泣いてしまう。私も子供も同じなんですよ。自分の状況を自分で何とかしなければならぬんです。そうやって何とかしている子供がほんとにかわいい、と感じられるようになったんです。そこで初めて娘がかわいいよと言いつづけてくれた人の言うことが理解できたんです。何年も経っていました。彼女とやっと出会ったんです。

子供たちもいろんなことがありますが、私が自分の都合ではねつけないので、話したい時には話してくれるという確信が私にできて、私はただいる、待つだけです。

仕事の方も、幼い頃考えた自分の仕事をほとんど達成していて、次のステップのためには今までと同じわけにはいかないことに気がつき、孤立することが気にならなくなりました。

人生五十年用のデザインは、人生八十年の現実にはそぐわない、という見方もできます。人類が初めて直面する人生八十年の地球に、五世代も共に生きる世界に、あなたも私も生きていくんです。人生八十年を生きた十代の子がどう生きべきかなんて私は教えてやることはできない。そう思いませんか？ 私は私のあと三十年をどう生きるか考えています。

あなたはどうか？



## 子どもと共につくるくらし

有吉 有巳子

「うちの子ってどうしてあんな時に限って私の顔をみるの？」  
それは、お弁当のえびフライを食べようとした息子がそれをとり落としたときのこと。

「汚れたものは食べちゃいけないとも思うし、机におちたえびフライくらいペロツと食べちゃうたくましさも欲しいのよね。でも、両方教えるわけにはいかないじゃない。だいたい、いつもはおとなの言うことなんて聞かないのに、自分で考えればいいときに限っておとなに頼るんだから」

まったく。その気持ちはよくわかる。でも、私はそれと同じことを自分も含めたおとなに返したいと思う。

自分で考えればいい時に子どもに頼るのはよそうって。

私は幼稚園入園前の幼児と母親が親子で活動するグループに保育者として参加している。

そこで近ごろ、こんなささやきが聞こえる。「どうすることにした？」。これは、四月からのこと。このグループを続

けるか、幼稚園にいくか、あるいはどの幼稚園にいくかという意味だ。ほとんどの人が去年の秋には決めたのだが、まだ悩んでいる人もいる。でも、もう後がない。決定を先送りしてきた人もいいよだ。悩むことはない。自分を見つめ直すことができる。最後の段階に来て「どんな子育てがしたいか」と思っているのか、自分の気持ちやつと少しわかりました」という人もいる。そんな時は、「回り道じゃなかったね、時間をかけた甲斐があつたね」とうれしくなる。

ところが、土壇場で子どもに「どうする？」と聞いて決めてしまう人も多い。子どもはあっさり決めてくれる。

「〇ちゃんといっしょのようちえんがいい」

「おにいちゃんとおんなじにする」

単純明快だから、考えすぎで頭が混乱しているおとなは救われる。でも、これは大事なことから本人の意志を尊重したというのではない。自分の考えをまとめられなくて最終決定を子どもに委ねただけだ。

心配なのは結果が悪かったとき。自分のことだからって最善の方法を選べるとは限らない。ところが、おとなのほうでは子どもに決めてもらったことなんかすっかり忘れて恨みがましい声をだしたりする。

「別のほうがいいかなとも思ったのよ。でも、子どもがこう言ったからねえ……」

そりゃあ、ないでしょう?!

過程がどうでも、最終的に決めているのはやつぱりおとななのだ。たとえば、子どもがおとなの反対を振り切るかたちになったとしても。「ほーら、だから言ったじゃない」なんて言う資格はない。子どもを説得できなかったんだから。

「あんたがこっちがいいって言ったんでしょ」と、あとで子どもの決定を批判するくらいなら事前に言っただけいい。「自分でなんとかしなさい」って口では言っても、しらんぷりはできない。ことによっては厳しい状況のなかで子どもを孤立させて、選択の失敗よりずっと悪いところに追いつめることになってしまう。子どもと一緒に乗り越えていくくらいの責任はおとなのほうにもあるはずだ。

この反対が「自分勝手にこんなことをして!」というのと。「そんなこと」は自分で決めて欲しいというのに対して、「こんなこと」はおとなの意見に従うべきだという。小さなことから大きなことまでいろいろある。

たとえば、子どもが左右違う靴下をはいたとする。

「だって、ピンクのパンダちゃんもきいろのくまさんもすきだから、どっちもはいていきたいんだもん」

これから出かけるというのに、ありったけのウルトラマンの人形を持っていこうとする。

「いっしょにでんしゃにのっていきたい」

こんな子どもの声は、まず聞いてもらえないだろう。またこういう時に限って子どもも自分の言い分を譲らないものだから大騒ぎだ。

えびフライのお母さんが笑っていた。

「これも親子の運命ね。子どもが困るときは私も同じように困るんだから。一緒にいくしかないってことね」

親子だけじゃない。教師と子どもも、親と教師も同じだろう。どうも、同じような所で困ったり迷ったりしてしまうし、同じようなところで自分の意見を主張したくなるらしい。一緒にいくしかないってことだ。でも、自分の居場所は一ひとりにひとつ。他人と代わられる人なんて誰もいない。だから、自信がなくても人に譲るなんてことはしたくない。

一人分のおとなでいたいと思う。なるべく胸をはって自分の考えを言いたいし、子どもの領分までは出ていかないようにしたい。それで充分だし、それができれば最高でしょう?

発言



## 私は名札が嫌いです

かなもり ゆづか



それは、ケーキが好きとか嫌いとか、そういう単純なものではありません。私の心のどこかで名札というものを拒否している、そんなふうに感じます。けれど、なぜ嫌いなのか考えたことはありませんでした。

We 夏季フォーラムの実行委員をしていた時のことです。私は子ども活動を担当していたのですが、子ども活動の係の人たちと、当日までの準備について話をしていた時に、名札は付けたくないと言案しました。理由がきつちりあったわけではなく、ただ私は名札が嫌いだからです。歌集を作る時はだれかが作りたいと言えば作るし、だれも何も言わなければ作りません。ゲームもだれかがしたいと言えばするし、だれも何も言わなければしません。けれど名札は、だれも何も言わなければ、かってに用意されているものなのです。名札を用意しないことは、子ども活動の係の人たちにはすんなり受け入れられました。私も深く考えませんでした。

ところが、私が出席しなかった次の実行委員会で、当日子どもたちが名札を付けないということが、とても問題になっ

たそうです。名札を用意するのはあたりまえだと思っていた人にとつては、この報告は思いがけないことだったのです。

「迷子になったらどうするの」

「名前を言えない子どもはどうするの」

「声をかけなくなっても名前がわからない」

「今までのフォーラムで、子どもたちは家へ帰ってから、いっしょに遊んだ友だちの名前を覚えていた。それは名札を付けていたからじゃないの」

私はとても驚きました。実行委員の人がこんなに名札を必要とし、こだわっているとは夢にも思っていなかったからです。名札を付けていれば名前が一目でわかり、覚えやすい。また、付けていることによって、フォーラムに参加している子どもとすぐにわかる。だから名札は必要である。これがだいたいの人と考えだったようです。しかし、私はただ名前を覚えることよりも、名前なんて知らなくたって、いっしょに遊ぶ中で相手のことを知っていく方が大切だと思っています。

結局、子どもたちが付けたいと言えば作るということで、

その場はおさまりました。フォーラムの初めに子どもたちもきてみました。

「名札を付けたい人、手を挙げて」

あとになって、私はふと気が付きました。世界で一番必要のないものは「自分の名札」であると。自分の名前は自分が一番よく知っているのです。名札というものは他人のために付けるものです。だから私はあの時こうきくべきだったのです。

「みんなに名札付けてもらいたい人、手挙げて」

ついこの間、ある集会にボランティアという名目で参加しました。私はぎりぎりになってから参加することになったので、受付へ行った時私の名札がありませんでした。係の人はとてもすまなそうな顔をして、名札を作り、「ごめんなさいね」と言いました。

なぜその人は私に謝ったのでしょうか。もしも名札が、名前が一目でわかるためだけのものであるなら、私の名札は私にとって必要ないものだから、私に謝る必要はありません。むしろ、私の名札を必要としている私以外の人に謝るべきです。その人の「ごめんなさい」は、もつと違うニュアンスを含んでいました。それは、この集会に参加する人全員に渡さなければならぬ名札を用意していなかったことに対して、ごめんなさいという意味だったように思います。名札

は、この集会に参加している一員であることの印だったのです。この集会とは全く無関係な人が、その名札を付けた人を見た時、あの集団の一人だと思って、その集団には近づけなくなります。名札は、それを付けることによってある集団の一員であることを自覚させるとともに、一方で、その集団以外の人は受け入れない壁をつくってしまうのです。

中学に入學した時、私は制服といっしょに名札を渡されました。赤いプラスチックの台に、校章と苗字が白く彫ってありました。二年生は青、三年生は黄色でした。それは紺色の制服の上でとても目立ちました。校則を破ったり、いたずらをして見つかったら、先生はかならず名札を見ました。振り返ってみれば、その頃から名札が嫌いになりました。自分の名前を言いたくもない時に、相手に一目で知られてしまう名札。自分の知らない先生にいきなり名前を呼ばれる名札。

名札というものを考える時、どうしても中学校の「制服」や「靴下の色」や「髪の毛」がいつしよに頭に浮かんできます。私たちは、名札を付けることを強制され、学年ごとに違う色で区別されました。名札は、管理する者が管理しやすいように、管理される者に対して付けさせるもののように思われます。私は、人が人を管理することが嫌いです。

「制服」や「靴下の色」の持つ意味と名札の持つ意味とは、私にとって全く同じものなのです。

発言

\*\*\*\*\*



## 農がめざすものは何か？

多々良 肇

『ガンの予防にお茶が効く！』——こんな文字が運転中の私の目の中に飛び込んできたのは、少し前のことでした。車のステッカーの宣伝文句なのです。当時は、「へえ、そうかいな」という感じで、さして気にもとめずにおりました。ところが、最近になって「もし、それがほんとうなら？」と思うようになりました。なぜかと言いますと、私の自然卵を買って下さっている会員の方が夫をガンでなくしたのです。私の卵や自然のものをせっせと買ってきて夫に食べさせていた奥さんの努力は大変なものでした。「サルノコシカケ」を煎じて飲ませるとガンに効くということで、私もその方に頼まれて、蜜柑畑や雑木林を探して歩き、たったひとつ見つけたサルノコシカケをさし上げました。

大変喜んでいただいたのですが、数日後御夫君は吐血し、救急車で病院に運ばれました。病状は安定したのですが、それを理由に医者が夫人の十分な合意（どういう内容の手術で、どういう結果になるか）を得ないまま、一方的に手術を

行い、その結果は、もがき苦しみながらの死でした。夫人は憤懣やるかたない思いを後日私に話されたのですが、「あつ」という間のことで呆然としておりました。医者もさすがに恥じてか、その方の前でひたすら涙を流したそうですが、全ては後の祭りです。

「ガン」の予防は医学的に進んできたとはいえ、まだまだです。私も都会より脱サラで百姓を始めて、今年で三年目。無農薬でお茶を栽培していますが、「ガンの予防にお茶が効く」なんてことは、さすがに考えてもみませんでした。早速やはり同じ村で無農薬茶の栽培をしている友人に「その根拠」をたずねたところ、一冊の小冊子を私に手渡してくれました。

それによりますと——「長い食文化の伝統を持つ国の食卓には、料理の組み合わせの妙ともいうべき自然の知恵がうかがえます。私たちが口にする食物の中には、体にとって有害な物質も含まれています。しかし、別の食物に含まれる成分



がこの有害な物質を抑え、全体としてバランスのとれた、おいしい料理になっているのです。

一方、国の歴史が浅く、食文化の伝統を持たないアメリカでは、お茶よりもコーヒーが好まれています。結果は、コーヒーに多く含まれているカフェインが体内のコレステロールを高め、動脈硬化や肥満の増加につながっています。食文化が熟成していないアメリカの食卓には、料理の組み合わせの妙も働いていません。コーヒーやコーラをガブ飲みしながらハンバーガーをかじり、分厚いステーキを平らげ、デザートには山のようなアイスクリーム……。

こうしたアメリカ型食生活の弊害は、例えば、この国で大腸ガンが多発している事実によっても知ることができます。

最近のガンの研究では、イニシエーター、プロモーターと呼ばれる二つの因子が互いに作用し合って初めてガンが発生するということ「発ガン二段階説」が有力になりつつあります。

この説によると、まず体内に取り込まれたイニシエーター（発ガン誘起物質）が正常な細胞の遺伝子DNA（デオキシリボ核酸）になんらかの突然変異を引き起こします。DNAは細胞の中心の核のなかにあって、細胞の分裂や成長に際して指令を出す役目を持っています。ですから、DNAに突然変異が起こるといことは、誤まった情報が送られて、異常な細胞、つまりガン細胞がつくられる土壌ができたことを意

味しているのです。

そして、実際にガン細胞の増殖を促し、いわばガンの発生を完成させるのが、もう一つの因子、プロモーター（発ガン促進物質）だというわけです。つまり、イニシエーターとプロモーターという二つの因子が同時に働くことによって、初めてガンが発生するというのですから、ガンを防ぐには、そのいずれかの一方の働きを抑えることができればよいのです。ところで、イニシエーターの代表的なものは、魚などの焼け焦げのなかに含まれるトリップ $P_1$ 、トリップ $P_2$ という物質にあります。

緑茶に含まれるタンニンの様々な効用について研究を進めている奥田教授らのグループは、このトリップ $P_2$ の働きを抑える力がタンニンにあるのかどうかを実験で調べてみたのです。その結果、微量のタンニンでもトリップ $P_2$ の変異源活性（正常なものに突然変異をもたらす働き）を抑える力が強いことが確認されたのです。

では、タンニンになぜこのような強い発ガン抑制効果があるのでしょうか。それは、緑茶や紅茶を口にした時に感ずる渋みにあります。お茶の渋みの正体は、タンニンが舌の表面のタンパク質と結合して凝固する収斂作用（しよくけん）という働きです。渋柿を食べた時の強い渋みもタンニンです。

この収斂作用は、タンニンが持っている親和性という性質

の一つのあらわれにすぎません。親和性とは、他の物質と容易に結合して、その物質に化学変化を起こす性質のことです。タンニンの発ガン物質に対する強い抑制効果は、この親和性によってタンニンが発ガン物質と結合して、これを無害な性質に変えてしまうためだと考えられるのです。

考えてみると、たしかに近年、日本人の食卓は変わってきています。私はこの藤枝市に入植してから「朝食は『米』」と決めています。パンや紅茶で百姓が力仕事などできるわけではないのです。日本茶がなぜ長い歴史の中で今日まで飲みつづけてきたのでしょうか、先人たちの知恵を忘れて私たちの健康はありえないということを「お茶を通じて」考えるようになりました。

たしかにお茶にはビタミンCが豊富で、ミネラルも多く含み昔からわが国では薬用として用いられてきたほどに様々な効用があるのです。例えば、ビタミンCは一〇〇gの煎茶の中に、二五〇〜三〇〇mgも含まれているそうですが、中国茶や紅茶は日本茶と同じ茶の葉からできているはずなのに、お茶の葉を発酵させた紅茶にはビタミンCはほとんど含まれていないし、半発酵させた中国茶は日本茶のわずかに30分の1しか含まれていないのです。また、ミネラルも多く含まれ特にマンガンが多い。(一日のマンガン摂取量の二〇分の一を占

める)。

マンガンが欠乏すると成長が止まったり、骨に異常が出たりします。また、緑茶には血圧をあげて血管内の血液濃度を低めるなど、脳卒中を防ぐ効果もあるそうです。その他、肝臓を強く、ビタミンUが胃カイトウの予防に効果があるなど、中国茶以上の薬効成分があるのです。

しかし、自然飲料としてのお茶も今日では農薬づけでは、悲しいかな、そうそうガブガブ飲む気にはなれません。なぜかと申しますと果樹類の中で農薬を最も多投するのが、実はお茶なのです。他の作物と比較してみるとはつきりとするので次の表を見てほしい。(農薬の種類は異なるが、数値上の単純な比較として掲げる)。

年間、多いところでは二十回ほど散布し幾種もの農薬が混合されて散布される。しかも、化学肥料は土を酸性にする。表土はカチカチとなり、好気性の微生物はすめなくなる。お茶の葉は水洗されることがなく、天候

10a当たりの肥料と農薬使用量  
比較 (1980年)

	農 薬	肥 料
茶	25,640	66,537
米	5,304	9,660
小 麦	1,015	7,959
ミ カ ン	16,246	18,241
キュウリ	12,271	16,515
苺(露地)	4,579	41,206
リ ン ゴ	32,166	61,672

しだいでは摘採一週間以内でも防除せざるを得ないので薬剤  
残留の心配は他の作物の比ではないのである。

これでは「ガンの予防にお茶が効く」と言ったところで虚  
しいではありませんか。お茶ばかりではなく、他の全ての作  
物も似たりよったりの管理では土がかわいそうです。私たち  
の食生活、根本からもう一度考えなおしてみてください。

☆ 「いのちと土の舎」では無農薬茶の通信販売を行って

います。会員の方には「土の声通信」を無料にて差し上  
げます。

☆ 私の農業を手伝って下さる方を募集しています。お気  
軽に御電話ください。

〒426 静岡県藤枝市瀬戸谷三六八一 いのちと土の舎

☎ (0546・39・0824)

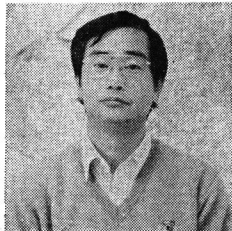
Weの連載がきっかけで、T市の学童保育の  
指導員の方々から「研修会で「遊びの話」を  
してほしい」と依頼された塚越さん。先日、  
その会に、みなさんのご好意で同席させてい  
ただきました。

ながら、クラスの子どものたちの集団づくり、  
親とのかかわりなど、学童の指導員のみなさ  
んも、同じ「子どもの今」に、「ウン、ウン」  
とうなずく。



教員になって十七年目。「六  
年前に担任したクラスで「いじ  
め」があった時、担任として見  
えていなかったことに、非常に  
ショックを受けました。そのこ  
とが契機になって、積極的に子どもたちの中  
に入っていこうと思いました。失敗もたくさ  
んしてきましたけど」。おつれあいも小学校  
教員の共働き。小学校三年と六年の娘さんも  
学童にお世話になったという体験談もまじえ

〈今、子どもたちの  
世界は〉の  
塚越敏雄さん



現在二年生を担任。今年四月、転任したば  
かり。「やっとクラスとしてまとまってきて、  
今は発表会に向けて準備中。スイミーの影絵  
をしよう」と……、「ご自身が実に楽しそうに

語られる。先日、「パンづくり」を学級でこ  
ころみたという。事前に家で二度ためして  
みて、これはいいかと思ひ、実行。子どもた  
ちの乗りようといったらなかったとかで、大  
成功。「もったいなくて食べられない」と持  
ち帰った子もいたり、この様子を学級通信  
『ふきのとう』で家庭に伝える。ここには、  
学級での子ども様子があふれていました。  
学校が楽しいところだと感ぜられ、思わず  
やりたくなるような楽しいことを用意する――  
この塚越さん方式が裏がえすと、学校の中で  
は特別視されるという現状。

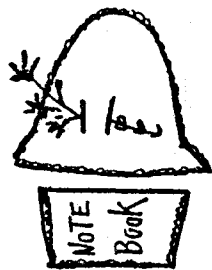
二年前、ダウン症の浩司君を担任したこ  
から書かれた共著書『そしてほくもいる』  
(現代書館)が出ています。

(青木)

## 学習の主人公たち

### こんなくらしがしたいな

―神戸市立横尾中学校一年生―



吉田 浩城

ピラミッドより高い。

そして、自分は天国で仏になっている。

◆金がかくさるほどあり、ぼくの家は、自費で  
りっぱなきれいな城にある。

別荘は、高級ホテルが、五十個ほどあ  
る。家来は、日本人と外人まで約二億人。

いいといわれる車（ベンツ）などは全  
て、城には、近代国家のいろんな物がある  
城だ。

毎日、仕事にいかなくとも、パチンコや、  
外食へいき、いつも好きな物をたべれる。家  
来の内五十人は、世界でも、ノーベル賞をと  
れるぐらいの信来のある実力者だ。

昔の天皇よりも、いい生活だ。たった一人  
で二十億人をうごかせるほどの勢力がある。  
ぼくの友だちだった人は、ぼくのすぐそば  
で、えらい役につかせてやっている。

ぼくは、その一番上だ。  
死んだら、はかは、仁徳天皇より大きく、

宮本 美樹

◆私は、私がいちばん好きな人とけっこんし  
て、仕事も、もっている。仕事は、保母さん  
で、何一つも心配ごとがなくて、親子四人で  
二階立ての大きな家に暮らしている。

だんなさんは、背がたかくて、かっこよく  
てやさしくて、お金をたくさんもっていて、  
毎日、がんばって仕事をしてくれる人です。  
日曜日になると、かならず四人であそびにい  
きたいです。

森 義統

◆いつも会社から帰ったら妻と子供といろい  
ろなたくさんの動物が向えてくれて、何年か  
たったら、会社の位が上へ上がつて妻にペッ  
トショップを経営して、たくさんの動物と  
ふれ合うような生活そして又、何年かたって、

立派な家を父と母と妻とで相談して建てて、  
家庭が一定してきたら、海外旅行をしたり、  
国内旅行をして、熱気球なんか乗ったりした  
い。

大坪 香織

◆大きな庭にプールがあつて夏になったら使  
えて冬は水を氷らせてスケートができるよう  
なのがあつて、毎日何を着ようかなとまよう  
ぐらいたくさん服があつて、ごちそうが食べ  
れて（ふとらないようにダイエットに使う機  
械もあつたらいいな）、かんたんにお金もう  
けのできる仕事をして、月に一回は海外旅行  
にいきたいな。

家は三階建てぐらいで、お手伝いさんが身  
の周りのことを何でもしてくれる。毎日友達  
が遊びに来て、おおきなパーティーをしてみ  
たい。

戸嶋 清

◆しように来は、ちよう一流の会社の部長にな  
って、お金が何千おくぐらいあつて、湘南に  
べつそうがあつて、きれいなよめさんがおっ  
て、家が、お城で、めしつかいが五百人でい  
つも会社に行く時は、ロールスロイスでそ  
んなになれたらいい。

藤瀬 由佳

◆私は、将来の事はもう決めている。高校を卒業して、銀行に二年間つとめて、二十一歳で結婚をする。二十二歳で子供を産んで、ひまがあつたら少しパートとかに出る。ボランティア運動もしてみたい。そして、八十歳までは絶対生きて、みんなに見守られて死にたい。

西谷 正也

◆ぼくは、大きくなったら、会社の社長で、朝起きたら、めしつかいが、「だんなさま、お時間ですよ」と言つて、ぼくが「おお、もうそんな時間か、よし起きようか」と言つて、食堂まで車で行つて、それから、めしつかいが、世界最高の、ナイト二〇〇〇で、会社に乗せてもらつて、それから家に帰つて、温泉に入つて、温水プールで泳いで、夕食を食べて、めしつかいが、「そろそろお休みの時間ですよ」と言つて、「よしねるか」といつてぼくはねて、一日がすぎていく。

嶋 英紀

◆まず始めに、金持ち（五百兆円）になりたい。でも、生活の仕方は、いつもどおりがいい。どうしてかという「金持ち!!」というふうに、手伝人をやとわずに今までの生活がしたいからだ。だけど、車は五台、家、テレ

ビ、別そう、コンボ、あらゆるものを買つてぜいたくなくらしをしたい。幸せな結こんをして。まあこんなぜいたくをしなくてもごくふつうのくらしでいい。しかし幸せな結こんはしたい。

植野 文月

◆私は、大きな家に住んで、食べたい物、ほしい物、何でも買えるような生活がしたい。でもらくばかりしないで、ふつうな生活ができたらい。よくばらないこと！  
私は、やっぱり、毎日毎日が楽しくなるような生活が一番したい！

田井 敬士

◆ぼくは、大きくなったら科学者になつて無理なことをできるようにする発明がしたいです。それでエジソンをこえる発明王になりました。

山角 寛

◆ぼくは、若い時に、ドデカイことをして、30歳には、ドデカイ家に住む、気楽くで、さみしい、一人暮らし。若い時の、ドデカイ、こ

とで金もうけしたので、仕事はなし。  
朝は起きたいときにおき、ご飯を食べたいときに食べ、ねたいときにね、遊びたい時に、遊び、まさに不規則な、生活なぐうね

るあそぶ」といった感じの生活。

いちおう若い時にドデカイことを、したので有名!!

大道 陽子

◆大人になったら、前にモデルルームで見た三階建ての家に住んで犬を飼いたい。

中根 一成

◆水子寺に修行にいつて水子霊と話が出来るようになって、人形をいっぱいつくる。

そして、オクザ君の水子をはらつてあげる。

奥座 啓之

◆でっかい家で、別そうが十コ、海に五コ、山に五コ、年五回ハワイにいき、仕事をしなくても大金がガッポガッポ入り、宇宙旅行がしたい。それから、各国に五コ別そうがある。その前に、サッカーのワールドカップで優勝したい。

そして、老後は水戸横門（水戸横門）のようになりたい。死んだら天国でおしやかさんとサッカーがしたい。

そして天国ワールドカップでまたもや優勝したい。

ピラミッドとにとくてんのうりようをあわせたような大きさはかを、奥座寺をたて奥座大仏を作つてほうむつてほしい。

生まれかわるときは、ウンババ族のしゅう長のむすことして生まれたい。

た。

阿部 拓也

### 高山 裕子

◆私は、ちゃんとした結婚をして、ふつうのくらしができて、子供を二人くらいほしいです。

それから、親子四人とお母さんとかもいっしょにくらしたい。

だんなさんはとてもやさしい人がいいです。

### 碩 利晃

◆朝起きたら目の前にぼろぼろな屋根があって、一人で、そぼくに米とキャベツの生とつけ物をあらゴミ置場からひろってきたチャワンと木をけづってできたおはしで食べて、ふくは、一ヶ月中に一回きかえるのでそのままのふくそうで土方の仕事に出かけて、昼ごはんは、いっしょに働いているやつらから、朝のチャワンにもらってたべて、どぶの水でチャワンを洗ひ、仕事から帰ってきたら、大家さんに「五ヶ月分のお金、早くはらって下さいよ!」と言われて、ふとんもきずに一人でそぼくに前とおなじ物をたべて、そしてねる……というようなくらしはせつに、土方になってふつうの生活をけっこんせずにしていき

### 細川美代子

◆私は将来でも、このままのくらしをした。楽しい事があり、また、悲しいこともあるような幸せな生活のままで、あってほしい。よくばりすぎては、反対にこわいめに合うし、このまま、ふつうのみんなといっしょのような生活をしたい。ただみんな平等な世の中になっていたらいいなと思う。いじきたない子でも、どこかには、いいものをもっていると思う。こんな、単純なふつうの、このまま通りの生活をしたい。

### 木下慎一郎

◆美人な人とけっこんして、お金をかせいでふつうのくらしをしたい。

### 二神美奈子

◆今はできないけど、おけしようにして髪の毛とかを、すーとのばしてきれいな姿で……貧乏よりは、お金があるほうがいいけど、べつに特別じゃなくて普通のくらしでいいです。あんまり、お金がありすぎたら何かとこわいから普通がいいです。

### 向江 司

◆ぼくは、三省堂国語教科書編集部に入りたい。

### ◆ふつうのくらし

貞広こずえ

◆私の将来は、大きな家に、小さないぬがほしいです。そして、家の中は、いろいろな機械などがおいてあるようなことが私のゆめです。

中村 太一

◆大人になったら人に役だつことをしたい。だれでもそう縦でできるような飛行機とかそんな物をつくって役だちたい。

卜部 智子

◆みんなと同じで、平凡な生活ができればいい。結婚して、安定なくらしができればいいと思います。子供がいて、お金があつて。

大沢 聰

◆ぼくは水虫がなおるくすりをつくってノーベル賞をとりたい。そしてたくさん金をもらってリッチな生活をしたい。

竹下 隆子

◆将来は、全日本バレーボールの選手になって、平和な家庭でくらしたい。

一回だけでも、友達どうしでくらしたい。元気であかるく、心のやさしい人になりたい。

徳島 篤史

◆ぼくは、ラーメン屋をしてる。そして、日本一メンも、スープも、うまく、マツチや、としちゃん、松田せい子ちゃん、橋本せい子ちゃんなどがきて、けっきょく、げいのう人になって人を笑わせ、そしてさんまをぬかし、オレたち徳やん族、徳やん、あっくんごきげんテレビ、などをして、金もちになっている。へへ……。

佐藤 良子

◆家にいろんなロボットがいて、そのロボットといっしょにいろんな事をしたい。それにもボタンか機械じかけの家に住みたい。それに、平ぼんな家じゃなくて、しかけのある、自分もあきない、たのしい家をつくりたい。そして自分がその家に住みたい。

岡崎 賢治

◆大きな家に住んで豊かなくらしができたらしいと思う。毎日ディーナでめしつかいがざつと千人、そして車で会社までおくりむかえをしてくれる。

井上 美季

◆小さくてもいいから、自分の家をもって、今までと同じようにふつうにくらしたい。そして、何もなく、元気に楽しくくらしたい。

百合本 穠

◆ぼくは、ぜいたくなことはいわないで、幸せなくらしができればいい。

坪田 綾子

◆少しお金持ちで、お家は大きくて、お城みたい。みんな思いやりがあって、やさしい。家族。で、とっても幸せ。なーんちゃって。

加甲 賢聖

◆子どもがいて、庭が約一万haあって、自家用の飛行機があり、仕事は月に三度だけ行って、収入が月に一億程度あって、死んだら仁徳天皇りよりより大きな墓をつくってもらえる。

津田 有子

◆家族全員がいろいろな意見を出し合って、いっちするようなくらし。ひとときを作って、その日のことなどを話し合いもり上げていきたい。しあわせなくらしがしたいです。

肥塚 学

◆ぼくは、東京ドームの3個分の土地を買って自分だけの未来都市を築いて、コンピュータを五十台買ってコンピュータで店をしたい。そして、ちがうところにもたくさんさんの会社をもつ大きな会社になりたいと思う。

安本 美香

◆私は大きくなったらお金もちになり、そして、有名な会社に行きたいなあ。有名な会社じゃなくても、そこが楽しく、明るくいける所がいいなと思っています。そして、長生きして健康な毎日をすごしたいなあと思います。

平松 尚寿

◆ぼくがめざしているくらしは、別に金持ちになりたいことはありません。ふつうどうりにくらししていける生活にしていきたい。

竹本 五勝

◆目がさめると、フランス製の高級ベット。パジャマは麻、家は六階建、もちろんエスカレーター・エレベーターはついている。

三階の食堂で野菜とパンをたべて、毎日ベントで出かける。会社はバリリスという大々会社の社長、会社は二百階建、エスカレーターで最上階までたったの二秒、しかしくるまでに最上階から五分、これにはまいっている。地下はB50まであり、いちばんしたはすごく暑い。株でもうけて毎日が楽しい。

昼食、特上のすし、夜食ももちろん500gのステーキ。ホッホッホ。

森崎 和憲

◆ぼくは大きくなったら、土地と株を買って金持ちになりたい。

## 評価をするのは

だれのため？

竹見智恵子

評価をめぐる、六月号の竹見智恵子さんの文に対する三枝かつ江さんの意見と、竹見さんの返事を八・九月号「こだま」に載せました。再び三枝さんから意見が届き「今でも、私は『子どもは評価されることが好きで、評価されることによってがんばる』と考えています」とありました。そこで、また竹見さんに書いていただくことにしました。竹見さんは、三枝さんに再度反論する必要を感じないが、前の文章の流れに続けて、教師一般が持っている評価観への疑問などにも触れてみたい、と次の文を送ってこられました。

(編集部)

## ☆感動的な林竹二さんの授業行脚

“いい授業”をめざす先生たちにとって、林竹二さんの存在は今なお大きいものであるようです。

教育学者であり、哲学者でもあった林竹二さんは、晩年全国の学校をまわって授業行脚にすごしました。その様子は映画や写真集にもなっているし、ご自分の著書にも書かれているので、見たり読んだりして感激した人も多いことでしょう。

私も林竹二さんから多くのものを学びました。私の場合は授業をする立場にいるわけではありませんから、授業の方法というよりも、どんな子どもも学ぶチャンスさえあれば必ず啓かれるものだし、本質的にキラキラ輝くものを持っているものだということを教えられました。

林竹二さんは、授業実践のために、好んで養護学校や定時制の高校に出向きました。現在の教育制度が外に押しやろうとしている子どもたちばかりです。こうした子どもたちが、林さんの授業を受けていく中で見事に変貌していく様子は実にドラマチックだし感動的です。

最初は斜にかまえて黒板の前に立つ林さんを見すえていたツツパリ風の若者が、だんだんと林さんの話に引き込まれ、動揺したり、考え込んだりしながら、やがて自分自身で納得いく答を見つけ出していきます。その瞬間、若者はパッと顔を輝かせ、次になんともいえない、なごんだ表情を見せます。実に美しい瞬間で、見ているこちらにまでその感動が伝わってきて、思わず胸が熱くなります。私は、林さんの授業行脚の実践を見て、いわゆる“できのいい子”“できのよく



ない子”などという世間一般の評判などいっさい関係なく、学ぶ喜びはどの子もまったく同じなのだという思いをますます強くしました。

### ☆授業で完全燃焼すればテストはいらない

さて、林さんの授業行脚の話をながながとしたのは、他でもありません、授業と評価の関係について話をしたかったからです。林さんは授業の中の一瞬一瞬を、真剣に子どもと向き合うことで自分自身をも燃焼しつくしたのだと思います。子どもたちも、その林さんに応えて、みずからの知を啓いていったのだと思います。

さてそこで、次のようなことを想像してみてください。

その林さんが、翌日また教室にやってきて「きのうはよくがんばったね。それじゃあ、勉強したことをどのくらい覚えているか、今からテストをしてみよう」といったらどうでしょう。ツツパリ少年ならずとも、とたんにシラけてしまうのではないでしょうか。授業そのものが完全燃焼し、その中で、教える側も教えられる側もじゆうぶんに満ち足りていたなら、どうしてそれ以上にテストなどする必要があるでしょう。テストの結果、Aだの、Bだの、Cだのと、子どもをランクづけする必要を林さんはぜんぜん感じていなかったろうと思います。

### ☆クラス全員オール「3」の大騒動

もうひとつ、授業と評価の関係で印象的な話があります。

もう十年も前のことになりますが、クラスの子どもたち全員に「3」をつけて「物議」をかました先生がいました。その後、私は彼女と知り合い、今でも大の仲良しです。

「あの時どうして全員に3をつけたの？」とたずねると、彼女は次のように話してくれました。

「……当時いた中学がいわゆる荒れた中学でね、うちのクラスもワルばかり。私は音楽の担当でしょ。授業中ちっとも歌ってくれないの。いっしょうけんめいピアノひいてもシラツとしている。がっかりしてね。でも、これじゃいけないと思って、まず彼等の欲求を徹底的に聞くことから始めたの。今どんな音楽に興味を持っているのか、どんな歌なら歌いたいのか、根気よく聞いていったの。ビートルズの曲やその頃はやっていたフォークソングをとりあげたり、とにかく彼等の好きなどころに徹底的に掘っていったわけ。ツツパリ相手に派手なけんかもいっばいしてね。そのうちやつとこつちを向き出した。そしてね、何か合奏をやりたいと言いつ出したの。それじゃみんなでやろうということになって、それぞれ好きな楽器を選び、始めたわけ。

まあ、たいへんだった。ラッパは勝手に吹くし、太鼓は勝手に叩くし、もう大混乱。でもね、だんだんのがつてくると、

驚くほど生き生きしていい音だすのよね。もううれしくなるくらい。

学年が終わる頃には他のクラスの生徒や先生呼んで聞いてもらったり、子どもたちの親にもきてもらって演奏会やり、私自身もほんとうに楽しかった。

さて、学年末、いよいよ評価をつけなければいけないことになったわけ。ほんとうに悩んだし、苦しかった。だって、みんなが力をあわせてすばらしい演奏をしたわけでしょう？ それなのに、どうして、ハイ、この子は5とか、この子は1なんて言えると思う？ 悩んで、悩んで、そして最後に全員に3をつけることにしたの……」

クラス全員「3」の結果は思いがけず大きな反響を呼びました。驚いたことにマスコミまでとりあげる騒ぎとなり、ついに彼女は担任をはずされてしまいます。いい授業をして、どの子にも同じように力をつけようと努力した結果が担任はずしとは……。どの子にもわかる授業をしようという努力と、その結果を評価しようとするとは、どうも相容れることができないことのようにです。

☆どの子もそれぞれに学んでいればランクづけできない

他にもクラス全員に同じ点数をつけて問題になった先生を知っています。こちらは高校の社会科の先生です。

彼はふだんからあまり教科書というものを使わないで授業

に取り組んでいました。子どもたちをとりまく世界そのものが「社会科」の対象なのですから、ことさら教科書を使わなくても、教材はいくらでも身近にあるわけです。

学期末になっていつせいにテストがあるわけですが、彼は今学期受けた社会科の授業から生徒自身が何を学びとったのか、それを書くよう要求しました。それは授業をやったものとして当然のことでしょうし、生徒に対しても、○×式のおざなりテストをするより、ずっと誠実なことだと思います。

こうして出てきた回答を見ると実にさまざまでした。個々の子どもへの思いが、それなりに書かれています。そこで彼はほとんどの生徒にBをつけ、特別よく書けていた二、三の生徒にAをつけました。

最初の学期はひとまずそんなかたちで評価したものの、彼の中で評価への疑問がひろがります。その子なりに視点がちがっていれば同じ授業をうけても学ぶことはちがっているはずです。それに対して教師がAだのBだのCだのと評価することは意味のないことではないだろうか。それに、教師からの評価を当然と受けとめている生徒自身にも、これでいいのかと問いかけたい。

次の学期は、授業の中である社会派の小説家を取りあげました。そして学期末のテストは、その小説家の作品ひとつをとりあげてレポートを書くことでした。生徒たちは思い思い

作品を選んで、それぞれにいいレポートを書きあげました。彼はその全部のレポートに60点をつけます。なぜ60点かという理由がふるっています。『100点でもよかったけれど、100点だと、満点なのだからこれでもいいのだと生徒が思ってしまうだろう、30点とか40点だと、あまり努力が認められていないことになる、60点がちょうどいいところ』というわけです。

生徒全員60点という評価は、ここでも問題となります。そしてそれは、思いがけず大きな波紋となって地域社会に広がっていきます。学校というところは不思議なところで、ひとつのことが、『問題』視されると、付随的にあれこれ、『問題』が引き出されてきます。彼についても、やれ、教科書を使っていない、校内の新聞によからぬ文章を書いた、休日に無届けで教室を使ったなどと、『罪状』があげられ、結局彼は教育委員会から処分を受けて教師の身分を失ってしまいます。これが十数年前に福岡で起き、今なお最高裁で係争中の伝習館裁判といわれるものの内容です。

こうして見てくると、林竹二さんが、どこかの学校の先生でなくて、各地を行脚されていたのは幸いでした。どこか一カ所にとどまって子どもを魅了するような授業をやっていたなら、まちがいに追放処分を受けたことでしょう。もともと林竹二さんはソクラテスを研究の対象にされていたのです

から、毒杯を飲んでも『いい授業』を続けられたでしょうけれど……。

### ☆評価が教師不信を招くこともある

授業と評価は、どうしてこうも相性がよくないのでしょうか。これは逆に考えたら、後でテストをしたり評価をしたりしなければならなかったために、ずいぶんと授業そのものが制約を受けているのではないのでしょうか。単純に考えてみても、教える先生と教えられる子どもがせつかく授業の中で一体化しても、それが次に評価する・されるの関係になった時、たちまちその一体感は崩れ去ってしまうと思われれます。評価というものは、それをどううまく公平にやろうとしても、今の制度のなかでは全部の子どもを納得させるものではありません。また、表面的にはテストや評価を受け入れているように見える子どもでも、それが何かの拍子に、たちまち不信感や憎しみにかわるものであることを、感度のいい先生ならもうとつくに気づいているはずですよ。

それにしても、これまでの例に見てきたように、『いい授業』を実践する先生が、その後で子どもたちにAだのBだのCだのとランクづけることのおかしさを悟り、それを誠実に実行すると、どうしてあのような厳しい処遇を受けるのでしょうか。どうもそのあたりに、現体制が評価というものをどう考えているのかのポイントがありそうです。

(続く)

# 新しい家庭科を

## 創るために

小学校では

### N君に見る成長の飛躍

北川 好美

「……（障害を持った人達が）シャバで生き続けられるかどうかは、本人の仕事ができるか、あるいは勉強についていけるかどうかより、隣に『いいじゃないの、いっしょにやっていこうよ』という友人をもち得るかどうかにかかっていることが多い。……」（We'82年6月号「盲導犬はいや」北村小夜さんより）——読み返す度に、胸が熱くなる。

今年転動してきて、三年生を担任することが決まり、同年の新担任五名が顔を合わせた。

小学校では、普通、クラス替えは、三年と五年時に行われる。子供たちの名簿の入った封筒が五クラス分用意されていた。私に配られた名簿の中に、養護学級在籍で、レンノック

ス症候群という障害を持ったN君が含まれていた。昼間、急に倒れ意識のなくなる大きな発作を、運悪く就学時健診時に起こしている（今は、大きい発作を抑える薬を飲み、主治医も、昼間倒れることはないと言う。しかし、その発作を理由に、養護学校へ行くように言われたり、学校での活動を自由にはさせてもらえなかった）。また疲れた日の夜、寝ている時に、軽い痙攣発作を何千回と繰り返してきたということがある。そのため、知能の発育が抑えられ、薬が強いせいか、動作や、話し方は緩慢で、すぐ疲れるということである。

四月、始業式の後、N君の母親から電話があった。内容は学級担任が転動してきたばかりの私に決まったことに加え、養護学級「なかよし」の担任二人ともが替わってしまったことを知り驚いているということであった。次の日の授業終了後、教室で話し合うことにした。

N君を傍に、母親と、「なかよし」担任と私で話し合った。母親の話は、「今までは、普通学級でやっていくのは無理だということ、Nのためにもそれがよいと思い「なかよし」学級に入れた。給食と、午後の授業は、原学級へ帰った。

両親の願いは、学校を出るまでに、最低の学力と、自分のことは自分でできる力を身につけてほしい」というものだった。しかし現実には、それとは程遠いように思えた。母親は必

死になって、「あいうえお」の文字から、簡単な計算、九九等を、N君に叩きこんだ。だが、原学級の子供たちとの交流は浅く、道で出会った学級の子供からいつも「養護のN君」としか言ってもらえない。三年生からは、できる限り原学級のみんなと一緒に学ばせていきたい……。今まで、経験してきた辛いことを、涙をまじえ話す母親。N君は、心配そうにながめたり、ニコニコ笑い頬ずりしたりしている。

私もその話を聞きながら、涙が出て止まらなかった。とりあえず、その場で、「なかよし」担任と私は、時間割を考え、一週間の半分を原学級へ帰り、とにかく様子を見ながらやってみることにした。母親には、自分にできる限りのことはするつもりであるということ約束して別れた。

約束したものの、果たしてどこまで転動してきたばかりの自分にできるのかわからなかった。

実際やってみて、全でうまうまかなかった。図書館・保健室・運動場はもちろん、「なかよし」学級と原学級の往復、移動が特に、惨々であった。三階の教室と一階の「なかよし」とは中庭をはさんだ対角にあった。最初は教室へ帰ってくるのを一番嫌がった。泣きわめき、ひっくり返り、抵抗の限りをつくすN君を抱きかかえながら話した。「みんな待っては

るで。みんなと一緒に勉強しような。ええか。みんなと一緒にがんばるな」。気がつく、頼んだわけでもないのに、いつのまにか必ず、何人もが応援についてきて、「Nちゃん一緒に行こな。がんばるな」と声をかけ、靴をはくのを手伝ったりしている。

教室でも席につかず、後ろに置いてある工作を倒したり、学級のボールを転がしたり……。そんなN君を、追いかけて回す私。学級の子供たちは、うれしそうに笑って見ている。

ところが、ある日、教室に入らないN君の足を叩いたり、つねったりしている子供がいることに気がついた。「なぜ、そんなことをするの?」と尋ねると、「だって言うときかへんねんもん」と答える。「N君は、みんなの友達だ。友達に暴力で言うことをきかせるのだけは絶対に止めてほしい」と話してきかせた。

しかし、また別の子供が、叩いている。「だって言うときかへん時には、叩いてもいいって前の先生も言うてはった」と言う。今まで、それが許されてきたのだ。その子たちに何回言ってもわからず、「前のクラスの子、今でもみんなやってるもん」と言うのである。確かに私も他のクラスの子供までがN君の頬を両手でつねっているのを見つけた。「なんで、そんなことをするの!?!」とつい大声をあげると、その



N君の自画像です

が行われてきたのであろう。「それは間違っている。二度としないでほしい」と私も繰り返して話して聞かせた。

学級では、そのことをわからせるために、「生命」とはどういうものかを一緒に考えた。N君や、あなたがた一人ひとりが、どんなにかけがえのない大切な存在なのかを機会ある毎に話し合った。私も、妊娠中、切迫流産、妊娠中毒症、卵巣摘出手術を行い、それでも負けず、生まれてきた子供を見た時の感動を話してきかせた。今まで「アホ」「ヨウゴ」とか言われ続け、叩かれてきたN君と、お母さんの気持ちを考え、わかってほしかった。

一方で、N君のクラス移動の際の応援団は増え、私なんかより上手に相手をしてくれるようになった。教室で「イヤダア、イヤダア」を繰り返して、泣き止まない時に、「これやっ

剣幕に驚き、ベソをかきながら、「だって言うこときけへんねんも。みんなやってるやん」と同じことを言う。今まで毎日、毎日繰り返して、そういう事

●新しい家庭科を創るために／小学校では  
たら喜ぶんとちがう!?」と教室を飛び出し、「なかよし」から紙芝居を借りてくる。効果てきめん。泣き声が小さくなったかと思うと、いつのまにか、片目を開け、ついに両目ですっかり見ている。それから、しばらく紙芝居の毎日が続いた。「三匹の子ブタ」「ちびくろさんぼ」「長ぐつをはいたねこ」「七羽のカラス」……。時間にして五分位であるが、みんなは一緒に手をたたいて喜んでゐる。

「なかよし」学級へ迎えに行く時、子供たちが都合で行けなく、私一人が行くと、「なんや、先生だけか」なんて言うのを驚き、うれしい気持ちで聞いた。「この子は、自分に閉じこもり、人と関係を持つとうとはしないのではないか」と思っていたのだ。それから休み時間中、他の子供たちに、紙芝居や本を読んでもらったりするのを、よく見かけるようになった。

そんな日々が一カ月程続くと、今度は「なかよし」学級へ行くのを嫌がることが多くなってきた。「それなら、教室でずっと一緒にやろう」と言うのと、子供たちは手をたたいて喜んだ。その頃から、目に見えて、N君は変わってきた。話をしに、ニッコリ笑って、私の膝に乗ってきたり、手をつないでくるようになった。

「あんな、明日、ゴリラの家に行くねんで」「ゴリラって誰

やのん?」「ゴリラはな、ゴリラや」。後でわかったのだが、ゴリラは祖父のことであつた。それからN君は一人ひとり全員に、あだ名をつけ出した。「焼きソバ」「ピーマン」「トマト」「ムスメ」(男の子だけどなあ)。「ダイコン」「絵の具」「ツル」「オフロマン」といったものから「ゴミ」「ゴミバコ」「ウンコマン」「シッコマン」という失礼なものや、「野球の服」という意味不明のものまである。「先生は?」「オバケや」。みんなドツと笑う。どんなあだ名がついても本当に面白そうに、ゲラゲラ、ニコニコ笑っている。

四月当初は本当に戸惑つた。しかし、私よりもっと戸惑つていたのはN君自身に違いない。「なかよし」の担任、学級担任、学級も、友達も替わつたのだから。そして今までやってこなかつた教科も、みんなと一緒にやるようになったのだから。プール水泳、社会見学、運動会、写生会等、すべて初めての経験。この半年の短い期間に、N君は、今では何でもみんなと一緒にできるようになってきている。

毎日、次々といろんなことができるようになっていくN君だが、忘れられない場面がいくつかある。

体育はやったことがなかったせい、着替えから嫌がり、なかなかうまくいかなかった。着替えても、決してみんなの

所へは来なかつた。それが、ある日、自分一人で着替えるから、みんな出て行ってくれと言う。他の子供たちは、ドッジボールを始めたが、N君なかなか降りて来ない。そつと見に行くと、大奮闘して、本当に一人で着替えているのだ。しばらくして降りて来た彼に「偉いなあ」と言うと、ニココリ笑う。

「どうやNちゃん、みんなとドッジボールするか?」と言つてみた。すると、すつとみんなの中に入つて行つたのだ。みんなも喜び、パスしたり、N君には手かげんしている。「あつちへ投げるねんで」と言われセンターのラインを、どこまでも越えて追いかけて、投げる。みんなは、「ウワーツ」と逃げ、「うまい」「そうや」とか言つて、手をたいてやる。笑いながら、子供たちを見ていると泣けてきてしまう。

そして給食の時であつた。机を四つずつくつつけて、グループで食べるのだが、どうしても、自分だけの机は離して、みんなと違う方向を向いて食べていた。それが、突然に、机をくつつけて食べ出した。驚いて、ニコニコしているみんなの顔を見て、「うん。うまい!」と大声で、叫んでいる。

大人の目から見て、それは無理かなと思うことでも、子供たちは、難なくやってしまうことがある。

本人はやると言うのだが、給食当番がする食器や牛乳の運

搬を、今まで他の子と替わってもらっていた。「どうしよう」と言う私に、他の子は言う。「ええやん先生。食器、落としたら、みんなで洗た<sup>あ</sup>らええ」「そうや」「ホンマや」。それ以来、何でも運んでい<sup>あ</sup>る。慎重にして、落とすこともないし、慣れてもきてい<sup>あ</sup>る。家でも、毎日、友達が遊びに来る。その時みんなは自転車に乗って来る。N君にも自転車に乗れるよう、いつまでも教え、とうとう乗れるようになった。その感動を連絡帳に「私たち親子にとって、記念すべき日となりました」と書き記されていた。私もうれしかった。

N君を見ていると、成長ってステップを一段ずつ昇っていくのではなく、二段も三段も飛躍を繰り返して行くこともあるのだと思った。学習面でも、四月に算数では、簡単なたし算、引き算を指で数えながらやっていたのが、みんなと一緒に、かけ算や割り算、グラフ、余りのあるわり算、分数とやってきた。すると遅い時もあるが、みんなとほとんど同じようにできるようになっている。気がつく<sup>あ</sup>と、きちんと書けなかった数字が、いつの間にか書けるようになってい<sup>あ</sup>る。たし算ができなかったら、そればかり練習して、次は繰り上がり次は、二桁、三桁の計算へと。みんなとは別に勉強していたら、今、N君が私達を驚かせる飛躍があつたろうかと思う。

●新しい家庭科を創るために／小学校では

N君のいる三年五組は、いつもシーンと静まり返っていないで、急に、彼が黒板に出てきたかと思うと、「8が書けるで」と言<sup>あ</sup>って、「8」しか書けなくて「アレッ」と言<sup>あ</sup>って、みんなと笑っていたりする。ずい分、じつと座っている時間は長くなった。しかし飽きてくると、ゴミ箱のゴミをきれいにしたり、氣にいった人の椅子に半分腰かけさせてもらい「仲間に入れてね」なんて言<sup>あ</sup>ってニコニコ笑っていたりする。

子供<sup>あ</sup>っていいなと思う。一番のワンパクY君が、「なんかNちゃんと話してたらやさしい、しゃべってしま<sup>あ</sup>うな。お母さんに言<sup>あ</sup>うたらな、それでええんや言<sup>あ</sup>うてたけど」。

「ラミ中学校ほしいねん！」の田中英雄さんの「障害を持った子は、機械的な訓練を続けることによってできるようになるのではなく、人と人との関係ができて、初めて多くの事を獲得していくのだ」という話を思い出している。

障害を持たない子も、教師も、そうだ。この学級には、ほととずる温かさがある。N君がいて、一番変わったのは、まわりの私達かもしれない。

(大阪市立鳴野小学校)



# 新しい家庭科を

## 創るために

中学校では

## 共学の道のり

### 常陸れい

We 編集部の方とお会いし、We の読者の中にも意識はもちつともまだ共学実践できないでいる方や、どのようにして共学をしたらよいか悩んでいる方、教育課程が変わる以前に共学をやってもよいのかという疑問をお持ちの方がまだいらつしやるということで驚きました。私は We を読まれている家庭科教師はもうとうに実践なさっていて、今は新しい家庭科を創るための教材の工夫や、自分自身を豊かにふくらませるための学習や活動をされている方々ばかりという思いこみを持っていたようです。ふり返ると私自身も共学の領域を少しずつ増やしていったものの、内容についてはあれもこれも欲ばりすぎたり、共学実践者の報告を聞いたりしながら、私にはと

うてい無理と自信をなくしたり、これなら私にもできると意気込んだり、やってみたが思うようにいかなかったりで、試行錯誤を重ねてきました。今までかけた時間と実践の積み重ねで、自信も信念もついたところで、We に発表できるようにしました。今回はこれから共学をはじめようとする方のために、当初をふり返りながら現在までのとりくみや教材について書いてみます。

一九七〇年に小学校から恩方<sup>オウカタ</sup>中学校に転任、翌年より一領域（機械）とり入れ、ここに十四年間勤務しました。八王子の中でも恩方地区は山ひだの谷間に民家が点在する地域で、当時は一学年二クラス、全校で七クラスでした。当時は木造校舎で、学活にはわらび探りや川遊びができました。ここで四人の技術科教師と出合い、話し合いをしながら年々、共学の内容の領域を増やし、十四年目に一年から三年まで全面共学が実施できました。

### 恩方中での共学のきっかけ

この地域は通学距離の範囲が広く、自転車通学者九割を占めていました。この実情を教科に結びつけ男子も女子も自転車の基礎的な機械要素をとりあげ「機械」（当時家庭機械の領域があつた）から始めました。二年の二クラスを、二人で

それぞれ一クラスずつ受持ちました。

。四人の技術科教師と教師自身の変化

技術科教師が変わるたびに前年度の共学について理解してもらい、得意な領域から取り上げます。どの教師も着任当初とまどいぎみですが、二年目には必ず共学の領域がふえていきます。共学することによって生き生きした子供の様子、目のかがやきを目のあたりにし、男女共に学ぶことは本来自然な姿であることを確信しました。また、学級担任の立場からも、授業で男子のみ、女子のみと接している時よりも学級経営上生徒の思いがけない発見に結びつき、生徒理解に役立ちました。

。校内での職員へのPR

視聴覚教材を使用する場合など、朝の職員打合せで授業公開することを知らせ、共学をやることの意味と教科に対する理解を深めてもらいました。

。家庭科だよりの発行（家庭へのPR）

授業で、今、学習している内容や、生徒の様子、連絡、生徒の会話などを、「家庭科だより」として各家庭に配布して、

●新しい家庭科を創るために／中学校では  
教科への関心をもってもらいたいと思いました。

。教材作り

教研集会、民間教育団体の研究会や市民講座などにも積極的に参加し、自分なりに無理なくとり入れられる内容や資料をふやします。教科書は参考程度にし、独自のテキストを作ります。

。仲間を作り学習会をもつ

八王子市教研集会で根津さんと知りあったことから、市内の家庭科教師に呼びかけ、仲間を増やし、家庭科について語り合ったり、資料の情報交換をしたり、ベーコン、豆ふ作りなどの実習も重ねました。

。地域の特徴を生かす教材のくふう

恩方地区は昔は神奈川県に属し、地形的には八王子でも隔離された位置にあり、独特の伝承文化が発達したところでした。民俗学の専門である社会科の先生に、恩方の歴史と生活習慣を学ぶとともに、紹介してもらってあちこちの農家を訪ね、土地に根ざしたうどん作り、けんちん汁、その他、年行事食などを学びました。これを授業にとり入れ、職員にも

試食してもらいました。職員にとっても楽しみとなり、職員室の行事食(?)としながら、教科としての発言力を強くしてきました。

### 生徒の感想より(原文)

(恩方中)三年 金子哲雄

この間、久しぶりに調理実習をやりました。めんどうだったけれども、終わってから今になって考えてみると、大変だったが、とてもいい経験をしたと思います。なぜかというところ、ぼくたち男の子は台所に入り、母といっしょに料理することはないし、まして一人で料理することなどない。だからこの間の調理実習はとてもいい経験になり、また料理の楽しさもわかりました。それに恩方の料理というテーマもとてよかったです。ぼくたちの身辺にありながら、作り方を知らなかったり、また知っていても本来の恩方独特の作り方でないものなどがたくさんあることを知る事ができました。中学校三年間の決算として、卒業を目前として、いるぼくたちにとってよい勉強になったと思います。

### 。生徒の興味・関心をキャッチした教材

きんちやく袋が流行しはじめた時、生活指導面でこれを規制しようとする動きがありました。いち早く、「シューズ入

れ」や「体育着入れ」として「被服」領域でとり入れ、教科で扱っているのだからと職員会議でも認めざるを得ない方向に持っていきました。製作するものについては色・柄・大きさなど全く自由にし、使用目的に合っていれば、自分が作りたい、持ちたいという意欲を先行させ、物を創る喜びと、それを学校で持つて歩けるという満足感を味わわせました。

恩方中に勤務してから十四年目、私の出会った四人目の技術科教師は数少ない女性の教師でした。ここでやっと一年から三年まで全面共学ができたものの、人事異動で、翌年私は<sup>す</sup>檜原中に転任しました。

### 檜原中学校での共学のとりくみ

この学校では技術・家庭科は別学でしたが、私の転任が内定した段階で、前任の家庭科教師と話し合い、私の共学に対するとりくみを技術科教師に伝えていただき、快く共学を受け入れてもらいました。学校の様子がわかるまで一年別学を経験したあと、私の意向を出すことも考えましたが、家庭科を通してくらしを見つめ、いとおしみ、生命を大切にする力を身につけてほしいという私自身の信念がそうさせたのです。

一年経って話し合った時、共学で、男女の能力的差は全く

●新しい家庭科を創るために／中学校では

感じられないこと、むしろお互いの持ち味を出し合い、影響しあい、共学を実施してよかったと言われ、とてもうれしく思いました。

。他教科との連けい

さっそく家庭科への理解と啓蒙の意味で関連教科の担当教諭へ助言・協力を求めました。

理科——植物に関しての由来、色、特色などの知識を得、染色の学習に役立たせる

社会科——地域的な事に関する風習などを聞き、調理実習の手打ちうどんなどの場合に食べ方や土地の作り方など参考にする

美術科——ろうけつ染めの図案について生徒への指導・助言をお願いする

体育科——身体の発達と性についてなど、指導内容をお互いに共通理解し、家庭科としての保育学習に役立たせる

。家庭科授業内容

これについては、'87年七月号の89頁を参照して下さい。

おわりに

理解ある技術科教師に会い、職場の同僚の支えがあり、条件としては恵まれていたのは事実ですが、共学を教育原則としている公立学校で、家庭や社会の中の生活者として生きることやくらしにかかわることを学ぶ家庭科を男女共に学ぶことは、特別なことではなく、ごく当然のことであると思います。一日も早く、一人でも多く共学を実践する家庭科教師が増えていくのを望み、発表したり、呼びかけたりしています。  
(八王子市立檜原中学校)

平井雷太著

ワイ書房

「らくだが翔んだ」

——教育の常識の非常識——

B6判・208頁 定価一、二〇〇円／送料二五〇円

教育についてのかまびすしい論議の中で、手垢のついた論ではなく、自分の立つ場をはっきりさせ、そこから自分の言葉で自分の思いを卒直に語る。型にはまった思考の枠から、するりと抜け出して現象を読みとる著者の等身大の教育論。松井守男氏の表紙絵が、著者の世界をいっそう広げる。

# 新しい家庭科を 創るために

高等学校では

## 住まいと人権

浅井 由利子

「住居は教えるににくい。生徒の住んでいる家はさまざまで、狭い家に住んでいる生徒を傷つけることになるから、あまり具體的なことはふれない」という教師たちの声をきく。しかし、本当にそうだろうか。「人間らしい生活ができる住まい」について学ぶことが、狭い家に住んでいる生徒を傷つけることになるのだろうか。狭い家にしか住めないというのは、個人の責任ではなく、人間らしい生活が保障されていないことこそ問題なのではないだろうか。今まで、住まいの問題は、個人で解決するべきだという考えが強かったから、狭い家にしか住めないのは、はずかしいことだと考えてしまい、経済的に余裕がなければ改善することもできず、だから、あきら

めて、がまんするしかなかったように思う。人間が人間にふさわしい住居に住むことは基本的人権であるという視点で、住居の授業を考えるならば、避けて通れない重要な授業だと思う。住まいの重要性を認識し、なぜ、日本の住宅がこんなに貧しいのか考えていかなければ、住宅の現状を変えていけないのではないだろうか。

私が住教育に興味をもちはじめたのは、五年ほど前のことで、たまたま、保健婦をしている友達に、日本住宅会議の研究集会に誘われたのがきっかけである。それまでは、時間がたりないことを口実に、ほとんど、住居に関する授業はしてこなかった。教科書を見ても、どんな授業をしたらよいかイメージがわいてこなかった。しかし、この研究集会に参加してみると、建築の専門家ばかりではなく、法律・福祉・教育・公衆衛生など、さまざまな分野の人がいて、また、学者ばかりでなく、市民も共に考えていくというものだった。住居は、ハード面ばかりではなく、ソフト面についても考えていかねばならないことを知り、今まで私が考えてきた住居ではなく、もっと、おもしろいことができそうだった。

授業の流れ（年生女子・二学期 16時間）  
1、自分の家、住環境に対する不満 私に住みたい家

（1時間）

## 2、日本の住宅問題

### 3、戦前・戦後の住居と住み方

#### 4、間取り図を読む

#### 5、自分の家族が2DKに住むとしたら

#### 6、過密居住の実態

#### 7、住宅の国際比較

#### 8、家をさがそうー住宅情報誌等を使って

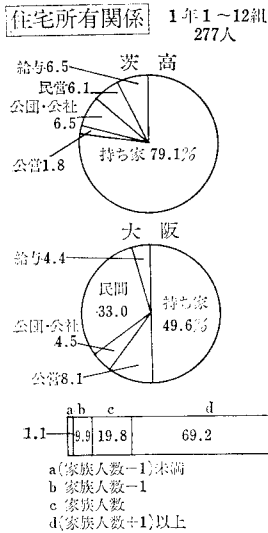
#### 9、ビデオー88ドキュメント につぼん住宅貧乏物語

#### 10、発表・まとめ

#### ファミリージャーナル 病はすまいから (2時間)

#### (3時間)

生徒は大阪の北部、茨木市・高槻市・摂津市・吹田市などに住んでいる。持ち家に住んでいる生徒が8割近くあり、住



宅事情はかなり良い。

自分の家・住環境に対する不満について書いてもらったものをいくつか紹介する。

私は、中2のときに北九州から茨木に引っこしてきたが、今のマンションを初めて見た時はびっくりした。北九州にいた時もマンションだったけど、今度のは、ベランダが前に比べると半分しかなく、部屋も3分の2もない。6畳といっても畳一枚がすごく小さくて、前のマンションの4畳半くらいしかない。そんな小さな6畳が3つとリビングとせまい台所、5人家族でそれだけ。私は、去年受験だったり、女の子一人ということもあって、部屋をひとつもらったんだけど、机やベッド、本棚、たんすが入ると、もういっぱい。でも、第二人のことを考えると、文句は言えない。そして、マンションは171号線の交差点のかどに建っているから、排気ガスがひどい。

私の家は、環境的には非常に恵まれている。千里ニュータウンの中でも、特に便利で緑がいっぱいある。近くに万博公園もあってよい。阪急(電車)も御堂筋も近くて、交通に困ったことはない。5分以内で、保育園・幼稚園・小学校・中学校・スーパー(オアシス・ライフ・ジャスコなど)に行ける。公園もいっぱいある。環境的には申し分ない。

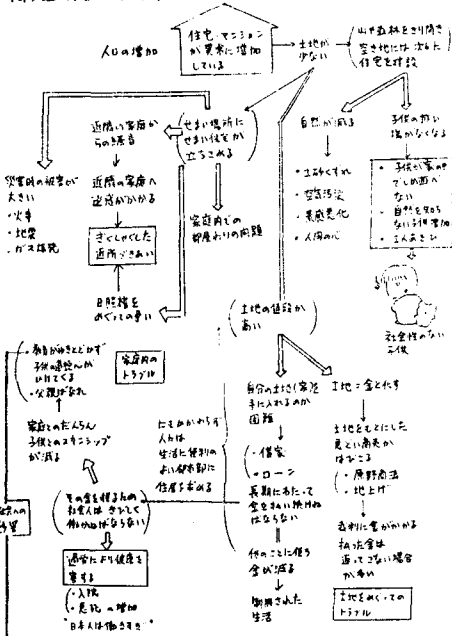
●新しい家庭科を創るために／高等学校では

私の家は3階建の杜宅の2階です。収納スペースが少ない庭がないので落ちつかない。飛行機や車の音がうるさい。玄関が暗い。電話が玄関にしか置けないので、話し声が階段とかにまる聞こえ。部屋がほとんどふすままでつながっている。洗たくものが道路からまる見えになってしまう。

日のさしこまない部屋があつて、昼でも電気をつけなくてはならない。家の購入の際には多くあつた緑も、開発のため、次々となくなつていつてゐる。広告では、「緑のある」などとあつても、その緑が他の人の財産であるかぎり、不動産業者は「緑のある」などと宣伝すべきでないと思う。団地なので、隣の家などが夜遅く、お風呂に入ったり、洗濯をしたりする音がうるさい。ピアノの音、子どもの足音、どなり声などもうるさい。

「特に不満はありません」と言う生徒もいたが、大阪のなかでは緑が多いと言われているこの地域でも、だんだん、緑が少なくなってきたことや、都市に住む人々に共通した住

住みたい家については、出窓・地下室・クロゼット・吹きぬけ・屋根裏部屋、だんろ、トレーニングルーム、図書室・縁側などが出てきていた。また、噴水や芝生のあるパーティイのできる庭、景色がみえるお風呂、髪が洗える洗面所、友達をたくさん呼べる広い居間、大きい窓、犬・猫を飼うことができる家というものもあった。今、流行のものに、やはりあ



( 53 )

こがれるのだろうか。生徒たちの住まいに対するイメージがわかって、なかなかおもしろい。

次に、生徒が日本の住宅問題をどのように捉えているか、住生活の構造図を書かせた。「今、どんな住宅問題がおこっているだろうか。また、その問題によって、どのような影響がでてきているか考え、それを矢印でつないでいき、次々、原因や背景、その影響を連想していつて、関連するところをつないでいこう」と説明した（前頁の図を参照）。

戦前・戦後の住居については、『新しい住生活』（連合出版）を参考にし、大正期小住宅・昭和初期小住宅・戦前の切り庭型住宅・戦後のローコストハウス・公営住宅・民間木造アパートの間取り図等をプリントにし、それぞれの住み方の特徴やその頃の家族関係について考えた。

間取り図を読み、そこでの生活を具体的に考えるため『新しい住生活』『住まい再考』（彰国社）『家族と住まい』（ドメス出版）から、間取り図を選び、これもプリントにして、住みにくい点はないか生徒に考えさせた。はじめは、わかりにくいようだが、いくつかヒントを与えると、興味をもっていろんな点に気がつくようになる。しかし、広さの感覚はつかみにくい。そこで、どんな生活ができるのか具体的に考えていくことは、かなり難しい。

#### ●新しい家庭科を創るために／高等学校では

今までは、この後、新聞に折りこまれている住宅のチラシ広告を集めさせておいて、その中から、住みたい家を選び、各部屋をどのように使うか考えさせたりした。しかし、こちらが何も言わなかったら、部屋数の多い、広い家を選んでくるので、現実には、もっと狭い家で困っているのに、そんな問題がわからなくなってしまう。建売住宅にしてもマンションにしても、チラシ広告に出ているような家は、広くても、住みにくさ（問題点）があるし、経済的な問題を考えると、生徒が選んできた住宅は、とても買えないことがわかる。要するに、住宅チラシ広告を使って、何を学ばせるかということなのだ。チラシ広告の家を見るのは確かに楽しいし、生徒はとても喜ぶが、今回は、本校の生徒が、わりと恵まれた住宅に住んでいることを考え、もっと、現実的な問題（家が狭いという問題がおこってくるのか）を実感してほしいと思った。それで、公営住宅2DKの間取り図（150）をコピーし、そこに、自分の家族がひっこすと考え、自分の家の家具のサイズを調べてきて、間取り図に、実際に、家具を記入していくことにした。

生徒の第一声は、「こんな狭い家に生まれへんわ」「絶対むりや」

「この家に住んでる人はいっぱいいるよ」と私。



「でも、二人かせいぜい三人でしょ。私とこは四人家族やもん」

「そんなことないよ。四人家族か、もっと多いところもあるし」

「うそー」と本当にびっくりしている。

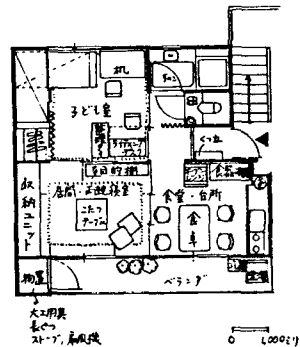
「住んでるよ、私の友達、そうだもん」と、別の生徒。それでもまだ、信じられない、という顔をしている。

生徒が調べてきた家具の多さに今度は、私の方がびっくりした。全部記入していったら、おそらく、ふとんをひくスペースもなくなるだろう。もしかしたら、家具が入りきらないかもしれない。しかたないので、「よく考えて、どうしても入らない家具があったら、それは、しょうがないから、処分することにする?」と言うと、「ピアノ、いらんわ。捨てよか」「仏壇もいらん」と、ポイポイ、気前よく「捨てて」しまう。紙の上での話だから、そんなに簡単に言えると思うのだが。

。予想以上に家具が大きくて、少ししか入らなかった。スペースがない分、家具を少なくしなければならなし、これでは人と人がぶつかるのではないか。

。私の家は団地の3Kなので、一応全部入った。よく考えてみると、うちは横に並べるより、上に積んでいるものが多

渡辺くんの家の住まい方  
『くらしをつくる』民衆社から



い。見かけは少し変だけど、その方が、まだ、部屋が広く使える。

。自分の今の生活からみると、こういう家にどうやったら住めるのだろうかと思う。家具を配置してみても、これは大変だと思った。住むのにはかなりの工夫が要求される。

生徒は、家具を書きこむのに、ずいぶん苦労していた。置き場所がなく、出入口や窓を家具でふさいでしまったり…。この家に、洗面所と更衣場所がないことに気づき、ぶつぶつ文句を言っている。「こんな狭い家に住んだことがない」という生徒たちにとって、少しは、過密居住の実態を考えるきっかけになったのだろうか。次回、この続きの授業について報告したい。

●新しい家庭科を創るために／高等学校では



## 「強者の論理をめぐって」(3)

◆西内みなみ様・梶原公子様

梶原さんの手紙には、こうありました。

「強者が弱者かというより、その囲われた中で生きていてそこから出ることができない人と、出ることが選択肢の中にある人との違いではないか」と。西内さんも、我が子の教育について選択肢を持つ親と持てない親を強者が弱者かのものさしにしているように書かれていました。私のことを強者であると決めつける場合、私の何を指して強者としているのか、何回かの論争を通じて鮮明になってきたように思いますので、私なりの考えを書いてみたいと思います。

「選択肢を持つ生き方ができる人は強者であ

る、だからあなたは強者だ」と言われても、自分のことを言われているように感じませんでした。

というのは、自分の体験から、「この仕事は本来自分のやるべき仕事ではない。楽しくない、でも仕方ないと愚痴を言いながらもその仕事を続けている人」「私が生き生きできないのは、社会が悪いから体制が悪いからだと自分以外のせいにして言い訳をしながら仕事を続けている人」、そんな人こそ私は意志の強い人（強者であるかどうかはわかりませんが）だと思っているからです。

私は何度も仕事を変わっています。梶原さんの言い方をすれば、私は「囲われた中で生きていてそこから出ることができない人」ではなく、「出ることが選択肢の中にある人」ということになるでしょう。しかし、私の場合は囲われの中から出たくて出たのではなく、その中にいられなくなって出るしかなかったのです。意志が弱い結果でした。

私は、この仕事を続けることに意味があると思っても、嫌になると体が動かないのです。山岸会をやめた時も、山岸会のあり方に疑問を持ってやめたわけではありません。ここではやれない自分、無理している自分に気が

ついて続けられなくなってしまったのです。ですから、山岸会の生活から離れた時は、敗北感だけでした。

さえら塾（自営）をやめた時も同様です。一緒にやっていた女房が塾から離れ（離婚）、私自身がハッピーでない状態で塾を続ける気がなくなってしまうてやめたのです。子どもたちとの関係を考えればやめられるわけありません。しかし、私の塾のために、自宅を改造して塾用の部屋を作ってくれた父母の期待を裏切って、塾をやめてしまいました。今でもその時の子どもに会うと言われます。

「先生は私たちを捨てたんだからね」と。人のために義理で仕事を続けるなんてできない性格なのですから、そう言われても返す言葉はありません。

公文数学研究センターをやめた時も、やることを選択したのではなく、出社拒否的症狀を起こしての結果でした。

ですから、やめた後はいつも自責の念に襲われました。ひとつのことをし続けられる人をいつも羨望のまなざしで見ていたのです。

「あなたがそうやって自由にやめられるのは、働いている奥さんがいるからだ」「恵まれているからできることだ」とよく言われま

した。しかし、元来子どものために妻のために働いているという意識がないのですから、そう言われてもピンときませんでした。多少

子どものために妻のためにという意識が頭をかすめたとしても、嫌なことは続けられない性格。女房が働いているかどうかにかかわらず、遅かれ早かれやめていたと思うのです。

そんな状態、即ち、続けられなくなってやめざるをえない状態を指して、「選択肢を持つ生き方ができるのだから、その人は強者」という言い方をするなら、体が動かなくなっ

て学校に行けない登校拒否の子どもたちはみんな強者ということになってしまいます。自分がやりたくないこと、楽しくないことを続けられてしまうことが強者だと認めたくないばかりに、やめられない自分が弱者でやめるという選択肢のある人が強者だとも言

うのでしょうか。もし、私が主体的に人生を選んで生きている中で元気にやめたのであれば、その言葉を甘んじて受けたかもしれません。しかし、そうでなかった私にとって、残って頑張っている人こそが強者に見えたのです。

また、西内さんは手紙の中で、絶対的な強者や弱者が存在するとは思えないと書いてい

ました。私も絶対的な強者という者は存在しないと思うのですが、人を見て「この人は強者だ」と思う時が時折あります。こんなタイプのの人に出会った時です。

自分の立場から一歩も出ず、その立場を自分の拠り所にして、人を批判する人です。アジアからの留学生という立場、子どもという立場、障害者だという立場、在日韓国人という立場、女という立場、労働者だという立場にいるというだけで、それを特権のように振り回して、その立場にいない人をそれだけの理由で批判の対象にする人。そんな姿勢で生きている人こそ、私は「強者の論理で生きている人」だと思ってしまうのです。絶対的弱者がいると思い、自分はその一員であるという意識から発言する人に出会った時、そこに強者を見ってしまうのです。

また、梶原さんの手紙には、こんな文章がありました。「やりたいことをやればいいのだ」という私の詞の一節に対して、「やりたいことができる位なら苦労しない、やりたいことがある位なら無気力にならない……」

しかし、私はやりたくない仕事をできてしまう人、やりたくない仕事でもやりたい仕事だと思ひ込んでがんばれる人は、意志の強い

人（強者Ⅱ？）であるに相違ないと思っています。つまり、本当はやりたくないことをしていると気持ちでは思っているも、それができてしまうのはそれがその人にとってのやりたいことなのだろうと思ってしまうのです。本当にやりたくないことは人間にはできません。つまり、やれていることは、すべてやりたいことに違いなのです。問題はやってい

ることをやりたいことだと思えないことの方にあると思います。こんなことが自分のやりたいことであるはずがない、自分のやりたいことはどこかにあって、今は仮の姿だと自分のことを思っている、子どもがそう言っても不思議ではありませんが、子どもがやっていることが、やりたくもないことをいやいややっているように見えてしまうのでしょうか。

食べたくないのに食べれば体を壊すように、やりたくないことをやれば体を壊してやり続けられないように人間の体はなっていると思うのです。ですから、いやな仕事でも勉強でも続けられるということは、体を壊すほどいやなことではないのです。

本当にしたくないことはできないのですから、その人にとって今していることこそが、

今したいことなのです。「やりたいことをやればいいのだ」という意味を私は、このように使っています。

だから、梶原さんに言いたいです。

「やりたいことというのは、どこかにあるものだと思っているではありませんか？」とやっていることがやりたいことになっていない人に、やりたいことが見つかるわけもありません。どんなことでもやりたいことにならないことこそが問題だと思うのです。

だから、思うのです。「やりたいことがあるくらいなら無気力にならない」のではなくその子どもは「やりたいことをやっていて無気力になっている」のだと。

私のまわりには、無気力に見える一人の大人も子どももないのに、梶原さんのところにはたくさんいるらしい。そのことの方が不思議に思えました。

「していることがしたいこと」と思っていないから、戦争になった時したくないこととして殺人さえするのです。そして、悪いのは僕じゃないのと言うのです。悪いのは、国であり、天皇であったと。

「したくないことができること」「していることをしたいことだと思わないこと」そんな

生き方を当たり前だと思えることが、戦争時における人殺しを正当化することになると思うのです。少なくとも、私はそんなふうには

=====

12月号の「こだま」を読み、強者の論理をめぐって、わたしも関心があつたのだとばかり、10月号を探して目を通しました。この話の発端たる春ゼミでは、後段の話し合いの時、わたしの受け持つグループに平井さんが当たらないかなと思ったりしてました。あの時わたしのグループには李さんをお迎えして、それはそれで収穫あつたのですが。

「この話」としては肝腎のグループ話し合いには同席していないので、それなのに稲邑さんから伝え聞いた西内発言に「そうだ！」と反応したわたし、という出発点になります。

ところで、人間が生きる営みのすべて、その本人の内側からは強者の論理でしょう、ハイ、とわたしは思っていて、そのことに正直であつて良いも悪いもない、ただ大切と考えています。平井さんのゆきかたには、その根っここの正直さが見えた気がして、そうならば、話が話せるという印象だったのです。

10・12月号と展開して、いろいろな応用問題を混じり、わたしのもととの関心から話

なりたくない。だからこそ、私は「していること」したいこと」だと考えて生きているのです。

(平井雷太)

=====

に加わるのはむづかしく見えますが、活字になっているありがたさ、部分的には可能です。

平井さんの自家用教材作り、ただの親には強者の論理、強者の行動と映ります。よって立つ論理はボクの場合弱者に発するなんて返さないで！。親が子の用に何を自家製しようと、親子セット単体一とする内側からは、強者の論理によると認める地点があつてこそ。自家製が味噌か教材かを問わず、それを栄養として育まれた子がそのまま認められるべきだと、外へ言うことが成立してきます。内張りの意味の親行動は強くて本来でしょう。

平井さんの自家用教材はさらに、教えないことを育てとし、学びともしつきり別ものであるらしいシンブルさを面白いと感じます。

それを自家用に限るのと営業用に用途変更するのと、これまた別の話ですが、息子さんは両用の境で育ち「お父さん、ごちそうさま」に達した由、いわゆる一つのみごとです。

(若竹キミイ)

## 「人間の歴史の授業を創る会」

〈久津見宣子〉

「社会科って暗記だからいや」という子どもたち。授業をする教師の方も頭が痛くなって——どうも社会科は敬遠される教科になっているようです。人間の歴史の授業を創る会は自分たちが生きている社会をとらえ、その課題を子どもと共に考えていく、そういう授業を創りたいと願う教師とお母さんたちが集まってつくった研究会です。

その名の通り、会では「人間の歴史」（会の代表者・白井春男作成の自主編成の教材）を運動の中心にしています。数百万年に及ぶ人類の歴史を、生産と労働を基本にして学び、火おこしや米作りなども実習する楽しい歴史学習を実践しています。また、合宿研究会、人間の歴史講座、ものづくり講習会、フィールドワーク、子ども合宿など、お母さんと教師たちが、子どもの側に立つ教育、文部省をこえる授業をめざして活動をすすめています。

会の運動のセンターとなっているのが、人間の歴史会館です。東京・水道橋駅裏のビルの一室で。毎月、企画会議、研究会、講座・講習会を行い、会で出版している本や、推薦したい本、火おこし器、蒸気エンジンなどの教具を展示、販売もしています。どうぞお出かけください。

連絡先 〒101東京都千代田区三崎町2-21-6 管波ビル2F

人間の歴史会館 ☎03-263-3469

## 自己紹介 イキイキぐるうぶ

プロの女たちを育てんと欲す

「R & R・女のための大工実技教室」

〈梁 容子〉

R & R 八年目。スタッフは代表川口洋子と梁、一年契約のアルバイトのYさんと会計担当のNさん。それぞれ四十歳近くなり肉体の老化を自覚する今日この頃。家の改装工事にも出向いてはいるがそろそろ「職人」をやめ若い人を育てんと欲し、今年「プロ養成講座」を開設した。面接にきた三十名のうち選ばれた十名が今一生懸命大工道具の使い方や住まいの改装のハウツーを学んでいる。

常設の「女のための大工実技教室」には初級クラス中級クラスがあり、木工の楽しさを共有する女たちでにぎわっている。すでにプロなみの腕まえの人もいて、教室で学ぶ人たちの作品を常時展示し即売する店を来年にはオープンさせたいと思っている。女たちが創った創意あふれる家具や木のおもちゃ、生活用品が並ぶ店づくりが、ひよっとしたら私たちの最後の仕事になるかもしれない。

木工作家や職人として立つ人、非伝統的職種に足を踏み入れた女たちをバックアップする媒介者としてR & Rがあればと思っている。自分が住む家を基礎から建ててみたいという夢を持つてはいるが、R & Rにいる限り一坪の土地も買えそうにない。気のあった人と老後を共有する小さなアパートを女たちの手で建ててみたいけど、連絡先 〒533大阪市東

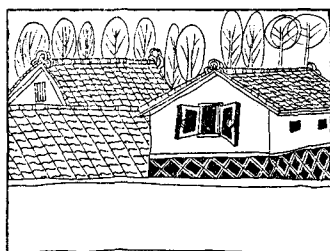
淀川区東淡路4-1-46 ☎06-233-3667

# 海の輝く日

## ピーグのその後

佐藤通雅

(カットも)



小さな子から大きな子（つまり大人）まで、楽しくまじめに同じ問題に取り組めたらなあと、長い間考えてきました。とかくすると大人は、小さい子を未熟だとか未発達だと考えがちです。でも子どもは子どもの段階で、大人と質量ともに変わらぬほどせいっぱい考えているものです。それは決して未熟とはいえない。もちろん表現においてもまだまだ力が足りないかもしれませんが「低い」という見方で処理することはできないというのが、私の基本的な考え方です。もし子どもから大人まで同じ問題に取り組めば、すぐにもわかるだろうと、いくつか実際に作ってみました。今日紹介するのはその一つで、去年家庭一般の授業を臨時に受け持ったときも実施してみました。まず問題はこうです。

ある町に養豚業を営む家があった。千びきもの豚を人工飼料によってどんどん太らせては売りさばっていた。食欲のおちたものには、むりに口をこじあげ、薬を流しこんでやった。豚のピーグはその中のいっぴきだった。もともと普通の豚にすぎず、食事の時間が来ればむさぼるように食べ、あとはのんびりとくらしているだけだった。ところがある日、突然変異が起きた。飼い主の足にまちがつて小便をひっつけた。怒った飼い主は「何だこいつ!」といって、持っていた棒で頭を打った。その時、サーツと霧が晴れるように頭脳が明晰になり、人間が何のためにわれわれを飼っているか、車にむりやりおしこめられた後仲間が帰って来ないのはなぜか、すべてが見えてしまったのだった。何も知らない大勢の仲間は、あいもかわらず、おいしいものを食べてはぐうたらな生活をしている。ピーグはどうしたらいいのか、どうすべきなのか……。

ここからは皆さんに物語を展開してもらいます。

楽しくまじめに、まさしく楽しくまじめに生徒は取り組みました。ここには高校一年のを紹介しますが、一篇一篇読みながら思わず笑ったり、考え込んだり、ドキリとさせられたりしました。

(例) ピーグはひたすらあせってしまった。死にたくない。

ピーグはここから逃げようとするが、こんなに太った体ではどこまで逃げられるかわからない。ピーグはシェイブアップを試みた。オーナーの家からは、毎夜エアロビクスのミュージックが流れてくる。ピーグはそれに合わせてエアロビクスを続けていた。一月ほどたつたろうか、ピーグはやせた。B 85、W 62、H 89と、スリーサイズもなかなかだ。

ピーグは脱出を決行した。夜道を走って走って走り続けた。おなかもすいているのがんばった。しかし体力の限界を感じたのか、ピーグは尻の穴できのこを食ったようなおどろきあがると、ピーグは尻の穴できのこを食ったようなおどろきをかくせなかった。養豚所の中でねむっていたのだ。ピーグはやせた夢を見ていたのだ。その日ピーグは背中番号を書かれ、トラックに乗せられた。このあとピーグはどうなったのでしょうか。あなたのお腹でまたやせた夢を見ているのでは……。

といったぐあいです。笑い、かつフームとうなった例です。そのほかどういう内容があったのか簡単にまとめてみます。

①目覚めたピーグが先導し、人間と闘って脱出、森の中に自分たちの国をつくる。革命的にしてユートピア的内容です。

②脱出までは同じで、森に行くが食べ物が無い。とうとう飢

え死にする。集団自決型です。

③飢え死にする前にもう一度養豚所にもどる。挫折型です。

④ピーグはいつも仲の良いブーグの頭をなぐって目覚めさせる。すきを見はからって二人だけで脱走。愛の逃避行です。

⑤ピーグは豚の危険を皆に訴える。誰も本気にせず、かえって夢想家だとけなす。しかたなく自分だけ脱走、あるいは孤立の内に皆と共に死に場所に向かう。早く目覚めてしまったものの悲劇です。

⑥どうせいつか死ぬのだから、死の瞬間まで楽しくのんびりくらそう、豚の本分に甘んじようと、ピーグはもう一度自分で頭をぶち、普通の豚に帰る。あきらめ型です。

⑦この世は食物連鎖によつてなりたっている。今さらじたばたしてもはじまらない。小さな生物は大きな生物に食われ、大きな生物は動物に食われる。動物は人間に食われるが、その自分たちにおいておいしいえさを与えるために働いている。その恩にこたえるために時期が来たら黙って食べられよう。

これらにあてはまらない奇抜な内容もずいぶんあります。が、この七点だけでも解答の多様さがわかってもらええると思います。さて、読者の皆さんならどういふ物語を展開されるでしょうか。

# 今、子どもたちの世界は

## 「劇の世界」

塚越敏雄

一月になると、子どもたちの話題に学習発表会のことのがぼってきます。

子どもたちは劇が好きです。学習に関することなら何を発表してもかまわないのですが、たいてい劇を選びます。

私は、クラスのほとんどの子が劇をやりたいがっていることをつかみ、内緒で脚本選びをすすめていました。

「今度の学習発表会の出しもののことですが、合唱なんかどうかな」

人の悪い私が挑発すると、とたんに子どもたちの不満が返ってきます。

「エエーッ、劇がいいよ。劇をやりたいのにつ」

「ゲエーキ」と一人が言い出すと、声

を合わせて「ゲエーキ、ゲエーキ、ゲエーキ」の大合唱です。

「そんなにやりたいのなら、やってもいいんだけど……」

私が言い終わらないうちに、拍手が起きました。すごい熱気です。

「だけど、厳しく、しごくよ」

「いいよ」。一斉に、こたえます。

「毎年、一人か二人は泣くよ」

何人かは顔を見合わせていました。

けれども、次の瞬間の「いいよ」の大声に打ち消されてしまいました。

「そこまで覚悟ができているのなら、今年の学習発表会には劇をやるうか」再び子どもたちの大歓声があがります。

劇は、脚本選びが大事です。子どもたちが興味を持ち、彼らの力で劇のおもしろさを引き出せるものでなくてはなりません。私は、かこ・さとし作、十河慶子脚色「どろぼう学校」を選びました。話の展開がわかりやすく、どんでん返しが仕組まれているおもしろさがあります。

子どもたちが関心を持つのは、自分がどんな役になるかということです。役を決める方法は、①希望者の中から一番じょうずな子をみんなで選ぶこと②一度選ばれてもそれ以上にうまくなった子が出てきた時には役をかえることを告げました。それによって、練習する緊張感と見る緊張感が出てきます。

いよいよ練習開始です。班ごとに、どろぼうの歩き方、かくれ方、人のおどろかし方を思い思いにやってみます。次は、一人一人の動きをみんなで見えて批評したり、ビデオに撮ったりします。再生してみると、足の動き、指先の動



き、視線の動きなど体全体からどろぼうらしさを表現できることが、演じている本人にもよくわかります。じょうずな子の動きは、何度巻き戻して見ても、そのたびに笑いが起きます。いかにもどろぼうらしく、思わず笑ってしまうのです。

この練習の中で、演ずることの恥ずかしさが少しずつなくなっていきました。いつもの自分から脱して、役柄になりきることもおもしろさがわかるようになってきたのです。

第一回目の配役が決まりました。本格的な練習は、これからです。舞台上に出てない子たちは全員、観客として見させ、批評させます。

幕が上がります。とたんに、私の要求が始まります。

「この場面は、どろぼう学校の先生と生徒が出てくるんだね。でも、君たちの様子を見てみると、誰かが先生で誰れが生徒かわからない。せりふを言

わなくても、先生なんだ生徒なんだということがわかるような、表情や動作をしてください」

先生役の子は、胸をそらせたり、足を組んだり、腕組みしたりして、いかにもエラそうな態度になります。生徒役は、肩をすぼめ、ちよこんとすわって先生の前で小さくなっている様子を表します。

「うまいねえ。実によくなった。でも生徒役が退場する時がよくない。先生にしかられたんだよ。しかれたという感じを出してください」

私が話していると、見ている子たちも生徒役のしょんぼりした態度を演じ始めます。

●さいしよ、わたしはげきをやりたくなかった。何度も何度も注意の石がぶつかる。歩き方、かくれ方、場面場面によってちがう顔のひょうじよう。みんな、わたしにとってはずかしいものだった。でも、今はおもしろいもの

にかわった。むずかしいものでも何度もれんしゅうをつづけて、なんとかできるようなった。今では、げきというものも遊びのうちのひとつ。とっても楽しいものになった。あしたは、ぜったいまちがえないぞ。(宮本直子)

それぞれの子どもたちが全力を出しきり、その力を結び合うことによって、成就感を味わえるようなできごととは、日常の学校生活の中にはありません。子どもたちを内的に結びつけるものなど存在しにくいのが、授業を中心とした日常の学校生活なのです。

日常生活とは異なった劇の世界などで、子どもたちは、いつもと違う自分を確認できたり、他の人とかかわり合うことのおもしろさを発見できるのかもしれない。日常と行き来できる非日常の世界が子どもたちの生活の中につくられていくといいものです。

(横浜市立港南台第三小学校)

# 経済の目

生活サイドから見た経済

スウェーデンの教育福祉から

日本の現状をみる

福島澄香

今年も地域の教研集会に参加して学ぶことが多かった。

小学校からは五年生の「男女で協力して作るナップザック」が報告された。最近の、大人たちの針を持つ姿を殆ど見ていない四十五人の子ども達が、「並み縫い」「半返し縫い」で定型、市販のナップザックを、みんなが作り上げるのは大変な授業だと思う。

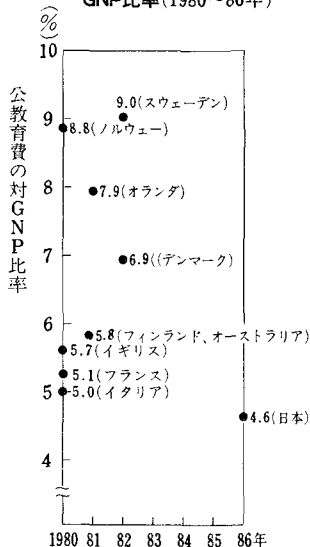
四十五人の子どもたち一人一人の手を取って教えられない先生は、実際に針を持ち、縫うところをビデオカメラで映しながら説明する。子ども達は、それをテレビの画面で伸び上がって見ながら、針を持ち、手を動かす。うまくいかないグループの輪には先生が飛んで行く。そんな活気のある授業風景をビデオで見せてもらった。

他方、「並み縫い」「半返し縫い」が充分にできなくても「自由な形、色」の袋物を作ったという若い男の先生も含めて、何人かの実践報告があった。

一番ヶ瀬康子教授の「スウェーデン・レポート」によると、スウェーデンでは、保育園で五歳位の子どもが針を持ち、ムーミンのお化けのような縫いぐるみを作っていたという。スウェーデンでは、保育園の五歳児・小学校の低学年で、すでに大人と同じペンチなどの大工道具を持って自分の玩具を作り、ミニ・キッチンで自分の食べるクッキーを作って、「生活自立のための教育」を始めているという。

なぜ、そんな小さいうちから針を持ち、曲りなりに縫いぐるみが作れるようになるのか。スウェーデンの保育園では、三歳以上の子ども三人に、一人の保育者が付く。これなら、

図1 各国の公教育費の対GNP比率(1980~86年)



(資料) (UNESUCO, Statistical Yearbook 84)

表1 ヨーロッパ諸国の学費徴収状況一覧

国名	義務教育前	小学校	中学校	高校	大学
イギリス	○	○	○	○	○
フランス		○	○	△	
スイス	○	○	○	△	△
フィンランド	○	○	○	△	●
スウェーデン	○	○	○	○	△
デンマーク	○△	○△	○△	○△	○
ノルウェー	△	○	○	○	○
オーストリア		○	○	○	○
イタリア	○△	○	○△	○△	●
日本	●	○	○	●	●

(注) ①○=無料 △=一部有料 ●=有料

②デンマークの△は私学。ただし国が85%助成。

③フランス、イタリアの△は授業料以外の学習活動経費(寄宿舎費用など)

(資料)『日高教情報』959号(84年10月1日)より作成。

手を添えて針を持ち縫うことを学ばせることもできるし、子どもが針で指をつつく程度のことはあっても、大きな危険にはつながらず、稚拙ではあっても自分の手作りの縫いぐるみもできるだろう。

日本の現状は、六十二年度の厚生白書によると、0歳児を含めて全国平均(事務等の職員も入れ)子ども六人強に一人の保育関係者だが、スウェーデンでは三歳未満の子ども一人に付き保母二人が、どの子どもにも各自自治体の責任において無償で保障されている。

また、スウェーデンでは、各家庭の家計から支払われる教育費の負担はゼロに等しいという。就学前の保育園から小学校の給食は勿論、鉛筆・消しゴムに至るまで無償である。大学は全部国立で大学生には月約八万円の生活費が保障されているようだ。

一方、日本では、全国勤労者世帯の年間平均実収入が約五百四十万円の家計から、国立大学でも年百一万円、私大の理科系ともなれば百六十二万円。遠くの大学で仕送りを含めれば年間二百五十万円を超える(三和銀行調べ)教育費を支払っている。

表1、図1をみてほしい。日本とは大変な違いである。

千葉大教授の三輪定宣氏の試算によれば、現在、日本の公教育費はGNP比の四・六%であるが、一%アップすれば「三兆三千七百億円増」となる(86年)。この額は、小・中学校三十人学級、高校三十五人学級、高校・大学の授業料を無償にすることが可能になるという。

日本のGNPは勿論、一人当りのGDPもスウェーデンより上である。日本は教育費の家計への負担が、スウェーデンに比較して増々加重になってきている。

どこから税金を徴収して、その税金を子ども達の福祉のために、どう使うか、もう一度じっくり検討してみたいものがある。



子潤信國

## アメリカの共働き夫婦は今

### ⑭ パムとダンの場合 その4

夫・ダンとは自分で事務所をもつ弁護士である。妻はすばらしい女性であり、仕事面でもその早い昇格に相応の業績をあげていると評価する。妻が働くことに賛成で、大いに支持し、かつこの一年程は家事、育児の分担も増してきている。ダンは妻が働くことが子にどのような影響を与えるかという問いに対し、近所に6〜8歳の女の子の友達も多いし、子供は父母といふより、友人と遊んだ方がいいと言う一方で、母にもっと一緒にいて欲しいと思っているという。

RⅡダン(夫) QⅡ調査者  
QⅠ子供が友達の家で遊んだりするし、自分の家にも友達来ますね、そうい

うとき、ママが家にいた方がいいかと思うのかしら？

RⅠ多分ね、子供は多分そう思うでしょうね。

QⅠそうだとすると親が家にいた方がいいということになりませんか？

RⅠそうね、娘はママに家において欲しいと思うかもしれないね。でもこれは誰にもわからないことですね正確には。母親が働いているということが子に本当にどういう影響を与えるかについては誰もはっきりした答もってませんよね。そこがむずかしいところですね。そこを私も心配します。妻とも、話したことがありますよ、子供たちが母親が働くことでいいことがあるかないかってね。

QⅠそれじゃね、パム(妻)にとってベストの方法ってどんなのだとあなたは思う？

RⅠ(大きな声ではっきりと)何がパムにとってベストかって？ そりゃー、パートタイムで仕事して、パートタイムで家において子供の相手してやると両方できることでしょ。

QⅠお父さんが家にいてパートタイムで子供の相手してやるっていうのはどうですか？

RⅠ(しばらく間をおいて)それもいいですけどね、でも彼女の方が僕より子供に近いのね……残念ながら。彼女の方が子に関心強いですね。

Q—パムの方もそう思っていると思いますか？

R—ええ！　そう思いますよ。下の子（息子）も大きくなつてきて状況かわつてきましたね。こわい位ですね。私も予想はしてましたがね。私はだんだん私の父みたいになつてきましたね。もうそうなつてますね。土・日になると息子が私の手をひっぱつて外で遊ぶんですよ、小さなテニスラケットでボールを打ったり、フリスビーしたりして；好きでね、一時間位やつてますよ。バスケットボールのドリブルみたいなこともしますね。彼の手と目の発達にいいですよ。でもだんだん上の子（娘）の方が一人で別なことをするようになつて、さそつても来ないんですよ。一緒にそういうことしながらないのです。チームでプレーするスポーツに興味示さないんですよ。もつと小さい頃は一緒にやつたんですがね。私が弟の方に興味もつていると思うのか、彼女はお呼びでないと感ずるのかな……。

Q—じゃもし生活を思うように組み替へることができるとしたらどうしたいですか？

R—まず住み込みのお手伝いさんがいたらいいと思いますね、妻は四分の三位に仕事へらしてパートタイムになつて。それだけです。他は今のままでいい。

Q—じゃ、パムにとって都合のいいように生活つくりかえら

れるとしたら、彼女はこうしたいと思つていてと思いますか？

R—多分彼女は働く時間半分位にへらしたいのじゃないかな午前だけとか、午後だけとかね、——ウーン、多分彼女は住み込みのお手伝いさんはいらないというかも……。

Q—パムがあなたの生活にどういう変化を望んでいると思いますか？

R—彼女からそういう話聞いたことないなあ。多分私にもつと稼いで欲しいんじゃないかな。（静かに笑う）

Q—本当に？（まじめに）

R—そうはつきりいったことはないですよ……ちがうかなーわかりません。

Q—あなたにもつと家にいて欲しいと思う以上に？

R—（間をおいて）彼女は多分私に同じ時間働いて、その間もつと効率よく稼いで欲しいと思つていてでしょうね。それはあるでしょうね。朝八時から五時まで働いて、そしてもつと収入ふえればいいわけです。

R—私の労働時間は一定してます。だいたい八時から五時までとね。夕方以降は家族とすごします。パムはパートタイムになつて平日の日中に子供ともつと時間を共にすごしたいと思つてると、思いますよ。しかし彼女が私にもつと家

にいてほしいと思うのは、家の後片づけとかそういう細々したことをもつとして欲しいと思ってるためでしょうね。洗濯や、庭の手入れや……彼女が今やっている家事のいろいろのために……。

Q—半々位にしたらいいと？

R—いやそこまではね、まあ60—40位でもつと家のことする人になって欲しいと思ってるでしょうね。

Q—つまりあなたが40で、彼女が60ってこと？

R—そうです。もつと家庭人（ファミリーパーソン）になつて欲しいと、そして子供の教育や成長に気を配って欲しいと思ってるでしょうね。私は余りそういうことしてないから。

Q—彼女が仕事の上ではどうなつて欲しいと思いますか。

R—（十五秒程の間）あの会社（アメリカ有数の衣料メーカー）の人事担当副社長になつて欲しいな。（静かな笑い）職業面のことといったのでしょ？

Q—ええそうです。彼女がそこまでなるのにはパートタイムでなれると？ あるいは四分の三に仕事時間へらしてもなれると？

R—それは無理ですね。そこですよ。いつも根本的な葛藤のあるのは、いつもそこなんですよ、彼女にパートタイムになれつていったそのすぐ後に副社長になればいいといつて

矛盾しないわけじゃないですよね。——でもこのことは私も矛盾してると感じてる以上に彼女が自分の中でもかかえている葛藤だと思えますよ。

— ◎ —

夫ダンの妻への期待が全く矛盾しているということに本人が気づきながらも、二つのことを並存させている。そして実際バムは今会社で女性としてはトップ二、三人の中の一人である。子供により近いのはバムだというダンは息子と自分とはよく遊ぶようになったと楽しんでもいる。ダンは法律事務所での仕事に生きがいを感じ、かつより高収入になることに意欲をもやしている。今は妻の方が収入が上でありそのことにこだわりのある。しかしダンの夢は、経済的にとても豊かになつて、妻が、収入のために働かなくてもいいような位の収入を得たいというものである。

経済関係がたとえ逆転していても、妻の側にある二重拘束意識が払拭されない例であるが、これをバムの性格からそうなるのだと説明したり、あるいは現代社会の女性の社会化のあり方に原因をみい出すという方法もある。事例研究から見える事実の断片から一般化はできない、しかし少なくとも伝統的性別役割分業の打破のためには、経済要因、教育的要因のみでないもつと多様な要因がからまつていそうなことは推測できる。

## カンヤンロク 看羊録

韓国の歌手チョーヨンピルの歌を聞きにいったことがある。熱唱の中で、特に心に響く曲があった。「看羊録」という題の歌だと知ったが、看羊録が何なのかは、その時わからなかった。「異国の地 三更になれば 夜ごとに冷霜——心は風につき 故郷へいく 先祖の墓のある山 雑草は誰がむしる 血の涙で一行一行 看羊録を書く——」といった意味の歌詞から、父祖の地朝鮮を離れざるをえなかった人の切ない心をうたったものだと想像したのだった。

朝鮮史を学んで、この歌の心にはもっと重いものがあるのを知った。看羊録とは、あの秀吉の侵略の時、かの地から日本に連行された儒学者姜沆<sup>カンハ</sup>が、血の涙でつづった記録だったのだ。姜沆は七歳で「孟子」をそらんじたといわれる秀才だった。若くして科擧に及第し、文官となったが、官吏としてより、李朝随一の大学者、李退溪の学統をつぐ儒学者として有名だった。

一五九七年、秀吉の再侵略の時、彼は家族と共に李舜臣の陣営にはせ参じようとするところを、藤堂高虎の水軍に捕え

## 窓の歴史

## 子百合岡

られた。そのまま藤堂の領地、伊予の大州に連行され、やがて京都伏見に移され幽閉される。心ならずも「賊軍」の捕虜となった姜沆は、その身を罪人として恥じたが、一方愛国の情やみがたく、日本の内情や自分の見聞、心情を記録して、ひそかに朝鮮に送ったのであった。それがのち、弟子の手により編集されたのが看羊録である。

そこには、京都相国寺の禅僧、藤原惺窩<sup>テイカ</sup>との交流も記されている。惺窩は姜沆に朝鮮儒学の成果を学び、孔子を祭る社などを教わる中で、しだいに深く、朱子学に傾倒していったのだった。この惺窩の弟子林羅山が、朱子学を江戸幕府の中心的学問とした人物である。姜沆は、日本の儒学の歴史に、大きな影響を与えた人であった。

それにしても、姜沆の運命は痛ましい。彼が日本軍に捕われた時、彼の幼い息子と娘は渚に投げすてられ、海にのまれたのであった。また彼は、望郷の念やみがたく、何度も日本からの脱出を試みては失敗し、その度に仲間は無期禁錮された。詩を交えた格調高い文がつづるその苦悩の日々は、読む者の胸を痛くする。日本軍はこの時、陶工らははじめ、五万人以上の朝鮮人を拉致してきたという。文字の書けないこの人々の思いが看羊録に凝縮し、チョーヨンピルの慟哭の歌声となって、私の耳をうったのかもしれない。

## 共学家庭科への糸口 その2

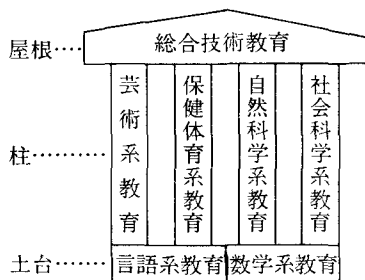
高校に必修クラブが導入されたのも、(48年改訂)の折である。職業科をますます細分化し、秘書科やインテリア科を作ろうとした時期でもあった。教育課程の改訂に伴って、課程表以外にも問題が山積しており、教育文化会議(教文会議)の各研究会長は、高校教育をトータルでどうしたらよいか考えざるを得なかった。

〈注〉高校三原則の検討と推進、高校教育の目標と内容の組み立て方など、基本的なことから話しあわれた。そして、教育課程は十分に検討してきたそれぞれの学校現場に編成権があるのであって、県教委や、文部省から押しつけられるものではないという観点を明確にした。まわりくどい対応ではあったが、今にして見れば、これらの基本的な作業を、丁寧にすすめたことが、その後の共学家庭科を推進する上で有効な作用をしたと思っている。

教科の組み立て方は、議論をかわしながら下図のように想を練った。高校教育の目標は、一人の生徒が図のような教育

を受けることと考えたのである。総合技術教育とは、男女・進路を問わず、まっとうな職業教育を総合的に行いたいという趣旨で、生産(農業・工業)流通(商業)消費(家庭)の統合と、社会のしくみの総合的把握を目的とした教科であった。従来の日本の教育体系にはないものを想定したために、様々な反響が猛然として起こった。

〈注〉戦後の教育改革における新制高校発足の理念。高校教育制度民主化の指標とした。学区制の趣旨は、旧制の中学校や高等学校、実業学校の間の格差の是正、教育の民主化および機会均等の理念の実現、高等学校の普及をはかることにある。そのため、公立高校の平準化・地域化をはかるため都道府県教委に学区制を定める権限が与えられた。また、高校における男女共学の実施とともに、普通科と、職業科をあわせた総合制高校が設置された。当初は1校1学区の小学区制が34府県で、総合制も公立高校の42.4%で実施された。しかし、政府・文部省は、この初期の原則を堅持することなく、総合制はその教育的意義を十分検証される機会を得ないままに解体、もしくは単なる多課程併置にとどまり、小学区制も50年代後半には激減し、高校三原則を政策としてすすめたのは、京都府のみとなった。(現代教育事典 労働旬報社)





## (29) 「女性学」の出現と発展

フェミニズムの視点から

近年とみに人気のある「女性学」は、女性に関わる諸問題を、「女性解放」乃至フェミニズムの視点から学問的に究明しようとするもので、ウーマン・リヴ運動が広範に興った70年代初めのアメリカで、女子大学などを中心に、従来の男性中心の学問を見直し、「女性による女性のための女性学」講座を要求する運動が起こり、それは忽ち遼原の火の如く各地に拡がり、70年末には既に全米一、五〇〇の大学で約一五、〇〇〇の女性学コースが展開したという。「Women's Studies」と称されたこの新しい視点での女性研究は、実はもともと奥深い背景を有していた。ちょうど十九世紀中頃のアメリカ社会における黒人解放運動の中で、「未解放なのは黒人のみでなくわれわれ女性もだ」との自覚から女権運動が起こった如く、60年代の黒人公民権運動や反戦平和運動、さらに大学改革運動等の中で、「黒人学」講座や「中国」「ベトナム」地域研究の設置要求が起こったのに刺激されて、フェミニズム運動家の間から「女性学」講座の要求が湧き上がったのである。

日本におけるいわゆる「女性学」研究は、74年井上輝子氏によるアメリカ女性学の紹介に端を発し、その後77年に「日本女性学研究会」、翌

78年「国際女性学会」「女性学研究会」、さらに79年「日本女性学会」等が発足し、88年には、「関西女性学研究会」も設立された。また88年国立婦人教育会館発行の「女性関連講座開講状況調査報告」では他に「福岡女性と職業研究会」「日本婦人問題懇話会」「北陸婦人問題研究所」が報告されている。さらに同報告書によれば、同年度女性学関連講座開校大学は一三五校二八〇講座で、前年度比一二・七%増で、アメリカとは大差あるものの、年々急増傾向と報ぜられている。ところで女性解放を目指した女性研究は古くは一八世紀末頃からのブルジョア的女性解放論や、その後の社会主義的乃至マルクス主義的婦人論などがあるが、多くは男性的論理や学問研究方法を用いて展開されたものであり、新しく興った「女性学」は女性の論理や視点から見直そうとするもので、ラジカル又はエコロジカル・フェミニズムと称される立場も含めて多様な立場や方法論をもって、歴史、教育、心理、社会学、文学、人類学等広汎な多様角度から女性研究を行うもので、「学」としてはまだ確立されず発展途上にあるといえよう。

ワンポイント 近代日本女子教育史 秋枝蕭子

## クズワヨさんの 発言

田川建三

女  
そして  
男

先月号の続きです。エレン・クズワヨという人がいます。アパルトヘイトに反対して闘ってきた南アの代表的な黒人女性の一人です。『私を女と呼べ』という表題の本を書いています。自伝的な内容の書物ですが、同時に、今日の南アで生きるさまざまな黒人女性の様子を描き出していて、とても重要な書物です。この本の中で彼女は、ソウエトの女性の生活を描写し、次のように言います。低賃銀で働く女性たちは（ほとんどすべての女性がおそらく）、通勤のために朝四時には家を出て、帰ってくるのは夜暗くなつてからである。小さい子供も一日中ほっておかねばならないので、親としては、子供が無事でいてくれることをただ祈るだけだ、と。子供が一定年齢になるまでは、母親がいつもそばにいてやらねばならない、などという西洋の女性の「理想」は、自分たちにはただの贅沢としか思えない、というのです。

彼女がこれを必ずしも理想だと思っていないことは、引用符をつけていることからわかりますが、言いたいことは、南アの黒人女性はそもそもそういうことが理想かどうかを考える暇もないような状態で生きている、ということでしょう。

これと比べると、二人の親がそれぞれかなりの時間をさいて子供と接することのできている我家の状態は、まことに有難いことです。クズワヨさんの発言には、もちろん歩きの幼児とすらほとんど共に時をすごすことのできない母親の心の痛みがよく表現されていると思います。もしも我々がこの心の痛みを敢えて無視したりすると、やはりどこかで無理が生じるのではないのでしょうか。その意味では、今の日本の状態もまだ「贅沢」という水準ではありますまい。女が「外」に出て活躍しようとするれば、この心の痛みを持ち続けざるをえないし、かといって「内」にこもって子供中心に生きていると、自分の人格的自立を犠牲にすることになる。私にはやはり、それが「母親」の問題として語られる限り、解決はないのだと思います。すべての男が、自分の子供の顔をほとんど見ることにない状態にいたく心悩むのであれば、子供の問題は見えてこないのではないのでしょうか。男もできる限りの時間を育児のためにすごしてみる。その上ではじめて、どの程度の時間子供が親と共にいることが本当に必要なのか、ということも落ち着いて議論ができるようになるのでしょうか。

## 高 校

うちのちかくに、高校があります。私は、入ったことがありますけれども、外からよく見ていました。わたしの卒業した高校に比べて、ずいぶん違います。

例えば、高校のころ、みんなが好きな衣服を着ていました。日本で見える高校生は、いつも制服を着ています。それがいかどうか分かりません。アメリカでは生徒は着ているもののデザインの良さで競争します。例えば、以前子供たちが普通の運動靴で満足したが、急に値段が高いリイボックという運動靴が人気になって、みんなが買ってしまった。制服があれば不必要に衣服に関心を持たないですみますから、私はその点は制服の方が良いと思いました。

しかし、制服を着ているのはどんな人間でしようか。アメリカの子供たちは、独立心を教えられ、日本では全体主義を教えられるようで、個人主義は見えにくいです。その上に、日本では

# 不思議の国ニッポン

クイトン・ナフ

校庭で野球やテニスをして、大体真面目な顔をしています。アメリカの生徒は、遊ぶときにもっと楽しそうです。日本の生徒は真面目で、滅多に悪いいたずらをしないようですが、一方では、軍隊に似ているようです。それは伝統なことだろうと思います。

ところで、どうして男の子の制服は陸軍に似て、女の子の制服は海軍に似ているのでしょうか？ もし、みんなが同じに見えるために制服があるのなら、どうして男と女で違うのですか？ 逆に、アメリカでは男の子か女の子かの区別があまりありません。日本では、例えば、男子の靴と女子の靴は全然違うのに、色はみんな黒です。

その上に、学校では教師が男子を先に呼んで後に女子を呼ぶそうです。そのほかにも、女性の教育は異なるそうです。こういう差別の教育制度の結果が心配です。

日本の女性は大人になっても、結婚するまでは子供っぽいようだと思います。それは、女の子が一人前の人間として扱われていないからでしょう。私に娘が生まれたら、平等に育てたいです。

若さの弾けそうな、のびやかな人は、童話作家志望。夜間は保育園に通いながら、昼間は病院でアルバイト。お年寄りの多い内科の受付で、薬の袋にそっとイラストを描いて渡すという。「かわいいねえ」とうれしそうにする人、じっと目を凝らす人、人それぞれの反応を見るのが楽しみだが、大半の人は、にっこりして喜んでくれるという。

寺内真知子。S 42・5・11生。幼い頃から夢見がち。赤いバスケットに、おにぎり二個を入れてもらい、家中探検して回って遊ぶ。それも、姿の見えない誰かとお話ししながら。そんな娘の姿に、お母さんは、声をかけるのをためらったと聞く。

高校時代は、周りが受験勉強まっしぐらの中、窓際の席を指定席にして、授業中窓の外（いつも、カラスがいた）ばかり眺めていた。仲良し七人組の他の友だちもまた、授業中、絵を描いたり、好き放題をしていたが、担任の先生は大目に見ていてくれた。だから、学校を息苦しく感じたこともあまりなかったし、世間でいう「いい大学」に入りたいとも、入らなければならないと思わなかった。クリスチャンの両親は、門限だけは厳しかったが、あとは、彼女の思う通りにさせてくれたという。

童話を書き始めたのは、二年前。志望した大学に入れず、それではと、児童教育専門学校へ。童話創作科に二年在籍。詩を書いたり、ピアノで曲をつけたりということとはしていたが、童話は初めてだった。

最初は、おきまりの「かわいい」童話を書いてきたが、福音館の松居直さんの「絵本講座」が転機に。「これでは子どもをひきつけ

## 青春ZIGZAG



「童話作家志望」の

寺内 真知子さん

られないよ」と言われて、大人の立場を捨て、自分が書いていて楽しいものを書けばよいのだと気づく。講座の終わりに作った絵本は「早く早く」と、母親から年中せかされていく。僕が、ある日、背がどんどん伸びて屋根をつきぬけ、驚いた母親が「もう言わないから」と懇願。翌朝から「早く早く」のかわりに「おはよう」とお母さん。僕も「おはよう」

と応えて……という内容。

他に何篇か見せてもらった。三輪車が、夜中に連れだって散歩する話。「痛い、痛いの飛んでゆけ」のおまじないのお蔭で迷惑しているお山の話など、とんでもない「もしかし」をいっぱいかかえて、目をキラキラさせて生きている子どもたちが喜びそうなお話ばかり。

保母になる勉強をしているのは？ 老人や子ども、障害のある人たちも交じって一緒に暮らせる家を作りたいから。隔離をしない施設でない場所。それには保母の資格が必要。専門学校にいた頃、群馬の無認可の養護施設に行って過ごしたことがある。その当時の仲間と一緒に夢をふくらませている。

今の子どもたちを見ていて「感動がなさすぎるなと思う、大人がやたら忙しくてスケジュールをこなすことに走り回っていて、そのペースに子どもまで巻き込んでせかすから、子どもたちは、じっくり自分からしたいと思うことを探す時間もない。なんでこんなに忙しくなったのだろう。子どもが時間をとりもどすには、まず大人が時間をとりもどさなくては……と。耳は痛かったけど、心から共感したひとときでした。

（インタビュアー・稲邑恭子）



はなにつき

藤尾

知

子

# まつ 新古今和歌集

百首歌奉りし時 春の歌

式子内親王

山深み春とも知らぬ松の戸にたえだえかかる雪の玉水

雪雲がさり、春めいた青空の下雪解け水が雫となって松の戸に落ちる、その瞬間の煌きをとらえた歌である。「言葉」を

信じ、その極限をみきわめようとしたのが新古今の歌人達

であった。藤原定家は「見わたせば花も紅葉もなかりけ

り浦のとまやの秋の夕ぐれ」と晩秋のわびしさを花と

紅葉を否定することにより導き出したが、これは言

語芸術の行きつくはてと言うべきだろう。

式子の生きた時代は平安貴族社会がぐらつき、平家

が興り、そして滅んでいった時であった。後白河法皇

の第三皇女として生まれながら、母高倉三位が摂関家で

なかったので、兄達も天皇にはなれず、姉亮子は伊勢の斎

宮に、式子は六歳で賀茂の斎院になり、十一年間神に奉仕の

生活を送った。病弱な式子は結婚もせずに一生を送ったよう

である。父と平滋子との間に生まれた八歳違いの弟、高倉天

皇に嫁いできたのが清盛の娘徳子、そして安徳天皇が産まれ

る。まさに『平家物語』の世界なのである。治承四年（一一



八〇）二歳違いの同腹の兄以仁王が源頼政にかつがれて平家

打倒の兵をあげるが、事が露見し敗北する。『平家物語』で

は頼政は長絹の鎧直垂に科皮緘の鎧を着てはなばなく戦う

が、以仁王は浄衣に小枝という笛をたばさみ、敗走中は過労と

睡眠不足のため宇治から三井寺までの八キロ程の間に、六

度も落馬し、最後は流れ矢にあたり首をとられた。まるで

戦場には場ちがいな人間であった。しかし高級貴族として

生きてきた式子にとっては衝撃的な事件であった。

その時式子二十八歳、この「山深み」の歌が詠まれたのは

正治三年（一一〇〇）四十八歳の時である。この歌のも

つ透明感は、自分をみつめ、現実を正視し続けて得られた

澄みきった静けさに思える。百人一首にとられてい

る「玉の緒よたえなばたえねながらええ忍ぶる事のよわ

りもぞする」は忍ぶ恋という題詠であるが、燃えるような

恋をしたとは思えない人の歌であるのに、身にしみるせつな

さを感じるののは、歴史に對し口をつぐんで何一つ後世に書

き残さなかった人が、忍ぶ恋にかこつけてもらした本心のよう

な気がする。

（カット・宮永由美子）

よそおい

日本には使い捨ての美学がある、と『使い捨て考現学』なる偉大な本を書かれた方がいらっしやいます。お正月の門松や注連飾りなんか見ると、なるほど美学か：なんて。世界に類をみない、ブランド大好き日本なのぞも、この本の割りばしの考察を読んだならば、なんてことなく解けてしまします。ファッションも毎シーズンごとに発表され、消費される使い捨てでしょうか？。東南アジアから安価な衣料がたくさん輸入され

ている一方、イタリアのブランドものが、スーツ30万、50万円で飛ぶように売れている。売り上げ目標も10億

円、五年後は60億円とふんでいるとか。きつとお札数えるだけでもたいへんでしょうね。「本物を着る」とか「あなたをワンランク上にみせる服」とか盛んに宣伝していますが、この「長く着られる良い物」式宣伝って、なかなか曲者ですよ。一見、質素堅実路線だけに妙に説得力がある。しかしどんな定番に近い形の服でも、その年のラインはです。小さ



な衿の部分、ウエストの絞り加減、色彩、ファッションはその年の感覚の、とびつきり新鮮パック詰めなのです。ファッションにも旬がある。ためすぎてフリーズドライしちゃうと味が落ちるのです。だから毎年新鮮なものが欲しくなる。冬に枯れ葉の色が着たくなり、幸せに育った羊の毛が恋しくなるでしよ。でも春になると、花の色いいな、なんてね。この手の宣伝は、お金持ち日本を「安物買いの銭失い」から「高い物買いの銭失い」へたくみにワープさせちゃう。あなたの冷蔵庫

庫はだいじょうぶですか？。しかし人間、気に入った服はトコトン着てしまふところありますよね。古いヨレヨレジーパンに愛着をもつて、そのつぎ当てに新しいコートの袖、チョンギッタ人知っています。お屠蘇も飲まずに、冬に半袖のオーバークートを着るなんて、美学と狂気は紙一重かも。私はクマのプーさんみたいに生きたいなあ。高価な服はちよつと無理、50万円のスーツ分働いたら、目の下にプーさんができちゃう。「よそおい」キーワードは「くう・ねる・遊ぶ」だもんね。しかしまちがってはいけません。高級車セフィロ買う方は、これ実行してちゃ買えせんよ。セフィロも、ブランドファッションも、キーワードは「くう・ねる・働く・ひたすら働く」であることを、お忘れなく。

# 波

## ……NHK特集「教育は変えられるか」の失敗…… 半田たつ子

大きいことがいいわけではない。お金をかければすばしくなるとは限らない。その例が十一月三日、六日、十三日、計三時間四十五分で構成したNHK特集「世界の中の日本——教育は変えられるか」だ。

NHK教育プロジェクトのO氏から電話があったのは十月二十日ごろだったろうか。NHK特集で、三回にわたって「教育」を取り上げる。ついては、十一月十日の夜都合がつかぬらぜひ出演してほしい。その前に十一月三日、六日の番組を見ておいてもらい、現職の先生、退職した先生、塾の先生などで、教育を変えるための大討論会をする。三時間分を九〇分に縮め、放送は十三日とのこと。

この番組を作る視点は、次の三つという。

- 1、日本で画一的な教育に批判が高く、個性を生かす教育が志向されている時、諸外国ではむしろ、日本の教育に学べとの声が挙がっているのはなぜか？
- 2、子どもたちを受けとめられる新時代の教師像とは？

3、どうすればいい学校に変えられるか？

Weを編集する私のテーマでもあるし、女性民教審のメンバーとして教育改革を提言した立場からも、その討論に参加できるのはありがたいことだと返事をし、ふと尋ねてみた。

「大討論会は、何人ぐらい集められるのですか？」「百人です」「まあ！ では、よほど焦点を絞り、司会も熟達の方でない」と……。

今思えば、この段階で断るべきだった。

三日、番組を見て腹が立った。問題の立て方がおかしい。数年前の国際理科テストで、日本が各学年ともトップを占めた。米・英は惨たんたる成績で、これがきっかけで教育改革に拍車がかかった。サッチャー首相の「日本に学べ」の演説シーン。政府・産業界・学校が一体となって学力向上運動を進めているとか。

米・ソの姿も次々に紹介されるのだが、「学力」とは何かを一切問うことなく、テストの成績のみを根拠に展開する。「日本の教育はよくない」と思っていたけれど、世界から目標

とされているのか。こんな錯覚を持ってしまう人が、子どもを学校に通わせている親の中にいるとも思われないけれど……。国際比較の算数テストで、日本の子どもは計算問題はできるが、応用問題は解けないと発表されていたことは、この際不問に付すのだろうか。

調布のアメリカンスクールで行われた、アメリカの大統領選挙の模擬学習が紹介された。少年がブッシュ、少女がデュカキスになって、ブッシュは国際競争にうちかつ強いアメリカを、デュカキスは手厚い福祉を堂々と主張する。アイデアあふれる応援合戦がくり展げられる。選挙の結果、デュカキスは惜敗したが、彼らの充実感にあふれた顔、顔、顔。もう十年以上前、このスクールのサマープログラムに、下の娘が参加したことがあった。毎日プールの時間があるのが魅力で通ったのだが、最終日は水着でなくGパンを持参しなさいとのこと。洋上はるか航海に出、万が一船が沈没するような時、水着姿のはずがない。海に投げ出されれば、衣服が水を吸って



重なることを実感させる。びっちり膚につくGパンをブルルの中で脱ぐ体験をさせる。

アメリカンスクールのブル指導は、生き残るための力をつけるのが目的だったのだ。模擬大統領選、サバイバルのブル学習、これこそ「生きた学力」を目指すものだ。

NHK教育プロジェクトは、学力をペーパーテストで計れるととらえ、各国が日本にならおうと躍起になっていることを、この番組の出発点とした。今学校の中であえいでいる子どものために、教育をどう変えなければならぬか、ではなくて。

(二十二日の「ETV8」で、英国の教育改革が取り上げられていた。サッチャーの方針に対して、教師の九割が反対していること。

地方教育委員会は、地域の一人一人の子どもの実情に合う教育を堅持しようとしていること。しかし、わが子に高い「学力」を望む父母は、教育委員会をつき上げていることなど、もう一つの側面を出していた。NHK特集と同じフィルムも使いながら)。

六日は教師に焦点をあて、米テキサス州では、校長以下テストを受け、能力ランクによってボーナスの額まで変え、教師の基礎学力不足に対応しているさまを見せた。文部省主

催、初任者洋上研修の様子、さらに東京都ではM教師(問題教師)だけを扱う専門機関があり、二百人のM教師中十一人が免職処分となったことを紹介する。いったい何を言いたいのだろうか? 西沢東北大教授の「自分の考えをはっきり持たなくては、独創性は発揮されない」に、ようやく救われた。

そして、十一月十日である。百人は集められなかったそうで八十三人、北海道、福島、長野、石川、愛知などから教師たちがやってきた。そして直前の打ちあわせで、番組は九〇分だが、三時間分の討論は三〇分に縮めると聞かされた。何ということだ!

討論は実に不愉快だった。司会者は、教師の息子だと自己紹介したが、古い教師観の持主で、発言を整理し、問題を浮かび上がらせる力がない。植垣一彦、奥地圭子、仲野暢子、原田瑠美子、平井雷太氏らも参加したのだが、これらの方たちのユニークな意見が生かされない。集録後、私たちは「これは何なのだ!!」と、口々に慨嘆した。

そして十三日の放送は、「何をか言わんや」だった。あの全く深まらない討論の中にも、キラリと光る意見があった。この意見をあの言葉につなげれば、面白くなるかもしれない

などと思っていた。しかしそれらはほとんど視聴者に届けられなかった。「教師が忙しい、自由がないというのは逃げだ。私自身は全然そう思わない」。「公教育は文化遺産を伝達する使命がある。生徒にとって興味があるうとなかろうと、なぐつてもそれをしなければならぬ」。私たちが最も拒否反応を持った二人の教師の発言が冒頭から取り上げられ、彼らに三〇分の何分の一かが提供された。

「学校は授業だけで成立していない」と、保健室で生徒が心を開くさまを語った養護教諭。「なぐつたこともある。しかし、なぐつて従わせるなら、生徒はなぐらない女の先生の言うことをきかなくなる。女の先生の教育力、きめ細かさ、優しい包容力を潰してはならないと語りあって、体罰をやめた」。「テストに出すよと伝家の宝刀で生徒を黙らせる恥ずかしさ」。「すべての子どもが同じようにできることを目標にするなら、障害を持つ子は教室からはじき飛ばされる」などなどの言葉をこそ、大事に生かしてほしかったのに。

スタッフ間で十分に討議し、問題意識を鮮明にしていなかったら、人・金・時間をどれだけ注ぎ込んでダメ。そのサンプルのような番組だった。



# 『戦士たちの貌』

—アフガンスタン断章—

南条直子著

半田 たつ子

◆一人のカメラマンが、アフガンの戦場で地雷に飛んだ。即死。衝撃的なニュースだ。彼女は危険な戦場になぜ四たびも潜入したのか？成田を発つ前夜まで、ワープロのキイを叩き続けてくれたお陰で、私はその行為と思想を知ることができた。市民社会の論理を捨て、ムジャヒディン（イスラム聖戦士）のボロをまとった意志ある双眸を選んだ彼女。本を数頁読んで仰天した。私の上の娘と同年。娘の世代に完全に超えられてしまった……。

(径書房 一八〇〇円)

# 『親と再び暮らすとき』

—家族で父を看取る—

高見澤たか子著

◆マンシヨンの上下で理想的な別居同居を果たしたはずなのに、突然母は逝った。七十九歳の父と同居のため、家を建て引越す。理解ある夫、協力的な子どもたち、すべて恵まれた家庭であってなお、家族で父を看取ることのすさまじさ。事態をまっすぐにとらえ、自分の内面をひたとみつめ、しかも抑制のきいた筆致が胸を打つ。老いを支える多様な仕かけが社会に必要と著者は言う。

(大和書房 一三〇〇円)

# 『生徒—教師の場所』

佐藤通雅著

◆教師としてのおのれを解体し、人間として生徒と同一地点に立つ——。ただし実際にやったら職をやめざるを得ないのだから、往還の余地をどこかに残して。それが欺瞞と見られれば正直にうべなうが、眼界を隠してありもしない(人間教育)にすがりつくより欺瞞度は低いと。全く知らない者同士でも、自分の場で踏んばっている人の存在を信じるという著者に励まされる。

(学藝書林 二〇〇〇円)

# 『この国は恐ろしい国』

—もう一つの老後—

関千枝子著

◆どうしてこの国を「豊か」と言えるのか！切り捨てられる母子家庭、底辺の所得層の実情を克明に浮き彫りにし、「枠組み」からはみ出した時、この国で生きることの「負い目」を、それを共有する立場で書く。特に、追いつめられた母の苦悩をわちあおうとしない親に頼りきりの子どもへの言及は、勇気ある発言だ。久場嬉子氏との対談は、この国の社会福祉につなぐ政治の貧しさをくつきりと出す。

(農山村文化協会 一三〇〇円)

# 『見たせばあらッ男ばかり』

—マリ子先生の「議会通信簿」から—

三井マリ子著

◆高校の英語教師から都議会へとらばーゆした著者は、超男社会の妙チキリンさをしっかりと見、東京を男女平等の街にするためにさわやかに行動した。いたいけな恐竜センキョザウルスは、トギカイザウルスに育つ。女たちが人間として正当に扱われるために、社会全体のプログラムをデザインし直し、女同士の Mutual Admiration (相手を賞めあう)が必要と。

(フォーユー 一二〇〇円)

# 一泉

## ●情報のページ

### ◆今夜語ろう！ 天皇問題

「一人称ものの言わばや。女たち一人ひとり  
が『わたしはいやです』と言える時代を失わ  
ないために、今、私も発言したいと思います  
(Kさん)。全体主義の恐ろしさは、人間が個  
人としての自由を失うことです。自由を支え  
るのは一人ひとりの意識です(Sさん)。私は  
"見ざる、聞かざる、言わざる"の生き方は  
できません。まして強いられるのは、なおい  
やです(Eさん)」。——呼びかけ人のメッセー  
ジより。

○十二月十九日(月) p.m.六時十五分開会 有  
楽町マリオンII Fホール(JR有楽町下車)  
参加費 七百元

○発言(憲法と天皇制・井田恵子 「女性  
と天皇制」・加納実紀代 「外からみた日  
本」・ジャスリン・フォード 「マスコミ  
の現場から」・増田れい子他。会場からの  
発言あなたもぜひひとことを！

主催 国家秘密法に反対する女性の会(五反  
田法律事務所内) ☎03-447-1361

### ◆ニュース・レター「ガイサン・パライイ」創刊

「ものを売るだけの会にしてはならないと、  
通信を出します」のおたより。運動の拡がり  
をねがって。

問合せ先 フィリピン強制移住区三地区支援  
草の根貿易の会 〒581 八尾市桂町2-17  
1-5 吉田和子方 ☎0729-96-8271

### ◆家庭科実践報告(第2集)——兵庫

兵庫県高等学校教組家庭科検討委員会発  
行。男女共学を前進させるため、「家庭」一般「男  
女共学を実現されたIさん、男子のみのクラ  
スで家庭一般を実践しておられるYさん他、  
全部で十一人のレポートを収録。

○頒価 四百円(送料一七〇円) 切手可。  
申し込み先 〒650 神戸市中央区北長狭通5  
1-2-10 兵庫県高教組

### ◆家庭一般実践集——宮城

「新しい家庭科の創造をめざして」——教育  
課程改善に伴い、宮城県高等学校家庭科研究

会では、家庭一般の指導計画を立案し、男女  
共修に向け、男女が共に楽しく学べる家庭科  
づくりを目標に、実践資料集を刊行。

問合せ先 宮城県高等学校家庭科研究会 第  
一専門委員会

### ◆トークライブ「女の元気をのせて」

都議現職の三井マリ子さんが、ゲストと女  
性をめぐる様々な問題を語るトークライブシ  
リーズ。今回のゲストは、エッセイストの桜  
井陽子さん。「転職実践講座」をテーマに話  
します。

○一月十四日(土) p.m.二時～四時 阿佐谷地  
域区民センター(JR阿佐ヶ谷下車) 参加  
費 六百元  
連絡先 まじよりてい企画(杉並区阿佐谷  
南2-19-11-101 ☎03-318-5860)

### ◆共学舎市民講座「教育を考える」

○「東京シュレの実践」  
一月二十一日(土) 講演・奥地圭子 二十  
八日・二月四日・ゼミナール いずれも p.m.二  
時～四時 参加費は三回分で千円

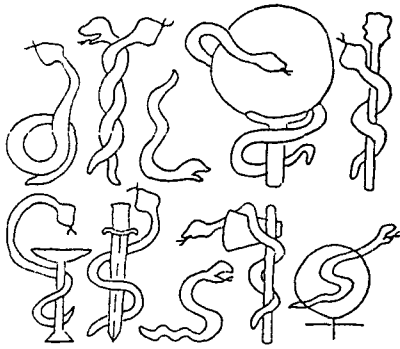
問合せ先 共学舎 〒227 横浜市緑区市ヶ尾  
町1-16-18 ☎045-973-9516

# わたくしからあなたに

◆已年に因んでヘビの幻想を紹介したい。  
古来人間は、森羅万象に精霊を感じ、無数のイメージネーションを築いてきた。ヘビを嫌悪する説話もあるが、イシス・ミネルバ・アポロン等々から弁天洞・ヘビ塚等々にいたるまで、人民の多様な幻想と、そこにこもる願望の確かさには、讃嘆のほかはない。

仏教がヒンズー教ほかの諸幻想を包摂して発展したのと同様、キリスト教も、一方ではイブの誘惑の説話をもちながら、他方では地

## シンボルのヘビ



域人民の土着の幻想との妥協なしには流布し得なかったから、古い教会建築の一部にはヘビのシンボルが飾られたものもある。

上図は私のコレクションの一部だが、特に右下のものは88年夏、バスク民族運動渦中のビルパオでの採集。已年のヘビにも、感性を新たにして伝統的念願に学び、新しい思いをひらげたいと念じている。

参考までに、上図に象徴された理念の例は  
上段左から、○生命力・探求・欲求・執着・養蚕保護 ○和合の持統 ○清浄・水源保護（蛇口）○真理探求 ○知恵と力・豊饒・恩恵 ○再生・保健 ○破邪顕正 ○權威・気品 ○自立・抵抗 ○女性解放 等である。

（東京・村田直文）

◆六月号・七月号に掲載されています葦山高校問題は、その後どうなりましたでしょうか。特に、高校長、県教育委員会のとった処置には怒りを感じています。むしろ校長を左遷させるべきと思いますが、福地弁護士の実行追究の結果など知りたいと思います。

。男女差別に反対した先生は、まだ図書館勤

務か

。校長は、まだ葦山高校に在職しているのか。理数科の入試は改善されたのか

正しい主張が押しつぶされ、間違った考えがまかり通る世の中に、ほんとうに憤りを感じます。私は、いろいろな方にお会いしたり、会があったりすると、この問題を口にしていきます。先日、新潟で「親と子の悩みを考える教育シンポジウム」が、教職員組合の主催でありました時、一参加者の立場から、発言しました。葦山高校問題は、知らない方もありましたが、一つの事件として、軽い気持ちで聞いておられた方が多かったようです。でも皆さんにわかっていただけただけでもよかった、と思っています。また教育研究集会でも機会を見つけて発言したいと思っています。

（新潟・小池寿哉）

◆十月号の平井雷太・西内みなみさんの「強者の論理」のやりとりのお手紙にとても感動しました。平井雷太さんの気づかないで立っている広い強い場を、みなみさんがちゃんとみて射通して、私は自分が射ぬかれた思

いでした。

十一月号、医療のなかで、クブラーロスのワークシヨップを主催なさっている方が、日本におられること、びっくりしました。

富士見産婦人科病院の被害者の方が、「私たちが自身が変わらなければならない」と書いておられて感激しました。医療の中にいて、加害者という形でのみ取り上げられると、事実を成り立たせている基盤のところを問うことがぬけ落ちていって、それはやっぱり、一人ひとりが自分であること以外ないように思います。でも、そのひとりであることの、何という難しさ、ということですよ。

みんなと一緒に、という中で育っている自分の弱さをしっかり見なくては、と思うのですけれど。

(岡山・水島睦枝)

◆先日、婚外子差別と闘う会の集まりに出席しましたところ、次のような情報が入りました。

。同会が開催した講演会の参加者アンケートの中に、F県立高校の先生で、婚姻届を出さずに出産したところ、管理職から「女生徒への影響も考えろ」「退職せよ」「強制配転する」などのいやがらせを、本人及びいなかの親にされ、結局この先生は、本人の

意志に反して、婚姻届を出したとのこと。まして通称として旧姓を使っていたところ、育休明けで復職してみると、勝手に新姓に変えられていた、とのこと。

。婚姻届を出さずに出産した場合、戸籍には「出産により分離」と記載され、「家の恥」となる。成人女性の場合、出産前に自分で分離することも可能だが、未成年の女性の場合、それができない。また、婚姻できる年齢に達していても、未成年で婚姻届を出さなければ、子どもの親権者となることできない。

以上のような、校長らの人事管理や、民法・戸籍上の差別もあり、We夏季フォーラムで見たような、進んだ考えの性教育の本にあるように「産む・産まぬは女性本人が決め、結婚するかどうかは本人同士で話し合って決めればよい」という理想が実現するまでには、解決すべき問題が数多くあります。

(八幡・安東尚美)

◆わが家は、出産を契機にずい分変わりました。一つ目は、先日久しぶりに会った友達から「あなたのどんな様子は、家事を手伝ってくれるのでしょうか」と聞かれて、その時気がついたことなんですが、夫と私は家事に関して

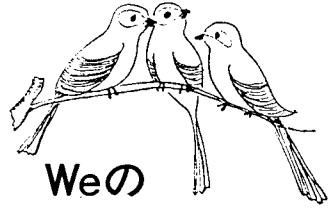
お互いに手伝う関係を完全に越えてしまいました。結婚当時から、二人のことは二人で一緒にやろうと考えていました。しかし、三年前には「手伝ってくれる?」「うん、助かる」という会話がありました。今では、それはすっかり違和感のある言葉になってしまいました。確かに今は私が家にいますので、家事の多くの部分は私がやっていますが「休みの日にはボクが台所に立つこともあるんです」なんて男性より、ずっと夫は普段着で家の中のことをこなします。

二つ目は、うちの台所が完全に開放されたことです。お客様にも台所に立つてもらおうとお客様用エプロンを用意したことに始まったわが家の作戦は、私たちの想像をはるかに越えて「今日、晩御飯一緒に食べませんか?メニューは、ビーフシチューにサラダです。買物して行きます。御飯だけしかけて下さい」なんて、ちょっと変な電話がかかってくるまでになりました。

(宇治・藤原久実)

〔訂正〕 12月号・37頁下段17行目「『低俗文化』と決めて」は「『低俗文化』を、決めて」の誤りです。お詫びして訂正します。

(編集部)



## Weの 読者会だより

### 〈We日本女子大の会〉

◆十月二十二日(土)、日本女子大での読者会に初めて参加しました。参加者は山本真規子さん、大沢和子さん、私の三名で、男性と女性の行動の違い、Weとのかかわり方などについて話し合いました。

男性と女性の行動の違いでは、その相互関係と世の中の価値基準が男性と女性において違うことに対する疑問についての山本さんの言葉が印象的でした。男女平等ということに対する意識の差や、その差にどう対処してゆくかということ、まだ突き詰めて考えた事はありませんでしたが、とても刺激を受けたような気がしています。また、Weとのかかわりということについては、経験したことのあ

る立場でしか、かわかることはできないのではないかとということが出ました。

そのあと引き続き、三人で「マザー・テレサ」の映画を見て、解散しました。

読者会に参加して、自分が日頃色々なことを見過ごしていることを感じました。放置しておけば自分に関係なく、そのままになることは沢山あると思います。しかし、関係のないことを関心のあることにするのは難しいが、大切だと思いました。

毎日の習慣的な生活の中で、思考も無難な習慣を身につけてしまっているようで、それを抜け出さなければと思っています。

次の読者会は十一月中の予定です。

### (志村麻千子)

### 〈We兵庫の会〉

◆第25回を十一月三日、神戸市立勤労会館でもちました。内容は、映画「ホピの予言」の上映と、宮田雪監督を囲んでの話し合い、参加者は、大人22名、子ども5名と小さな集まりでしたが、私にとっては、今までの例会の中で最も深い感動を受けました。家庭科の授業の中で、食べものの問題、洗剤の問題、水の問題と、今日的な課題をいろいろ取り上げてき、原発のこともしっかり考えなくちゃと

思っている今だけれど、個々のことを考えていくボーンのようなものがぬけていたなど、この映画を見て反省しました。家庭科で、というより、H・Rで学年単位でも見せたい映画だと思いました。そして私の中で、この映画が投げかけていることを、もっと深めて考えてみたいと思いました。

帰宅後、橋本さんから「いい会でしたね。

何より宮田監督のお人柄にひかれた」と電話いただき、私だけではなかったのだと安心。うれしくなりました。また、今日初めて参加して下さった「食べもの」とくらしを見直す会」の清水さん、西山さんから、「近くに住んでおられるすばらしい家庭科の先生方と出会えてよかった。今度会に来てお話したいだきたい。上映会でもできたらいいね」と。

また、須磨で反原発の学習会をもたれている正井さんから「ホピの予言」のビデオ版(一万五千円)を三本注文したいと、それに続いて、教育のこと、地域でのこと、初対面とは思えないくらい色々お話ができました。彼女が言うには「反原発を考える中で、自分の身を守ることだけでなく、日本が高度成長の中で失ってきたものを見つめ、他人の痛みがわかるやさしさ、痛みを共有できる子育て

をした。いし、そういう社会をめざしたい」と。  
(略)

映画の最後に、ホビ平和宣言の字幕が、感動的な音楽とともに流れます。「本当のホビの人は、相手を傷つけずに、いかに戦うかを知っているのだ。命を救うための戦い方を、走ること、折ること、体を使って病に陥る大地をいやすために：われわれはホビなんだ。ホビとして何ができるか」(宮田監督より)。

三月までの私の育休中の仕事として、この映画(16ミリ、72分、40万円)を、ライブラリーや組合で購入してもらえよう、働きかけたいと思っています。

#### 〈We大阪の会〉に参加して

◆十一月十五日、We大阪の会に参加しました。これで四回目ぐらいですが、参加させていだいてよかったなあと思っています。半田さんが話された三重県教組の取り組みに興味深うかがいました。

こしばらく、すっきりしない思いで考えていたことがあります。旭高校の宮崎さん、松原高校の中杉さん、園田学園の河上さんのお話を聞くと、共通点として、学校全体が人権教育、解放教育の視点に立った取り組みをしている。私たちのめざしている家庭科が根

づくには、本当にそうじゃないといけないと思うんです。

兵庫の場合、三年の選択で男子がたくさんの学校は出てきているのですが、今の受験体制にのっかったかたちで、類型を細かく分ける中で、しんどい子の受け皿的な役割を果たしているのを、どう評価したらいいのか。具体的に言うと、男女共学を学校の中ですつと言いつける姿勢や、人間的魅力、校

内で男子が家庭科をとることの違和感をなくした所など、よくやっている方が兵庫県にもいらつしやるのですが、でも文部省や県教委のいう家庭科にとりこまれないかという不安などが、私の中にもやもやしていました。三重県のお話をうかがい、理想論から入らなくても、志はしっかり持ちながら、やれるところから、こつちにとりこんでいったらいいのかしら、と思いました。(西本和代)

### 編集室からあなたに

◆We 8年目のテーマ決定。長い間親しんでいただきました表紙も、加藤由美子さんから長野ヒデ子さんにバトンタッチ。長野さんは『家庭科新時代』の装幀をして下さった方です。連載もフレッシュなメンバーに替わります、ご期待下さい。

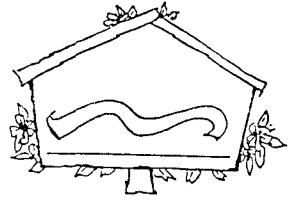
◆編集部一同、ドキドキしながら、あなたの振替をお待ちしています。ぜひご購読を継続して下さいませよう。また、お仲間を一人でも多く誘って下さいますよう、心からお願いいたします。

◆8年目のWeのテーマな、次の通りです。

- 4月号 何をねらうか「生活科」
- 5月号 内申書—その功罪を問う
- 6月号 家庭科—何を評価するのか
- 7月号 生涯学習社会はバラ色?
- 8・9月号 地球市民として生きる
- 10月号 食べものから地球を見る
- 11月号 からだ—その不思議
- 12月号 コミュニケーション—私をひらく
- 1月号 フェミニズムの“いま”
- 2・3月号 教育の中の性差別
- 夏増刊号 家庭科の可能性を探る
- 冬増刊号 夏季フォーラムの記録

◆クリスマスプレゼントにウイ書房の単行本を!  
あなたの名入りの美しいカードを添えて贈ります

## Weに なんでも言おう なんでも聞こう



◆「いのちを医療に任せていいのか」は、さまざまな視点からの記事になっていて、勉強させてもらいました。

「管理的な学校の一人の教員として」を読んだから、「新しい家庭科、高等学校では一枚の布から」を読むと考えます。この一枚の布からの布の扱い方はすてきです。森南海子さんのお仕事をわたしは好きです。が、世の中はそうではない方へ行ってしまうている。

わたしは、ブラウスぐらいは自分で縫います。わたしの若いころは、人の集まる所にはどこでも布を売る店がありました。今はそうではありません。売っているのは、できあがった服ばかりで、その中から選ぶ。名のあたるデザイナーのが売れる。さらに、デパート

が自分のところのデザイナーを育てる。

そんな中で、髪の毛が眉毛に一本もかかってはいけない。スカート丈はものさしではかるといような管理で育っている世代です。採寸なし、型紙なし、布をからだにあててみて作る一枚のパンツは、作るときは、きつとおもしろいと思うけど、翌日学校へそのパンツをはいて行ったら、教師に叱られるにきまっています。そして、そういうパンツの作り方は、次には自分のものをうちで、採寸なしで布をあてて作る行為なり想像なりに結びついてほしいけど、そうはいかないでしょう。

むずかしいことを考えなくても、今の学校のあり方はひどいことになっているのは、はっきりしていると思います。「一センチ以上、額が見えるように髪を切る」とは、ドウイウコトだ、と人が驚いて卒倒している思いいます。髪は一晚ねている間にものびるものです。前夜一・一センチひたいが見えていたはずだけど、今朝歯をみがいていて鏡を見たら、〇・九五センチぐらいしかひたいが見えてないではないか。なんてことを考えなければならぬとしたら悲しいことです。その結果によっては、学校で教師がはさみを持って待ちかまえているなどということを、教師がしては

なりません。

数日前、陸中海岸と遠野への旅をしました。空気はよし、海は見え、山は黄、紅葉のまっ盛り。八戸からずうっと海ぞいにおりてきたのですが、驚きましたね。ここの土地では、子どもがみんな青のトレーナー上下、次の土地では子どもがみんな緑のトレーナー上下、また次の所では、中学生がみんなえんじのトレーナー上下、列車に乗り込んだきた女子高校生は、胸に名札をつけている。迷子になる年じやあるまいし、と思う。そして、朝六時と夜九時にはメロディーが鳴り響く。こんななかで、はい、布をからだにあててみてという教育をするのは、どんなにむなしき気持ちでしょうと思います。

トレーナーは汗を吸いませぬ。皮膚への肌ざわりもいいとはいえませぬ。洗うのもかわくのもかんたん。アイロンは要らない。手間かからず、安価。しかも環境の中で、悪い子を目ざとく見つけ出すのに便利、という理由で子どもに、朝から晩までそれを着せているとしたら、日本人は金持ちなんだろうです。なんて貧しいのでしょうか。いいえ、あれは自由意志で着ているのです、というのでしたら、そんな画一志向に子どもを育ててしまう教育



というものを考え直さねばなりません。

岡百合子さんの二ページほしいと、読みたいと思います。呂運亭という人は、それからどうしたのか、そこまでは一ページではおさまりにきれないでしょう。

クレイトン・ナフさんの「男の人のビール」は、わたしも気になっていることです。前は昼日なから、そんなにアルコールは飲みませんでした。昼からアルコールを、ことにビールを、男の人は外でよく飲んでいました。だれもとめないけれど、「アメリカには、そういう人はアルコール中毒者だけ」とあります。昼でもビール飲みたい人は、夜はもっとビールを飲みたいでしょう。現実には多分飲んでいるでしょう。それではアルコール中毒になるしありません。いいえ、もうきつと少しアルコール中毒になっていると思います。それでいいのかしらと思う。飲むのは自由だ、と思って飲んでいいのか、家族はどう思っているのかな、と思う。

「波」、民教審にちよつとふれておられますが、新聞でもちよつと取り上げられてはいませんが、その内容をWeは二ページぐらい使って（民教審が開かれるたび）、わかりやすいかたちで、その始終を報道してくださるといいと

思う。どんなことが論議され、それは論議されるだけなのか、どこかへ届けられるのか知らない、と思いました。（横浜・羽生槇子）

◆札幌は、もう冬です。泊原発にも火が入りましたが、反対運動をあきらめずしぶとくやつていこうと思っています。先月、支払い期限をすぎて二日目、電気を切られてしまいました。10本近くのロウソクで一夜を過ごし、その光で「宿題をする」と小四の娘が言い張ります。原発反対で電気を切られたことを担任に知らせたくもあつて、そのことを電話したのですが、翌日「アー、Oさんは宿題出さなくてもいいよ」と言われただけだったそうです。つれあいが生活クラブ生協に入っているのに「学校内での署名はやめて下さい」と言う担任です。

10月号に「トリ・ムシ・サカナの子守歌」がありました。「エー、ウツソー、何で今ごろ」という感じがです。友人の「見ない方がいいよ」という勧めもあつて、私は見ていないのですが、今日改めて、他の友人にこの映画のことを聞いてみたところ、やはり、ひどい、というのでお知らせします。亀井文夫監督の名につられて見た人も多かったようです。でも、この人も「人Ⅱ男」であつて、フ

エミニズムの視点は全く持ちあわせていないというのが、大方の意見で、上映が始まった当初から「勝手に推薦者に名前を使われた」とか「取り下げたい」とか、見た人からの批判も多かったものです。（札幌・高橋芳恵）

◆塚越さんの「不満のやり場」を読み、今、子ども達の世界は、今の大人達のそれだと思ふのです。子供・若者のことが論じられる時、いつも私は、彼等より先に生まれた大人達のためなしたこと、そう、生き方総体の結果であるのにと、思い、今子供との暮らしの中で、じゃあ何を、せめてしない方が良いのかを思うのです。保護者という役割もあり、することの方ではるかに多いのですが、まず私や連れ合いが活き活き生き、愛し合える関わりをしたいと思うのです。突如、異星人となるはずはないと思うのです。

五歳、一歳の我が子、近所の子を見ていて、確かな事実は、私が遊び走り回った土、自然をコンクリートで固めてしまった大人達がある。生まれたばかりの子供に粉ミルクや、テレビや、添加物入り食品を安易に与え過ぎてしまう私達があるということです。市野忠氏の詩「私は書きたい」を「生きたい」と読み替えたいです。（鳥取・前田亨子）

# 十字路

している。

(由良サダコ)

〈北海道〉教師の非行意識―20代ほど保守的  
(北海道10/26)

厳しい校則、異常に細かな指導に対する疑問が広がっているが、教師も年代、性により「非行」のとらえ方に差があることが、十月二十六日まで開かれた教研全国集会・生活指導分科会で報告された。神奈川県高教組が県内の教職員千人を対象に行った意識調査によると、二十代教師が特異なほどに保守的、また、女性教師は一般に男性よりおおらかであることが明らかにされた。二十代と三十代は好対照を示し、七〇年前後の学園紛争体験の有無に理由を求め、「二十代は学校生活が安定したため、教師となっても秩序維持志向があるのでは」と分析、若い教師ほど体罰をふるうといわれる実態を裏付けた。

(高橋芳恵)

〈新潟〉「水と人間」共存を訴える (新潟日報11/5)

身近な視点で水と親しむことを目的とした

「新潟の水辺を考える会」は結成一周年を記念して、「水を肴に多めに語ろう'88」を催した。「よこはま・かわを考える会」から、水辺を核とした新しいライフスタイルが報告され、新潟の川を見なおし、子供たちの大自然の中の遊びを取りもどそうと呼びかけた。また、カラススライドによる信濃川的美が紹介された。

(山口久子)

〈長野〉女性広報紙を発行―雑誌的な軟らかい編集で (朝日11/1)

駒ヶ根市は、自治体では珍しい女性広報紙「LADIESこまがね」を発行した。十一月一日号が創刊号で、「女性の意見をもっと市政に反映しよう」との狙いで、雑誌的な軟らかい編集が特徴。市広報広聴係の女性職員と女性の市政モニター四人が編集委員。縦30センチ横21センチ、4頁建てで年四回発行する。創刊号は、消費生活展、市婦人問題研究集会の案内、「駒ヶ根」の風景写真、訪問販売問題、国民年金、税金についてなどを掲載

〈千葉〉校外実習めぐり騒ぎ―クラス担任を外す (毎日10/6)

四街道市和良比の同市立四和小学校(稲本誠造校長)で、十月四日、三年二組担任の渡壁隆志教諭が、無届けで同クラスの校外実習を行ったため、単独クラスの実習に反対の稲本校長は、五日、「教師としてふさわしくない行動」だとして同教諭をクラス担任から外した。校外実習は四日(火)午後一時に同校を出発、東京文京区の後楽園遊園地で遊び、東京ドームの日本ハム、近鉄戦を見学し、午後九時に帰校する日程。場所、日時は、児童らが話し合って決め、同教師が父母に了承を取った。三日午後、この計画を知った校長が中止を指示し、児童らの父母に電話で中止を連絡した。しかし、四日登校した児童らは再び話し合い、行くことを決め、七人を除く十九人が実習に参加した。

(木田直子)

〈神奈川〉運動会で日の丸掲揚トラブル (朝日10/5)

相模原市の市立双葉小学校で、十月二日の運動会開会式の日の丸掲揚の際「君が代」の

テープ伴奏とともに、ボールの三分の一ぐらいまで揚がった時、根本忠正校長がマイクで「A先生、国旗を見て下さい」と呼びかけた。旗はいったん止められ、テープをかけ直し、校長は再びマイクで「A先生、しっかり見て下さい」と呼び、掲揚されたという。根本校長は、「A先生は国旗の方を見ていなかった。いささか感情的になってしまった」という。A先生は思想、信条を強制することへの疑問があると前置きした上で「運動会を混乱させたくなかったので見ていました。マイクで叫ばれ、心外です」と話している。(渋谷裕子)

〈愛知〉「丸刈り指導やめよ」生徒の人権侵害 (中日10/22)

名古屋弁護士会は、十月二十一日、愛知県岡崎市立葵中学校に対し、「男子生徒に丸刈りの指導をするのは、長髪を希望する生徒の人権を侵害している」として、長髪規制を廃止するよう勧告した。勧告は同校に三男が通っている愛教大教授、森山昭雄さんから人権侵犯救済の申し立てによった。同中では'86年度に丸刈りを校則から削ったが、現在でも新入生への案内パンフには「丸刈り」が記載されている。森山さんの三男は長髪で登校し、担

任から何度も「髪を切ってこい」と説得されたという。県教委によると、県内の中学校四百七校のうち、半分強が丸刈りを校則などで定めている。岡崎市内の十七校はすべて丸刈りで、市教委は葵中の自主性に任せたいとしている。(平野利依)

〈京都〉反戦願い「女の納骨堂」建立 (朝日11/5)

戦争のために結婚できなかった女性の集い「女の碑の会」が反戦への思いと安らかな死後への祈念を込めた納骨堂を、近く京都・嵯峨野の常寂光寺境内に建立する。同会は'79年に九十余人で結成、同境内に「女ひとり生きここに平和を希う」という市川房枝さんの文字を刻んだ「女の碑」を建てた。碑ができて間もなく、納骨堂建立を計画したが、資金調達がうまくいかず、延びのびになっていたのが、寺の援助が得られることになり、一年後の完成をめざす。永代使用料は会員が三万円、会員外は約十万円の予定。(塚崎美和子)

〈鳥取〉手づくり同和教育で成果——身近な差別教材化 (日本海9/25)

同和教育が概念化して知識の理解だけに終

わっている——と言われているが、八頭郡船岡町の船岡小学校では、校区内で取材した身近な部落差別の実態を教材化し、真っ向から子供にぶつける同和教育を全学年で実践し、効果を上げている。教材の内容は、児童の祖父母の若いころの差別の実態を知らせる。校区内の被差別部落の老人の数が少ないことに気づかせ、厳しい生活条件が短命の要因になっていることを考える。PTAの結婚についての意識調査などさまざま。父母からは「寝た子を起こすな」的発案もあったが、教師と父母との熱心な話し合いによって理解が得られたという。(前田享子)

〈長崎〉10代の妊娠中絶530人 (長崎9/6)

県保健環境総務課によると、昨年県内で人工妊娠中絶を受けた女性は一万一千三百九人。このうち、中、高、大学生を含む十九歳以下は五百三十人。前年と比べると総数で三百四十四人、十代で二十七人減っているものの、佐世保市内では逆に、総数で三十人、十代で三十三人増えている。女子人口千人に対する人工妊娠中絶の実施率をみると、全国平均が16・0に対し、本県は29・6で全国一高い数字となっている。(河野瑞枝)

## 葦山高校入試差別・家庭科男女共修

——衆議院文教委員会で取り上げられる——

’88年10月21日、江田五月氏の質問に、中島源太郎文部大臣・古村澄一文部省初等中等局長が答弁した内容を第113回国会衆議院文教委員会議録第4号によって、お知らせします。

### ●葦山高校理数科入試の男女差別問題

○江田委員（略）葦山高校では理数科、これは特に優秀な生徒を集めて小人数でどんどん教育していくというようなことでつくられたエリート養成コースということなのだと思いますが、その理数科で家庭科をやらないで済むように、定員40人のところを女子の合格者を5名未満、4名に抑えた。そのため女子の中の5位の生徒の成績は男子で合格した36名のうちの3位の生徒と同じ成績なのにその女子は不合格となった、こういうことなのですね。（略）文部省、これは御存じでしょうか。

○古村政府委員 御指摘の静岡県葦山高等学校の理数科におきます選抜の経過については、私たちが県から報告を受けております。

### ○江田委員（略）

○古村政府委員 県からの報告によりますと、一つは、事前選抜あるいは合格内定というものが先にあったのではないかとこの疑問につきましても、入学選抜試験はきちっとやっておりますから、そういった事前選抜ないし合格内定が行われた事実はありませんというのが第一点。第二点は、進路指導に問題はなかったのかということにつきましては、進路指導については若干行き過ぎがあったのではないかとこのことを認めております。それから、男女差別の問題につきましては、男女の区別によって入試を決めたという事実はございません、そういった報告を学校から受けたということを県から聞いております。

○江田委員 現実にはそんなことはないので、事前選抜というのはかなり行われておる。ですから、この葦山高校では入試の事前選抜の問題と理数科の男女差別の問題、それから県立高校における実質的な男女不平等な定員制、こういうことがあるわけですね。

私もいろいろな資料をいただいております

が、どうも静岡県の各高等学校進路指導の中身などを見ますと、ここの学校は男子はここまでの点数は入れるけれども女子はここまで点数がなければ入れないということがずっと並んでいるのですね。こういうものは明らかに男女差別だと思いますけれども、文部省、今の御報告をいただいてそれで事足りるのですか。

○古村政府委員 そういう報告でございましたので、やはりある程度そういったいろいろなことについて県民の皆様から批判が出てくるとこのことについては、そういったことがないように県教育委員会としてはしっかり学校を指導してほしいということをしり上げ、県の教育委員会としては、先ほどちょっとお触れになりましたが、理数科では女子に家庭科をやらないということについては、やはり女子には家庭科をやしてほしいということを県の教育長も校長会に向かって要望いたしましたようでございますので、ひとつ県の努力を待ちたいというふうに思っております。

○江田委員 公式にはなかなか、（略）受験勉強を一生懸命やりたいから女子を少なくするだなんてことを認めるのは困難だと思います。しかし、そういうふうに受け取られかねない現実があるわけですから、ひとつこれは改善に全力を傾けてほしいと思いますが、家庭科を思ひ嫌うというのでなくて、今むしろ家庭科を男の子にも一生懸命教えていかなければならぬという時代が来ているのではないかと。

また、そういう入試に余り役に立たぬ科目だから敬遠するというような人間がどんどんいい学校へ行き、上へ上へ上って行って世の中のリーダーになっていく、そういうことではもう世の中は動いていかなければ、21世紀を迎えられない、そういう時代になっていて、家庭科というものの、家庭科に限らずですけども、とりわけ家庭科というものを見直していかなければならない、そういう時代が来ている、これが教育に携わる者の共通した認識に

ならなければならないと思うのですね。(以下略)

### ●文部大臣の家庭科観

○江田委員(略) 文部大臣、突然家庭科と言われても面食らわれるかもしれませんが、私はこんなことを考えているのです。今までは、男は外で働き女は家で家庭を守る、そういう役割分担というのであるいはやってこられたかもしれないけれども、今は時代が随分変わって、女性も大いに社会参加していいんじゃないか、仕事も持っていこうじゃないか、男もひとつ家庭生活、子育て、こういうことに無関心でいられない。そういうことに無関心でひたすら外で働いて、定年になってほっとしたら、奥さんからもうあなた御用済みと言われて離婚を言い渡される。そういうことではいけないので、そうではなくて、男もひとつ外で仕事もするが同時に家庭の運営も女性と分担をしてやっていくという、その分担のやり方は家庭家庭でそれぞれにいろいろなタイプがあるでしょうけれども、少なくとも男子も身辺自立の学問、技術というものを子供のうちからきちんと身につけておかなければ、これは男自身が将来生き残れない、そういう時代が来ている。

(中略)

男女ともに、しかもこれは同じ時間に同じ場所で、同じ先生から同じ内容を男女が学ぶ、そういうことが必要になっている、こうしつこくしつこく主張してきたのですが、大臣、どう感じになりますか。

○中島国務大臣 私には江田先生の御指摘を拝聴しておりまして三つのことを考えました。一つは(略)人は支え合って生きていくもの、そういう意味では今優秀な女性の方々がどんどん社会活動をしておられますし、私も自分で、男女それぞれの役割分担はございますけれども、支え合ってそれぞれが生きていくという面があるなあと。

振り返って、私も政治に身を置いております者はどうしても家庭が別々になることがございますから、幸いと言ってはあれですが、身の回りのことは自分でいたす習慣がついております。朝食ぐらいは自分でつくる、飯を炊いて、洗濯あるいは身の回りは自分でやるという習慣をつけておかないと政治活動ができぬものですから、そういうところを見

ますと、男女分担というものが非常にオーバーラップしてきておることだというふうに二点目は感じます。

三点目は、家庭科といっても、家庭一般、それから生活一般、生活技術、こういう並列した中から必修の一つ選んでいただくということですが、そのときに、(略)進学の具として見ていくのかあるいは学校教育そのものが生涯学習の重要な基礎部分であるという自覚に立って選んでいただくかによって違ってくると思います。

私も学校教育というものは進学のための教育ではなくして生涯学習の一環としての学びやであるということを考えておるわけでごさいます、その意味からいけば家庭科の必修のとり方、それから重要性というものはますます認識されていかれること、私もそれを希望しつつ家庭科の充実を努めてまいりたい、このように考えます。

### ●女子差別撤廃条約と家庭科

○江田委員(略) ところで、検討会議から教課審を通じての文部省の基本的な考え方で、私の誤解ならばいいのですが、ちょっと心配になることがあるので、聞いておきたいのです。

それは女子差別撤廃条約についての考え方です。検討会議の報告とか、教課審での当時の松永文部大臣のあいさつとか、あるいは教課審中間まとめにも、女子差別撤廃条約という文言がずっと入っております。女子差別撤廃条約を批准するということが、世の中の大きな流れがその根本にあるのですが、これが家庭科見直しのきっかけになっていたわけですが、これが教育課程審議会の答申の中から消えてしまうわけです。女子差別撤廃条約の意義はもう終わったんだからやめてしまおう、こういう趣旨ですか。

○古村政府委員(略) 私たちはその考え方はずっと貫き通している。当然女子差別撤廃条約の精神を答申の中で具現した。中間まとめを台に置いて最後の答申に入ったわけですから、そういったことは全くございません。

○江田委員 女子差別撤廃条約というのは、実はかなり重要な条約でございまして、特に家庭科の關係では第10条がありまして、その本文は、「締約国は、教育の分野において、女子に対して男子と平等の権利を確保するこ

とを目的として、特に、男女の平等を基礎として次のことを確保することを目的として、女子に対する差別を撤廃するためのすべての適当な措置をとる。」(b)項は、「同一の教育課程、同一の試験、同一の水準の資格を有する教育職員並びに同一の質の学校施設及び設備を享受する機会」、そして(c)は、「すべての段階及びあらゆる形態の教育における男女の役割についての定型化された概念の撤廃を、この目的の達成を助長する男女共学その他の種類の教育を奨励することにより、また特に、教材用図書及び指導計画の改訂すること並びに指導方法を調整することにより行うこと。」(略)

要するに男女の役割の定型化、固定化というものを、(略)排していこうといういわば実践的課題を締約国に与えている条約、これが女子差別撤廃条約です。

それが別に条約で言われているからというのではなくて、大きな時代の流れ、21世紀を迎えるに当たって、各国ともが、世界じゅうがやらなければならぬ課題ということなので、10条(c)項というのは非常に重要だと思うのです。

私、今手元に文部省の初中局の視学官、津止さんという方と調査官の桜井さんという方の書かれた「教育課程審議会答申と家庭科教育」、そういう文書を持っておりましても、ここでは、今の10条の(b)項のことはお書きになっておるのですが、しかし、10条(c)項の方が抜けているのです。今の10条(c)項、つまり男女の定型化された役割分担というものを改めていくのだという、そこにこの女子差別撤廃条約の、ひいてはそれをきっかけとして家庭科を見直していく、その根本精神があるのだ、これは文部省も同じ理解と考えていいのでしょうか。

○古村政府委員 そのこのところは、私もそういうふうに思っております。

#### ●中学校の技術・家庭について

○江田委員 (略) 中学校の技術・家庭、これは木材加工と電気、家庭生活、食物、この4領域が必修、残り3領域以上が選択必修、こういうことになっていくということですが、この残り3領域については少なくとも半分以上は家庭領域の科目が確保されるべきだと思います。

というのはほとんどの生徒が、(略)高校へ進学して男女共修の家庭科を学ぶ、そういうことになるわけで、中学校でちゃんと家庭科を履修していない高校へのつながりができないわけですね。男子は木材加工、電気、家庭生活、食物、そしてあと3科目は全部技術領域、女子は選択必修の3科目が全部家庭領域、そういうような区分にならないように努力をすべきだと思いますけれども、これはいかがでしょう。

○古村政府委員 (略) 新しい学習指導要領に基づきまして具体的にどのような教育課程を編成するかということにつきましては、各学校がそれぞれの教育方針あるいは生徒の実態を踏まえまして決定すべき事柄であると考えておりますが、いずれにいたしましても、男女が協力して家庭生活を築いていくことあるいは生活に必要な知識、技術の修得などの基本的なねらいが達成されるようにということを目指して今度の教育課程を組み上げていきたいというふうに思っております。(以下略)

○江田委員 (略) 新しい教育課程は高校は69年実施、中学は68年で全面实施ということですが、ということは69年の高校一年生、すなわち66年の中学一年生から新しい教育課程を始めなったら高等学校にうまくつながらない、そういう問題があるんじゃないでしょうか。(略)

そこで、中学では新しい教育課程の家庭科に関する限り先取り、66年から男子にも家庭科をきちんと教えていく、そういうことをしなければ69年からの高校での家庭科の全面实施ということにうまくつながっていかないと思うのですが、この点、いかがですか。

○古村政府委員 まさに御指摘のとおりのことがあると思います。

そこで、高等学校の新しい学習指導要領の適用を受けます昭和69年度の入学生が円滑に高等学校の家庭科の授業を受けられるということをするためには、中学校において必修となります家庭生活と食物に関する内容について適切な履修が進められるように必要な措置をしていきたい。こういったことは移行措置といましていろいろな教科の中にあるわけですが、うまく新しい教育内容を子供が受けられるようなそういった移行措置については

十分配慮していきたいというふうに考えております。(以下略)

#### ●高等学校の家庭科について

○江田委員(略) 従来のように家庭一般というのが女子向き家庭科, 生活一般, 生活技術が男子向き家庭科, とりわけ生活一般, これが普通科の学生に, 生活技術が職業科の学生にと, 何かそういうようなことにだんだんなっていくんじゃないかな, そんな心配をする向きがあるのですが, これはどうなんですか, そんなことがあってはならぬと思うのですが。

○古村政府委員(略) 子供の能力, 適性あるいは興味, 関心等に応じることができるために, 家庭一般, それから生活技術, 生活一般といった選択の幅を広げたわけでございまして, それは男女とも同じ立場に立ってそれを選択していくということでございますので, おっしゃいますようなことにはならないようにということに考えております。

○江田委員(略) これまでの長い家庭科のあり方から考えて, 日本じゅうの家庭科に関係する人の頭を全部切りかえるというのは大変なことだから, そうすると, 勢い男女共学校で家庭一般と, もう一つ家庭科を置いて, 結果的に家庭一般は女子, もう一つの生活一般, 生活技術が男子, こういうことになりかねないので, ひとつそういうことではなくて, それぞれの子供のそれぞれの個性, それぞれの選択で行えるようにということの間違はなくやってほしいと思います。

ところで, この答申には, 「施設・設備の整備や担当教員の確保等の問題など学校の実態からみて止むを得ない場合には, 当分の間, 「生活一般」と関係の深い技術や情報などに関する内容の科目又は「体育」の履修をもって代替できるものとする。なお, この場合においても, できるだけ早期に家庭科に関する教育を十分に行うことができるよう条件整備に務める必要がある。」(略)

どの程度のことを「当分の間」とお考えなんですか。

○古村政府委員 「当分の間」といいますのは, 教育課程審議会からの答申では「当分の間」というふうになっておりまして, それをどの辺にしていこうかということについては, これから私たちの方も検討すべき問題だと思

っております。

そう長くないというふうに思っておりますが, そこのところを, それじゃ何年だということちょっと今の段階では申し上げかねますが, そういったことでございます。

#### ●男子高の施設設備の整備について

○江田委員 そう長くないというお答えなんです, 問題は施設設備ですね。現在, 家庭科を教える施設設備がない高等学校というのは一体どのくらいあるのでしょうか。

○古村政府委員 家庭科のない高等学校といえますか, 男子だけの高等学校というふうに考えますと, 男子だけの高等学校は全体で384校でございます。

ちなみに設置者別にいえば, 国立が1校, 公立が113校, 私立が270校というふうになっております。

○江田委員 今の男子校が384校, それに男女共学校でも, 例えば工業高校とかそういうところがあるでしょうから, 細かな数字はどうだか知りませんが, 全国の高等学校5,508のうち7百数十校ぐらいが家庭科の施設設備がない高等学校, だから1割少々ですか, (略)

69年までにはこの施設設備のない高等学校を限りなくゼロに近づけていくという努力をすべきだと思いますが, したがって, 「当分の間」というのはそう長くない間じゃないかと, もうまさに限りなくゼロに近い「当分の間」にするべく努力をする, こういう答えを期待したいのですが, いかがですか。

○古村政府委員 私たちも, 新しい指導要領が実施されます前にやはりそういった条件整備というものをしっかりしておきたいというふうなことは思っておりますが, 現実問題, 財政が絡んでくる話でございますので, 都道府県の対応の仕方あるいは国庫補助金の助成措置のあり方といったことを含めて, それじゃ68年までに全部そういったことが整備できるかということについては, なおまだ若干の疑問がある。ということになりますと, 私が先ほど申し上げましたように, 「当分の間」というのは余り長い期間を置きたくない, しっかりとやれるように条件を整備をしていきたいというふうに思っておるわけでございます。(以下略)

(情報のページは93頁からお読みください)

# あんな

## ★自民党 消費税導入を強行採決

### ——税制改革法案が衆院通過★

消費税導入を軸とする税制改革関連法案は11月10日午後5時42分、衆院税制問題等調査特別委員会で株式公開（上場や店頭登録）に伴う売却益への課税強化など一部修正を加えたうえ、自民党の単独強行採決により可決された（11. 11付各紙）。

野党側が採決を白紙に戻すべきだと原衆院議長に申し入れ、空転していた国会は、自民、公明、民社3党の合意で社会、共産両党など欠席のまま衆院本会議を開き、「リクルート問題調査特別委員会」の設置を決めた。続いて同特別委でリクルートコスモス未公開株を譲り受けた26人（延べ30人）について実名を記したリストを公表、江副浩正・前リクルート会長ら3人を証人喚問することを決議した（11. 16付各紙）。

自、公、民3党の徹夜の折衝を経て後、社、共両党など欠席のまま衆院本会議では、来年4月の実施から半年間は「消費税の執行を弾力的に運営する」など一部追加修正のうえ、税制改革関連法案を自民党と一部の無所属による賛成多数で強行可決、参院に送った（11. 17付各紙）。

また、この第113臨時国会は、11月24日午後の衆院本会議で、会期を自民党の要求通り、12月28日までの34日間再延長することを、自民党の賛成多数で議決。7月19日の召集以来、163日間の史上最長のロングラン国会となった。これにより、政府・自民党の目指す税制改革6法案の会期内成立の可能性が一段と強まった（11. 25付各紙）。

## ★リクルート疑惑さらに拡大

### ——江副氏、リクルート特別委で証言★

衆院リクルート問題調査特別委員会は11月21日、江副浩正・前リクルート会長、高石邦男前文部事務次官、加藤孝前労働次官

の3人を証人喚問した。同日の喚問では、疑惑の核心に迫るような新事実が乏しかったが、11月15日にリクルート社が同委に提出した、政界関係者だけを実名とした譲渡先リストについて、江副氏が公表を拒否した民間人の中に、今後新たな政界関係者が浮上する可能性を残した（11. 22付各紙）。

## ★エイズ予防法、委員会で可決★

衆院社会労働委員会は、血友病による被害者を除くエイズ感染者の年齢や性別などを、医師が知事に報告することなどを盛りこんだ「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律」（エイズ予防法）案を自民、民社両党の賛成多数で可決した（10. 26付各紙）。

## ★米艦訓練弾発射

### ——運輸省首脳が批判「米海軍、これでは狂犬」★

房総半島の東京湾岸口で11月9日、米海軍誘導ミサイル駆逐艦「タワーズ」（3370トン）が国際法に違反して射撃訓練を行い、海上保安庁の巡視船「うらが」（3231トン）の至近に数発の訓練弾が落下する事件があったが、この事件が丸一日伏せられていたのは、外務省が対米配慮などから公表を渋った結果であることが11月11日判明した。

運輸省首脳が同日朝、明らかにしたもので、同首脳は米国は『日本を守ってやっている』ということだが、これでは「番犬」が「狂犬」になったのと同じだ」と言い切り、外務省の対応と米海軍のモラルについても厳しく批判した（11. 11付各紙）。

## ★来年度防衛費3年連続「1%」突破

### ——3兆8800億円

大蔵省は11月20日までに、1989年度予算の防衛関係費を前年度比5%弱の伸びで、3兆8800億円程度とする方針を固めた。名目GNP（国民総生産）との対比では1%を突破する見通して、1987年度以降3年連



続して当初予算段階では1%を上回ることになる。防衛庁の概算要求（前年度比6.13%増）を厳しく査定するもののGNP1%台を認めるのは、ブッシュ新政権になっても米国からの防衛費分担圧力は強まりこそすれ弱まることはないとの判断に加え、来年4月からの消費税が実施されると自衛隊の武器、弾薬や糧食費にも税率3%の負担がかかるためである（11. 11付毎日）。

## ★大気汚染は企業責任

### ——川鉄公害訴訟★

千葉市の川崎製鉄千葉製鉄所の近くに住む公害病認定患者や家族、住民ら196人が、同社を相手取り、大気汚染による健康被害の損害賠償請求約11億円の支払いや、溶鉱炉操業と汚染排出の差し止めを求めた「川鉄公害訴訟」の判決が、11月17日午前10時、千葉地裁民事二部（加藤一隆裁判長）で言い渡された。判決は、原告患者の住む地域の大気汚染を「川鉄が主要な排出源である」と認定、「健康被害との間に相当な因果関係がある」とし、立地、操業時の公害防止策を怠ったとして川鉄の責任を認め、損害賠償の支払いを川鉄に命じた。溶鉱炉の操業差し止めは棄却、汚染物質の排出差し止めについては却下した。

現在、大気汚染公害訴訟は川崎市など全国各地で争われているが、今回の判決が比較的汚染の低かった千葉市で企業の責任を認めたことは、健康被害を訴える患者側にとって大きな弾みとなった（11. 17付各紙）。

## ★「織田が浜訴訟」住民敗訴

### ——埋め立て、行政の裁量内★

瀬戸内海最大級の自然の砂浜といわれている愛媛県今治市の織田が浜を埋め立てて大型貨物船用港湾を造る市の計画は、自然景観保全をうたった瀬戸内海環境特別措置法案（瀬戸内法）や公有水面埋立法に違反する一と、武内茂夫さん（72）ら地元住民1050人が、岡島一夫今治市長を相手に、工事にかかる市の公金支出差し止めを求めた「織田が浜住民訴訟」の判決が11月2日午前10時、松山地裁であった。山下和明裁判長は、行政の裁量を大幅に認めて住民の訴えを棄却した（11. 2付毎日）。

## ★所得格差 大きな不満

### ——下層意識2割越す

経済企画庁が11月2日発表した1988年度国民生活選好度調査で、現在の生活に満足している人が年々減り、不満派が3割近くに達したという結果が明らかになった。自分の生活を「下層クラス」と見る人の比率も、初めて2割を越え、貯蓄や収入への不満が強いことがわかった（11. 3付朝日）。

## ★好調続く女子の就職率

### ——75%越え男子との差、縮まる★

文部省は11月15日、今春の「大学等の卒業後状況調査」をまとめたが、大学卒女子が初めて10万人時代に突入、女子就職率は過去30年間で最高の75.2%に上った。大卒男子との格差は年々縮まり、1953年以後最小の3.6ポイント差に。短大女子の就職率も83%と過去最高を記録、女子学生の職場進出は景気拡大や男女雇用機会均等法などにより一段と拍車がかかった（11. 3付各紙）。

## ★新任教師、今春、過去10年で最底

### ——小・中学生減り、採用手控え★

文部省が10月28日までに、今春の全国教員採用状況をまとめたところ、新しく教壇に立てたのは2万8413人と、この10年間で最も少なかった。1980年に比べ4割もの減。今後も採用数が増える見通しはなく、教師への道は狭く厳しい（11. 3付毎日）。

## ★韓国学生、2万人デモ★

全斗煥前大統領一族の疑惑問題で、全氏夫妻の逮捕を叫ぶ学生約2万人が、全国各地でデモ、警官隊と厳しく衝突。ソウルの中心街では1988年2月の盧泰愚政権成立以来はじめての大規模なデモとなった（11. 3付朝日）。

## ★米大統領選——ブッシュ氏圧勝★

レーガン政権の次を決める米大統領選の投票が行われ、共和党の現職副大統領ジョージ・ブッシュ氏（64）が、民主党のマイケル・デュカキス・マサチューセッツ州知事（55）を破り、来年1月20日、第41代大統領に就任する（11. 9付各紙）。

★Weバックナンバーのご案内★

〈vol.1〉〈vol.2〉〈vol.3〉(品切れ)  
〈vol.4〉

12月号 人間と土を生かす  
1月号 くらしの文化を語る  
2・3月号 水はいのちの泉

〈vol.5〉

4月号 幼い日—大人は忘れてしまった  
5月号 子ども—大人の勝手な思い込み  
6月号 いじめ—その根っこには何が？  
7月号 性—小・中・高校生は何を思う？  
8・9月号 こともたちへ—大人になる旅

86年夏増

親—いま、学校に何が？  
10月号 家庭科—いま新しい地平に立つ  
11月号 家庭科—どう変える、どう変わる  
12月号 平和—今年を顧みよ  
86年冬増 自分らしさをこそ

1月号

女性—世界を変え得るか  
2・3月号 明日—人はみな成熟に向かつて

〈vol.6〉

4月号 先生は悩んでいる  
5月号 情報化社会の光と影  
6月号 学校給食で論争しよう  
7月号 「制服」着る、着せられる

87年夏増

女たちの教育改革提言  
8・9月号 「原発」知らなくていいのか  
10月号 機会均等法、何が変わった？  
11月号 「家族」どう変わる、どう変える？  
12月号 「国際居住年」って何だった？  
87年冬増 ゆたかさを防ぐ

1月号

Weのルネッサンス

2・3月号

新教育課程をどう考えるか  
〈vol.7〉

4月号

なぜ、行くのか、学校へ  
5月号 学校—絶望—希望？  
6月号 学校—今、親にできること  
7月号 学校—家庭科にコンピューター

8・9月号

コンピュータ、何をどう変える  
88年夏増 教育はどこへ  
10月号 食と環境といのち  
11月号 いのちを医療に任せていいのか  
12月号 マスコミと文化の変容

WE EDITOR'S NOTE

◆教育委員の準公選をすすめるための全国交流集会が先日、三鷹市で開かれた。

シンポジウムの中で、「問題児さがしの性格テスト」が報告され、分散会でも各地から同じような実施の報告があった。教委で予算化され、親には断わりもなく、学校で一斉に行い、結果は本人にも知らされず、「指導」の参考にする。(青木)

◆青春ZIGZAGもあと一回で終了。夢を語る若い人たちに会って、「元氣」をたくさん分けてもらったことに感謝。学校を含めて現状への告発の声を聞くことは、拍子抜けするほどになかった。自分らしさを失わず、周りは周り、自分は自分と見えるしたかさをどうやって育てていったのだろうかと思う。(稲邑)

◆表紙の加藤由美子さんが次の単行本『子ども発、大人へ』(「学習の主人公」&小沢牧子)の表紙カバーの打ち合わせに来て下さった。何年間もの表紙づくりの苦勞を独特の話術と笑顔で語る。私達は今ごろになって「まあ、そうだったの」と感心したり、驚いたり。穏やかな秋の午後、楽しいひとときでした。(中野)

◆「こだま」が反響して、何人かの方から意見や感想をいただきました。やはり文章にして寄せて下さるのが、読者の皆様と問題を共有して考えることができ、うれしいです。

◆読者参加による誌面創りが、編集部の一助です。一九八九年を迎えて、あなたもぜひWeに登場して下さい。(西内)

★フォーラムの前から通院していたのですが、体調は徐々に悪化、東京女子医大の診断で宿痼をかかえこんだことがわかりました。全力疾走のくらしぶりを変え、減速して、体の声に耳を傾けながら歩こうと決意したとき、優しい世界が現れました。若い頃、結核とつきあった体験は、病いの共生への覚悟をつけさせてくれます。弱さを自分の中に認めること、大事だなあと

思います。★次号は「上すべりの国際化」です。(半田)

〈表紙の言葉—加藤由美子〉  
「白菜はね、こうして新聞紙にくるむと日持ちするよ」と義母が教えてくれた。育った家でもきくと教わってただろうに、私は知らなかった。以来白菜を見ると、耳に入れてくれた義母と、親不孝した母とに、同時に頭を下げてます。

新しい家庭科—

Vol. 7 No. 11 1988年12月20日発行  
¥550(年間購読料・増刊号含¥6900)  
編集兼発行人/半田たつ子

発行所/(有)ウイ書房

〒182 東京都調布市西つつじヶ丘2-25-14

☎03(326)1380 振替 東京6-59867

印刷所/(有)岩佐印刷所 〒112 文京区春日1-6-7

<p><b>北海道</b>  <b>&lt;旭川&gt;</b>京栄堂、樋口、富貴堂  <b>&lt;札幌&gt;</b> 北東京堂、維新堂  <b>&lt;島根&gt;</b>ダイヤ&lt;苦小牧&gt;熊谷  <b>&lt;伊達&gt;</b>新生堂&lt;函館&gt;神田、森文化堂  <b>青森県</b>  <b>&lt;青森&gt;</b> 成田本店 &lt;弘前&gt;とよはら &lt;三沢&gt; 好文堂  <b>岩手県</b>  <b>&lt;盛岡&gt;</b>東山堂&lt;花巻&gt;誠山房  <b>&lt;水沢&gt;</b>松山  <b>宮城県</b>  <b>&lt;仙台&gt;</b>八重洲、萩書店、高山、千忠、宝文堂&lt;古川&gt;高山  <b>&lt;泉&gt;</b>ホビット館  <b>秋田県</b>  <b>&lt;秋田&gt;</b>加賀屋、たかのずや、荒川 &lt;大館&gt;石川 &lt;湯沢&gt;おびきゅう  <b>山形県</b>  <b>&lt;酒田&gt;</b>八文字屋、遠藤&lt;山形&gt;高陽堂、ばんべい、教育用品  <b>&lt;鶴岡&gt;</b>阿部久  <b>福島県</b>  <b>&lt;福島&gt;</b>西沢&lt;郡山&gt;松文堂、すばる &lt;会津若松&gt;ニシザワ &lt;いわき&gt;BSオオスカ&lt;梁川&gt; 大竹 &lt;石川郡&gt; 江戸屋  <b>群馬県</b>  <b>&lt;藤岡&gt;</b>川島朝日堂 &lt;前橋&gt;アルプス社、遊書館 &lt;中之条&gt; 島村 &lt;渋川&gt;正林堂  <b>栃木県</b>  <b>&lt;宇都宮&gt;</b>杉山 &lt;足利&gt;関口  <b>&lt;栃木&gt;</b>福田屋  <b>茨城県</b>  <b>&lt;水戸&gt;</b>ツルヤB.C &lt;土浦&gt;白石、マゼン  <b>埼玉県</b>  <b>&lt;浦和&gt;</b>若淵、須原屋 &lt;川口&gt;新井、ブックスサトウ、&lt;越谷&gt;日野屋&lt;東松山&gt;比企文化社、&lt;和光&gt;山屋&lt;狭山&gt;楓書房&lt;志木&gt;宮川 &lt;大宮&gt;阿里書房、岩井&lt;飯能&gt;安藤芳文堂&lt;入間&gt;ヤマトウ &lt;熊谷&gt; 神田弘文堂 &lt;鴻巣&gt;奥沢  <b>千葉県</b>  <b>&lt;船橋&gt;</b>前原かつば、西武B.C、はつらつ書房&lt;松戸&gt;元山&lt;津田沼&gt;大和屋 &lt;佐原&gt;多田屋&lt;市川&gt;大和、千里堂 &lt;成田&gt;中台書房&lt;四街道&gt;モンシェ堂  <b>千代田店 &lt;東葛飾部&gt;</b>ブックスきさきさい  <b>東京都</b>  <b>&lt;千代田&gt;</b>日成堂、書肆アセス、三省堂本店、書泉グランデ、東京堂、八重洲B.C、笠原松文堂 &lt;文京&gt;ピッピ &lt;豊島&gt;池袋、紀文堂、四季書房 &lt;墨田&gt;文栄堂&lt;杉並&gt;木風舎、新愛、プラサード、</p>	<p>たつみ書房、西萩、結、大正堂、みどり書房、山口&lt;新宿&gt; 紀伊國屋、模索舎、風書房、伊野屋&lt;渋谷&gt;すべーす、えいがさい&lt;練馬&gt;いずみ&lt;葛飾&gt;宏精堂、中村、稲田、大和&lt;世田谷&gt;やまべ、山下、ドン書房 &lt;北&gt;愛京堂 &lt;大田&gt;三州堂、藤乃屋&lt;荒川&gt;昌栄堂&lt;江東&gt;吉田書肆部、ブックロード  <b>&lt;品川&gt;</b>雄文堂 &lt;目黒&gt;中川 &lt;足立&gt;ブックスアオキ&lt;三鷹&gt;第九書房、たべもの村 &lt;武蔵野&gt;いかりし&lt;調布&gt; 神代、小松 &lt;小金井&gt;かごや &lt;府中&gt; 国府書店会、一三三書房&lt;国分寺&gt; 吉野 &lt;国立&gt; 増田、増田富士見台店、リーウ&lt;三樹&gt; &lt;立川&gt; オリオン書房、オリオンウイロ店、泰明堂、石井&lt;小平&gt; 和中、明文堂、大島&lt;清瀬&gt;マルオカ、飯田、省文堂 &lt;町田&gt;久美堂 &lt;日野&gt; 南友堂 ブックス伊藤 &lt;東久留米&gt;黒目書房  <b>神奈川県</b>  <b>&lt;横浜&gt;</b>有隣堂、栄松堂、ともだち、みどり書房、有文堂、博修堂、水野、蓬萊堂、和田書房、村上&lt;川崎&gt;北野、早川、大塚、大塚読売ランド店、ホーエイ川崎 &lt;相模原&gt;中村書房 &lt;鎌倉&gt; 大船書房 &lt;相模大野&gt;相模書房&lt;藤沢&gt; 東松堂 &lt;茅ヶ崎&gt;文泉堂 &lt;小田原&gt;伊勢治&lt;平塚&gt;サクラ&lt;大和&gt; 中央 &lt;厚木&gt; 内田屋書房、&lt;大和&gt;いずみ  <b>静岡県</b>  <b>&lt;静岡&gt;</b>吉見、江崎外商部  <b>&lt;磐田&gt;</b>あつみ &lt;浜北&gt; 谷島屋 &lt;浜松&gt;遠州堂、稲勝、湖南 &lt;沼津&gt;マルサン、ランケイ社 &lt;清水&gt;戸田&lt;下田&gt;村上&lt;焼津&gt;谷島屋&lt;富士宮&gt;小長谷 &lt;榛原郡&gt;大石  <b>愛知県</b>  <b>&lt;一宮&gt;</b>文正堂、資然堂&lt;名古屋&gt;ウニク、谷口正文館、白樺書房西店、白揚、竹中、中目書房、きたやま、丸山、ちくさ正文館、兼松、八青、前田、ポランの広場&lt;江南&gt;青雲堂&lt;豊橋&gt; 文教、耕文堂 &lt;豊田&gt; 鈴彦 &lt;岡崎&gt; カマクラ文庫 &lt;尾張旭&gt; 活人堂&lt;瀬戸&gt; 三浦 &lt;西尾&gt;黒部&lt;愛知郡&gt; 日進書房 &lt;刈谷&gt;酒井日進堂  <b>岐阜県</b>  <b>&lt;岐阜&gt;</b>文光堂&lt;恵那&gt;松林堂  <b>新潟県</b>  <b>&lt;新潟&gt;</b>栗山、万松堂、文信堂 &lt;上越&gt;玉川、春陽館&lt;新潟&gt;英進堂&lt;長岡&gt;愛張&lt;栃尾&gt;稲豊</p>	<p><b>富山県</b>  <b>&lt;富山&gt;</b>清明堂&lt;高岡&gt;清文堂 &lt;氷見&gt;北潮善&lt;新湊&gt;川辺  <b>長野県</b>  <b>&lt;岡谷&gt;</b>笠原 &lt;松本&gt;新光堂、りょうん堂&lt;長野&gt;平安堂&lt;上田&gt; 英文堂 &lt;飯田&gt; 平安堂 &lt;大町&gt;塩原&lt;須坂&gt;山下 &lt;上水内郡&gt;穂屋  <b>石川県</b>  <b>&lt;金沢&gt;</b>うつのみやセールセンタ、北国書林 &lt;鹿島郡&gt; 千間  <b>福井県</b>  <b>&lt;福井&gt;</b>ひまわり、品川  <b>奈良県</b>  <b>&lt;天理&gt;</b>海老山&lt;奈良&gt;広谷屋 南都書林、たけだ  <b>三重県</b>  <b>&lt;松阪&gt;</b>中村&lt;伊勢&gt;古川&lt;桑名&gt;潮&lt;上野&gt;山本芳文堂  <b>大阪府</b>  <b>&lt;大阪&gt;</b>紀伊國屋、ユーゴー、樋口書籍、米原十六堂、藤川、学の友、西坂、呼文堂、もり、富士原文信堂、飯田集英館、川口文堂堂、坂口、篠田、丸山、青泉社 &lt;東大阪&gt;セバリヤ、栗林 &lt;和泉&gt;かつらぎ &lt;豊中&gt; 昌文堂、 豊文堂、セシリ、東文学館 &lt;高槻&gt; コーベックス西武、グイハン書房&lt;池田&gt;春江 &lt;岸和&gt; 和子、齊藤&lt;堺&gt;ワールド、西村、清城堂、三教堂、登美屋、みいけ、カツヤ書房&lt;茨木&gt;サノヤ&lt;寝屋川&gt;中村興文堂、寝屋川団地&lt;八尾&gt;西川&lt;吹田&gt;ソルヤ &lt;松原&gt;川口文光堂  <b>京都府</b>  <b>&lt;京都&gt;</b>松香堂、オデッサ書房、中島書房、洛陽、ジュンク堂&lt;宇治&gt;大久保、京都書院、井田 &lt;長岡&gt; 恵文社神足店&lt;亀岡&gt;亀岡書房&lt;舞鶴&gt;舞鶴堂和歌山県  <b>&lt;和歌山&gt;</b>宇治、有馬 &lt;新宮&gt; 荒尾成文堂  <b>兵庫県</b>  <b>&lt;神戸&gt;</b>流泉書房、日進堂、文進堂、明文館、漢口堂、中山書房 &lt;宮西&gt;イカロス書房&lt;尼崎&gt;宣文堂、塚新西武B.C &lt;姫路&gt; 姫路丸善、浅野八代&lt;明石&gt; 学友書房 &lt;豊岡&gt; ひさや&lt;三木&gt;三木ブックス、サンテラス&lt;龍野&gt;伏見屋&lt;加古川&gt;ユーカリ&lt;多紀郡&gt;小山 &lt;糸島郡&gt;安井  <b>岡山県</b>  <b>&lt;笠岡&gt;</b>池田成章堂&lt;井原&gt;金森 &lt;岡山&gt; 福島かねつき堂、丸善岡山 &lt;倉敷&gt; ニビスヤ  <b>鳥取県</b></p>	<p><b>&lt;米子&gt;</b>今井MC本店 &lt;鳥取&gt; 富士  <b>島根県</b>  <b>&lt;出雲&gt;</b> 武田 &lt;鹿足郡&gt; 金山文具店 &lt;松江&gt;ブックス文化の友、嵐山 &lt;浜田&gt;吉田屋  <b>広島県</b>  <b>&lt;広島&gt;</b>やまびこ、いづみ、紀伊國屋、ニシヤ、黙乎堂&lt;尾道&gt;花本、啓文社&lt;福山&gt;岡田  <b>山口県</b>  <b>&lt;山口&gt;</b>文栄堂  <b>香川県</b>  <b>&lt;高松&gt;</b>みやたけ  <b>愛媛県</b>  <b>&lt;川之江&gt;</b>トウヤとおおほ &lt;松山&gt;丸三 &lt;北条&gt;片山  <b>徳島県</b>  <b>&lt;徳島&gt;</b> 雄徳堂徳野、森住丸善  <b>高知県</b>  <b>&lt;土佐山田&gt;</b> 依光 &lt;高知&gt; 金高堂  <b>福岡県</b>  <b>&lt;北九州&gt;</b> 白石、黒崎、ひとりわB.C &lt;福岡&gt; 金文堂、積城堂、金進堂、尾崎堂、高橋、金栄堂 &lt;筑紫野&gt;丸山スクーレ店&lt;直方&gt;みやはら&lt;田川&gt; 石川 &lt;久留米&gt; 菊竹金文堂、江頭&lt;筑後&gt;吉田&lt;大川&gt;山口 &lt;粕屋郡&gt;尾崎堂&lt;八女&gt;桐明  <b>佐賀県</b>  <b>&lt;唐津&gt;</b>まつら &lt;佐賀&gt;金華堂  <b>長崎県</b>  <b>&lt;長崎&gt;</b>好文堂、童話館&lt;浦溝&gt; 丸屋 &lt;佐世保&gt;金明堂  <b>熊本県</b>  <b>&lt;熊本&gt;</b>教育文化用品KK、三章文庫 &lt;本渡&gt;鶴田玉文堂  <b>宮崎県</b>  <b>&lt;延岡&gt;</b>池田&lt;宮崎&gt; 大山成文館、岩印  <b>大分県</b>  <b>&lt;大分&gt;</b>開書堂、今村、高校用品販売、福田 &lt;日田&gt;文化書房  <b>鹿児島県</b>  <b>&lt;志布志&gt;</b>スズキ &lt;鹿児島&gt;加世田  <b>沖縄県</b>  <b>&lt;那覇&gt;</b>朝野書房  <b>大学生協</b>          帯広畜産、東北、若手、山形、福島、新潟、群馬、宇都宮、茨城、埼玉、芝浦、日本女子、東京、東京家政、成蹊、東京工、お茶の水女子、桜美林、横浜国立、山梨、静岡、大妻女子、愛知教育、金沢、富山、和歌山、大阪市立、立命館、神戸、宮崎、高知、香川、鳴門教育、愛媛、琉球</p>
--	--	--	---